



A n n i v e r s a r y
Gunma Council, Scout Association of Japan



日本ボーイスカウト群馬県連盟
創立60周年記念誌



■群馬県連盟各団紹介〈桐生地区〉…………… 62

桐生第1団
桐生第3団
桐生第5団
桐生第6団
桐生第8団
桐生第10団
桐生第13団
桐生第14団
桐生第17団
桐生第20団
大間々第1団
伊勢崎第12団
藪塚第1団

■群馬県連盟各団紹介〈高崎地区〉…………… 76

高崎第8団
高崎第17団
高崎第18団
高崎第19団
高崎第21団
高崎第22団
群馬町第1団
玉村町第1団
吉井第1団
安中榛名第1団
松井田第1団
新町第1団

■群馬県連盟各団紹介〈前橋地区〉…………… 89

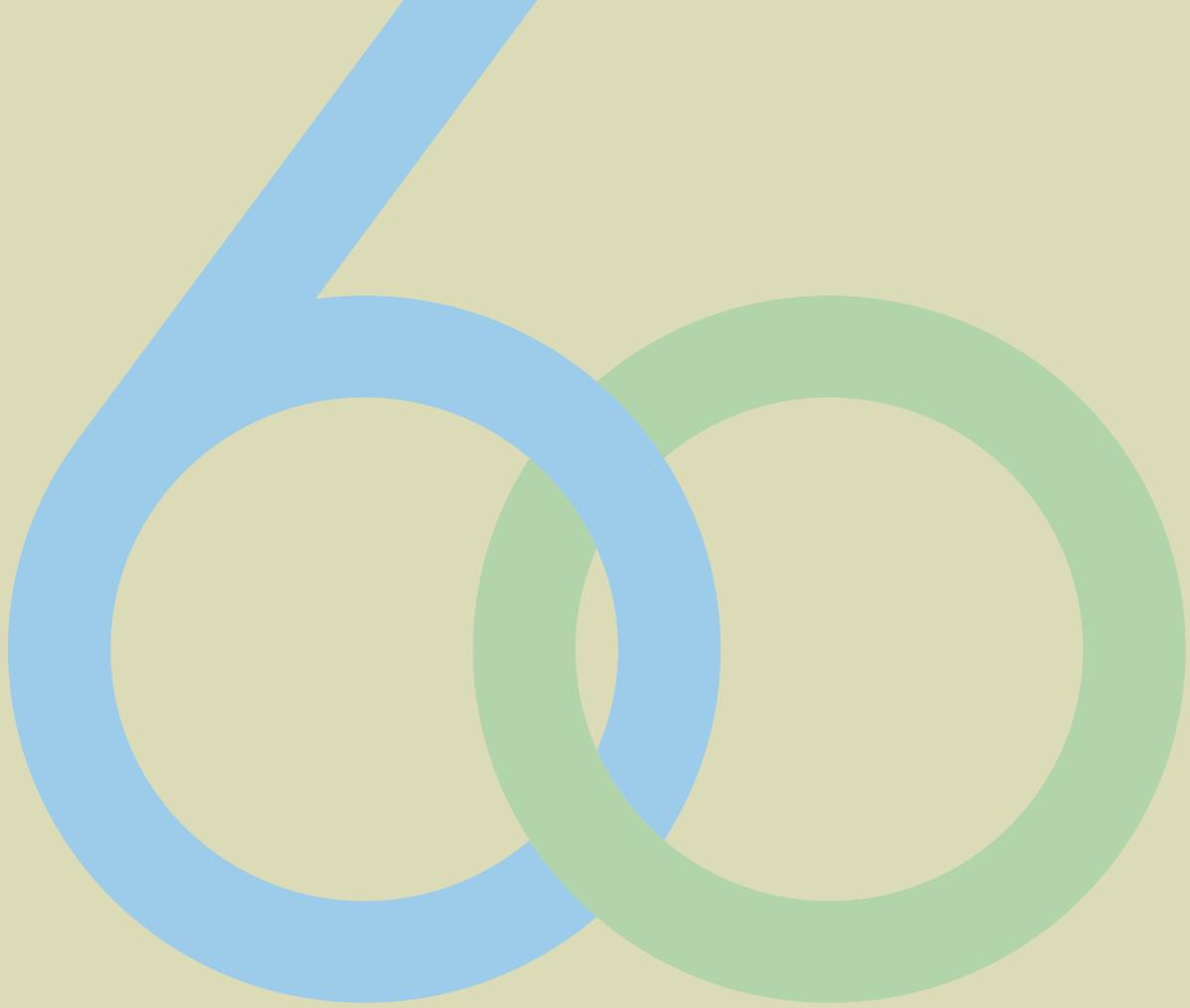
前橋第1団
前橋第3団
前橋第5団
前橋第7団
前橋第15団
渋川第2団
大胡第1団
沼田第1団

■資 料…………… 98

年表10年の歩み
ベンチャー富士スカウト
日本連盟表彰
群馬県連盟表彰
加盟員の推移
歴代県連盟役員
歴代事務局長
加盟登録団一覧
60周年記念事業実行委員会・編集後記

■付 録

創立20周年記念誌
創立30周年記念誌
創立40周年記念誌
創立50周年記念誌



A n n i v e r s a r y
Gunma Council, Scout Association of Japan

創立60周年に寄せて





60周年記念誌の発刊によせて



日本ボーイスカウト群馬県連盟連盟長
群馬県知事 大澤 正明

日本ボーイスカウト群馬県連盟が創立60周年を迎えられ、その足跡を記念誌として刊行されますことを心からお喜び申し上げます。

紐解けば、イギリスを発祥として100年以上の歴史を刻むスカウト運動は、日本でも大正時代にその活動が始まり、今や世界中で広がりを見せています。こうしたグローバルな伝統に支えられた中で、群馬県連盟は戦後間もない昭和24年に創立され、以来今日まで60年の長きにわたり、規律ある団体生活をとおして健全な身体と友愛の精神を養い、たくましく心豊かな人材を育成されてまいりました。これもひとえに歴代の理事長をはじめ役員ほか関係者みなさまの熱意と努力の賜物であると、心から敬意を表する次第です。

日ごろ、スカウトのみなさんが誇りをもってユニフォームを着用し、元気いっぱい活動している様子を見ますと、「備えよ常に」をモットーとして「ちかい」と「おきて」が日常生活に立派に生かされ、実践されておりますことは、誠に頼もしい限りです。

将来を担う青少年の健全育成は私たち大人の責務ですが、昨今の殺伐とした世相を反映して子どもたちの健やかな成長を阻害する要因も数多く存在しており、今こそ社会全体で力を合わせて取り組むべき最重要課題となっております。

本県といたしましても、引き続き学校・家庭・地域との連携、さらにはボーイスカウトをはじめとする青少年育成関係団体との協働で積極的な施策の推進を図り、子どもたちのために望ましい環境づくりに努めてまいります。

さまざまな体験活動をとおして子どもたちに「生きる力」をはぐくんでいるスカウト活動に対する社会全体の期待は、これからますます大きくなっていくものと考えられます。群馬県連盟には、尚一層の御精進を賜り、子どもたちの健やかな成長に向けて、その活動の輪を大きく広げていただきますようお願い申し上げます。

結びに、この60周年を一つの契機として、群馬県連盟がさらなる発展を遂げられますとともに、関係者のみなさまの御活躍を心から祈念申し上げまして、記念誌発行によせるごあいさつといたします。



60周年記念誌の発行によせて

群馬県教育委員会
教育長 福島 金夫



日本ボーイスカウト群馬県連盟が創立60周年を迎えられ、ここに記念誌の発行とともに各種の記念行事を実施されますことは誠に意義深く、関係者の皆様に対し心からお祝いを申し上げます。

終戦後の混乱期である昭和24年11月の発足以来、大きな社会情勢の変化にもかかわらず、年毎にその組織を拡充されて、人間の一生に例えるなら「還暦」という節目の年を迎えられましたことは、ひとえにたゆまぬ実践によりこれまでの活動を支えてこられた多くの指導者の皆様の御努力によるものと深く敬意を表する次第です。

ここ数年、青少年のかかわる重大事件が続発し、しかも犯罪性や残虐性は益々その度合いを強めております。今さらながら、幼児期から青少年期に獲得する価値観や社会性、人権感覚などは本人の人生のみならず、社会全体にとっても非常に重要なものであると痛感しております。

将来を担って立つ青少年が、心身ともに健康でたくましく成長してくれることは社会共通の願いであります。本県におきましても、今年3月に「たくましく生きる力をはぐくむ～自ら学び、自ら考える力を～」を目標に掲げ、「群馬県教育振興基本計画」を策定しました。今後はこの計画に沿って、家庭や地域における子どもたちの健全育成をめざし、社会全体で家庭教育や子育てを支援する体制の整備を推進してまいります。

ボーイスカウトの活動は、規律ある集団行動や異年齢交流など、現代の青少年にとって、とても大切な要素を数多く含んでおり、社会で希薄になりつつあるさまざまな人間関係を体験できる貴重な機会であります。こうした活動の実践は、青少年の健全育成のために大変重要であり、今後とも変わらぬお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

結びに、60周年という節目の年を新たな歴史への出発の年として、群馬県連盟がますます発展されますことを、そして、関係者皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



群馬県連盟60周年に寄せて

財団法人ボーイスカウト日本連盟
理事長 橋本 網夫



日本ボーイスカウト群馬県連盟が創立60周年を迎えられましたこと衷心よりお祝い申し上げます。

貴県連盟は昭和24年11月、11個隊で、指導者19名、スカウト278名、登録は第16号としてスタートされました。そして現在は、様々な困難を乗り越え158個隊2,213名(平成21年9月30日現在)という素晴らしい県連盟になりましたことに心から敬意を表する次第でございます。ひとえにスカウト、指導者の皆様のこの運動に対する熱き情熱があったからこそと思います。

創始者ベーデン-パウエル卿は「この運動を成功させるカギは個人的な触れ合いによるリーダーシップの育成である。また、我々は組織ではなく、運動である。我々は愛と『おきて』によってこの運動をしている。」と言われていました。我々はこの言葉を胸に秘め、人格、健康、技能、奉仕というスカウティングの4本柱を基に「個人の資質を伸ばし、地域社会や国際社会に役立つ青少年の育成」をしていきたいと考えております。

2015年には第23回世界スカウトジャンボリーが日本で開催されることになりましたが、日本連盟ではこれを契機に本運動の発展のための足掛かり(ジャンピングボード)としていきます。

貴県連盟におかれましては、新藤信夫群馬県連盟副連盟長が日本連盟常務理事として、来年度開催の第15回日本ジャンボリー実行委員長を始めとする様々な役務に就かれ、また、江原一郎群馬県連盟理事長は日本連盟評議員として、日本連盟の更なる発展にご尽力頂いておりますこと、誠に感謝にたえません。

貴県連盟の素晴らしき伝統を更に継続し、今後の盛々のご発展に対して弥栄を贈りましてお祝いの言葉といたします。



群馬県連盟60周年に寄せて

財団法人ボーイスカウト日本連盟
教育本部コミッショナー 井上 保



日本ボーイスカウト群馬県連盟の創立60周年、心より祝いを申し上げます。

これまでの60年の歩みは、様々な変化と混乱の中で多くの試練があったことと思います。

この運動が今後も長きにわたり発展していくためには、スカウト教育の基本を大切に、変えるべきところは変え、社会の理解と支持を得て地域社会と共に歩む姿勢を堅持して、スカウト運動への誇りを持つことだと考えますが、こうした試練を多くの指導者と支援者の努力と情熱により乗り越え、今日を迎えられましたことに深く敬意を表します。

群馬県は、赤城山、榛名山、妙義山、環境保護のシンボルでもある尾瀬、首都圏の水の大動脈でもある利根川など豊かな自然環境を有しており、それらを生かし充実した野外教育を進めてこられました。四季折々の豊かな自然を肌で感じ、自然と共に生きる知恵を育ててきた日本人の感性が失われつつある昨今、野外教育を基本としたスカウト運動の意義はますます高まるとともに、期待も大きくなっていると思います。

昭和24年に県連盟結成の年に始まった群馬県連盟野営大会も本年は第28回を開催されました。これからも、群馬県から自然を愛し、自然とともに力強く生きていける多くのスカウトが育っていくことを期待しております。

2015年(平成27年)に開かれる第23回世界スカウトジャンボリーが日本で開催されることが決定しました。世界ジャンボリー成功のための本格的な準備に取り組むとともに、スカウト運動の基本理念である「ちかい」と「おきて」の実践を基盤とし、社会に貢献する青少年教育運動として地域社会との連携を一層深め、より多くの青少年の参加を呼び掛けてまいります。

そして、この世界スカウトジャンボリーを契機として群馬のスカウトの皆さんも、この運動の大きな特徴である、世界の加盟国の仲間たちとのさらなる交流を進めていただきたいと思います。

60周年を迎えられました群馬県連盟が新たな歩みを力強く踏み出し、21世紀を担う人材の育成にご尽力いただきますようご期待申し上げますとともに、群馬県連盟の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



Customer Satisfaction を考える



ボーイスカウト群馬県連盟
副連盟長 新藤 信夫

ボーイスカウト群馬県連盟の創立60周年おめでとうございます。

昭和24年11月6日前橋公園にて県内11ヶ隊300名強のスカウト、リーダー達でボーイスカウト群馬県連盟が誕生しました。

昭和58年の頃は、登録人口が5000名に届くところまでなりましたが、この数年は減少の一途をたどり、県連盟としてもいろいろな施策を講じておりますが2300名を維持することが手一杯の状況にあります。

この間多くの県連役員、指導者の皆さんが群馬のボーイスカウトの歴史を築き上げて頂いたお陰で無事60周年記念を祝うことができることは同慶に耐えませんが、これを契機に更なる発展が出来るように努力していきましょう。

今ボーイスカウトでは、新公益法人移行を目指して日本連盟も、県連盟も諸手続きを進めております。スカウト運動としての目的、組織、運営方法と新公益法人としての公益性との連携を含めて検討しており変化が出て参ります。

また、2015年には第23回世界スカウトジャンボリーが山口県きらら浜で開催されることが決まっており、組織を挙げて大会の成功に向けた準備を進めなければなりません。

これからの日本を或いはグローバルに世界で通用する人財育成を目指すボーイスカウト組織としては、「青少年の健全育成」という観点から大変大きな期待をされております。参加しているスカウトたちの期待、参加させているご両親の期待、地域社会の期待、他の青少年団体からの期待、教育委員会の期待、文部科学省からの期待などに応えることもこの運動を継続することが出来るかの大きなキーファクターだと思います。

この運動に求められているミッションと入団してくる人たちの期待値、即ち顧客満足度をどの様にかなえてやれるか、毎年多くの新しいスカウトたちが入ってきますが、それ以上に退団していくスカウトが居るといことは何が問題か、お客様である、スカウト、保護者の満足度を如何にとらえて、如何に進めようとしているか。

能登和倉温泉の加賀屋は、トラベル関係のプロが選ぶ「ホテル、旅館の顧客満足度」連続29年全国1位だそうです。従業員の泣けるサービス(おもてなし)もさる事ながらどれだけ多くの改善、創意工夫が実践されているのでしょうか、われわれも60年の還暦(原点)でスカウト運動の基本に立ち返り、何のために、誰のためのスカウト運動なのか、そして何をなすべきかをもう一度考えてみたいものです。

(財団法人ボーイスカウト日本連盟 常務理事)



広めよう!スカウティングの楽しさをみんなで

ボーイスカウト群馬県連盟
理事長 江原 一郎



群馬県連盟創立60周年を迎え、これまで青少年の健全育成に情熱を傾けられた多くの先輩諸氏、物心と
もにご協力頂いた多くの保護者の皆様そして大所高所からご支援頂いた行政の皆様にご敬意と感謝を申
上げます。

そして、昨今の厳しい環境下で昼夜を分かたず奉仕に励んでおられる指導者の皆様のご努力に深く敬意を
表します。

さて、スカウト活動を取り巻く環境は大きく変貌しており、10年前から学校週休2日制等スカウト運動の
輪を広げる「フォローの風」が吹いていたにも拘らず、現在の加盟員はピーク時(1983年)に比べ半数以下と
なっています。

主因はスカウト・指導者を取り巻く生活環境の激変にあり、要因は県連盟、各地区、各団・各隊に諸々あり、
各々の現状認識とその改善努力が必要となっています。

60周年を契機に中途退団原因追求のような「守り」の姿勢よりも、2008.7第38回世界スカウト会議(韓国
済州島)において、第23回世界スカウトジャンボリー(2015年)を「中曽根弘文元外務大臣、塩谷立元文部科
学大臣」のご尽力を賜り日本招致に成功したことを踏まえ、世界最大の青少年運動組織に加盟していること
に誇りを持ってスカウト活動をさらに活発化して行きましょう。

6年後の「山口県きらら浜(開催場所)」には、世界160の国と地域から約3万人のスカウト達が目を輝かせ
て参加してきます。ホスト国(1971.8第13回世界ジャンボリー以来)として多くの側面から日本を見て、学
んでもらうためにもスカウトの育成と成人指導者の確保は不可欠です。

我々群馬県連盟は加盟員の皆様が安心して活動できるような組織基盤を創り、安全で実り豊かなスカウ
ティングの実現に向けて、「明るく、爽やかに」一歩前進の気概を持って行きます。

そして、スカウトの健全育成に尽力し、一層の充実を図るとともに社会に貢献する教育活動として、地域
社会との連携をさらに密にし、より多くの青少年に参加を呼びかけましょう。



ボーイスカウト群馬県連盟 結成60周年によせて

ボーイスカウト群馬県連盟
コミッショナー 奈良橋 俊宏



年輪50から、はや10年がたちました。10年一昔といわれるようにいろいろな変化や出来事がありました。変化で特出すべきものは、なんといってもスカウト人口の減少でしょう。子供たちの遊びの選択技が広がりを見せる一方、その趣向も「OUTDOOR」から「INDOOR」に変わり、全国的な少子化の影響もあって、私たちの仲間も半減しました。スカウト運動の良さが広く理解されないことは残念ですが、日本連盟の公益法人への移行にともない、社会とのかかわりが増えることによって今後改善されることを期待し、より一層の広報活動に力をいれなくてはなりません。

昨今、私たち指導者をとりまく社会環境も非常にきびしいものがあり指導者不足に悩んでいる団もあることと思います。指導者体制の充実も急務になっております。スカウト運動に理解を示す仲間をいかに増やし立派な指導者として養成するためには、個々の団だけでは無理があり地区や県としてのプロジェクトが必要だと思えます。スカウトの募集だけでなく指導者の募集も同時進行するように考えてはどうでしょうか。そして指導者としての資質の向上を目指していただくために、コミッショナーグループもどのようなサポートができるか研究と研鑽をして、ひとりでも多くの少年少女にスカウト運動の素晴らしさを知ってもらおう心がけたいものです。

つぎにあげるのが女子スカウトの躍進でしょう。10年前は、まだ受け入れ体制に不備が目立ち、ボーイスカウトの中での女子スカウトの位置づけが各団まちまちでしたが、この10年の間に女子スカウトは、たくましく立派に成長し、いまでは男子も女子もごく普通にスカウティングを楽しむようになりました。

女子スカウトもグリーンバースカウトとして、班の中心になって活躍し各種のフォーラムにも積極的に参加したり、今では「富士スカウト」に挑戦しているスカウトもいるようになりました。これからのスカウティングは、男子と女子が補完しあって、良いところをのばしあい、充実したスカウティングがおくれるように、これからの10年に夢をはせたいと思えます。

「継続は力なり」私の好きな言葉です。60年の歩みのなかで、たくさんの方々が、その時々活躍をされ受け継がれて、今日を迎えることができることに感謝を申し上げ結びとします。



こじん あと もと
古人の跡を求めず、
こじん もと もと
古人の求めしところを求めよ



60周年記念事業実行委員長
今井 健介

私が初めてボーイスカウトの活動に参加したのは、今から45年前、県連創立15周年式典が前橋で開催された時でした。そこにとっても声の大きい、ヒゲをはやした元気なリーダーがいました。その人こそ「星野のおじいちゃん」の愛称で皆に親しまれていた星野宏先達です。

星野先達には忘れられない思い出があります。今から20年前の平成元年8月、第23回野営大会が尾瀬戸倉スキー場で開催された時、久しぶりに元気な姿を見せました。そしてキャンプファイヤーの後、我々若手のリーダー達とにぎやかに話し込みました。

星野先達がいつも身につけている年季の入ったベルトを、もちろん半分冗談ですが、あるリーダーがねだりました。すると、「このベルトは私が初めてイギリスでボーイスカウトに入った時からのものだから、お別れの時が来てボーイスカウトの姿で棺に納まる時に身につけていくつもりである。」とおっしゃいました。

さてその翌日、私が沼田のご自宅までお送りする役目を仰せつかり車で向かったところ、道路の端に脱輪して動けないでいる軽自動車がありました。「手伝ってきますから車の中で待っていて下さい。」とお願いして、その車を運転者と引き出しました。ふと後ろを見るとユニフォーム姿の星野先達が交通整理をしているではありませんか。

ご自宅に着いてお昼をご馳走になりながら、「いつもネッカチーフの端を結んでおいて何か善いことをしたら解くようにしている。今日は一つ善いことができこんなうれしいことはない。そうだこのベルトは君にあげよう。」と喋ってベルトを私に手渡すのでした。

戦前の英国でボーイスカウトを体験し、戦後群馬県で初めてボーイスカウトを始め、群馬県連盟事務局長や理事長等を歴任し、昭和41年には先達の称号を贈られていた「星野のおじいちゃん」でしたが、その翌年の平成2年11月7日に逝去されました。享年88歳でした。

最後までスカウト精神を忘れず、日々の善行を心がけていた姿が目に残り離れません。このベルトは私の家宝にしています。

「古人の跡を求めず、古人の求めしところを求めよ。」これは俳聖と呼ばれた松尾芭蕉の言葉です。60周年を迎えた今、先輩方が何を学ばただけでなく、何を求めようとしたのか、ボーイスカウト活動で何を目指したのかに学ばねばならないと思います。

(ボーイスカウト群馬県連盟 副理事長)



ボーイスカウト群馬県連盟 創立60周年を祝して

(財)ボーイスカウト振興財団
理事長 稲垣 稔

ボーイスカウト群馬県連盟創立60周年、心よりお祝いを申し上げます。関係してきました指導者の一人として、感慨ひとしおで御座います。特に昭和24年11月6日の県連盟創立式典に、スカウトの一人として参列した私には、深い感動が御座います。60年という年月は、言葉では簡単ですが、その道程は往時を省みますと、大変なことも多く、多くの指導者を始めとする関係された方々の御労苦は如何ばかりだったかと思ひますと、ただただ感謝のみで御座います。青少年の健全育成団体の老舗として、今後も多くの青少年、少女を有為な社会人として、社会へ送り出すことを改めてお願い致します。

前述致しましたように、昭和24年11月6日の県連盟創立式典には、現役の指導者で私の他に、県連盟名誉会議議員の高崎の金井佐傳さんが指導者として、太田の田部井保夫さんがスカウトとして参加していたと思ひます。初冬によく晴れた日で、北風も殆どなく小春日和のようだったと記憶しています。前橋公園の遊園地に続く広場で開催されましたが、私が14才、中学2年でした。ユニフォームもハットもなく、手製の班別章を、白い開衿シャツの右腕につけ、左腕には、県別章他をつけていたと思ひます。私たち創立式典参加のスカウト、指導者の殆どは、同年8月に、現「群馬の森」に隣接する現日本化薬構内で開催された第1回県野営大会に参加し、又、9月下旬に東京、皇居前広場で開催された第1回全国大会にも参加して、見聞を広めておりました。県野営、全国大会の会場は、今では絶対に野営することはできない場所ですので、これ又感慨無量です。翌25年に、講和条約締結前に、ボーイスカウト日本連盟は、世界スカウト機構に復帰し、世界のスカウトの一員に再び返り咲きました。当時は、ビーバーはおろか、カブもシニアー（ベンチャー）もなく、ボーイコースのみで、私は高校3年までボーイスカウトとして在籍したのでした。今では考えられないことですが、60年前の状態はこのようなことでした。古き皮袋に、新しい酒を注いで、青少年健全育成団体の老舗として、内容を更に充実させ、次なるステップの伸長のために、更に努力を重ねてゆきましょう！



宇宙からのメッセージ

ボーイスカウト群馬県連盟の皆さんへ

三指

ボーイスカウト群馬県連盟の皆さん、創立60周年おめでとうございます。

この大きな節目を迎え、皆さん熱い思いでグリーンドーム前橋にお集りのことと思います。私も小学2年生の時にカブスカウトに入隊して以来、スカウト活動を続けてきました。毎夏のキャンプやジャンボリーなどのイベントを経験するなかで、楽しい思い出をつくり、仲間の輪を広げることができました。4年前のスペースシャトルのミッションでは、スカウト活動を通じて学んだチームワーク、集中力、そして「そなえよつねに」の精神を最大限に発揮することができました。さらには、ひとつのことを思い続けることによって、きっと夢はかないます。私も子供のころからずっと思い続けてきた「宇宙に行く」という夢をかなえることができました。

今、私は国際宇宙ステーションでの長期宇宙滞在のための訓練を続けています。来月から半年間に渡って、アメリカ人やロシア人の宇宙飛行士とともに国際宇宙ステーションでの任務が待っています。宇宙からも、日本、そして世界中のボーイスカウトの仲間に向けて熱いメッセージを発信したいと思っていますので、皆さんもぜひ応援して下さいね。

それでは群馬県連盟の皆さん、さらに友情を深め、スカウト活動から学んだことを活かし、夢の実現に向かって頑張ってください。

弥栄

平成21年11月

宇宙飛行士

野口 聡一





野口聡一宇宙飛行士とボーイスカウト

1965年、神奈川県横浜市生まれ。日本人5人目の宇宙飛行士。
2005年7月26日のミッションSTS-114にミッション・スペシャリストとして乗船。日本人として始めて国際宇宙ステーション (ISS) で船外活動を実施した。ISS第22次/第23次長期滞在クルーのフライトエンジニアに任命され、再び宇宙へ向かう予定。

小学校からボーイスカウト活動を始め、自然の中で科学への興味を抱いたことが宇宙飛行士を志すきっかけとなった。またボーイスカウト活動が宇宙飛行士に選抜された時に評価された。現在もボーイスカウト茅ヶ崎第2団ビーバースカウト隊副長を務める。

1959年以来、宇宙飛行士312人中207人はボーイスカウト経験者であるといわれている。ちなみにガールスカウト出身は27名。人類として初めて月へ降り立ったアームストロング船長、そして事故で亡くなったオニヅカ宇宙飛行士もボーイスカウト出身者。



JAXA (ジャクサ)とは

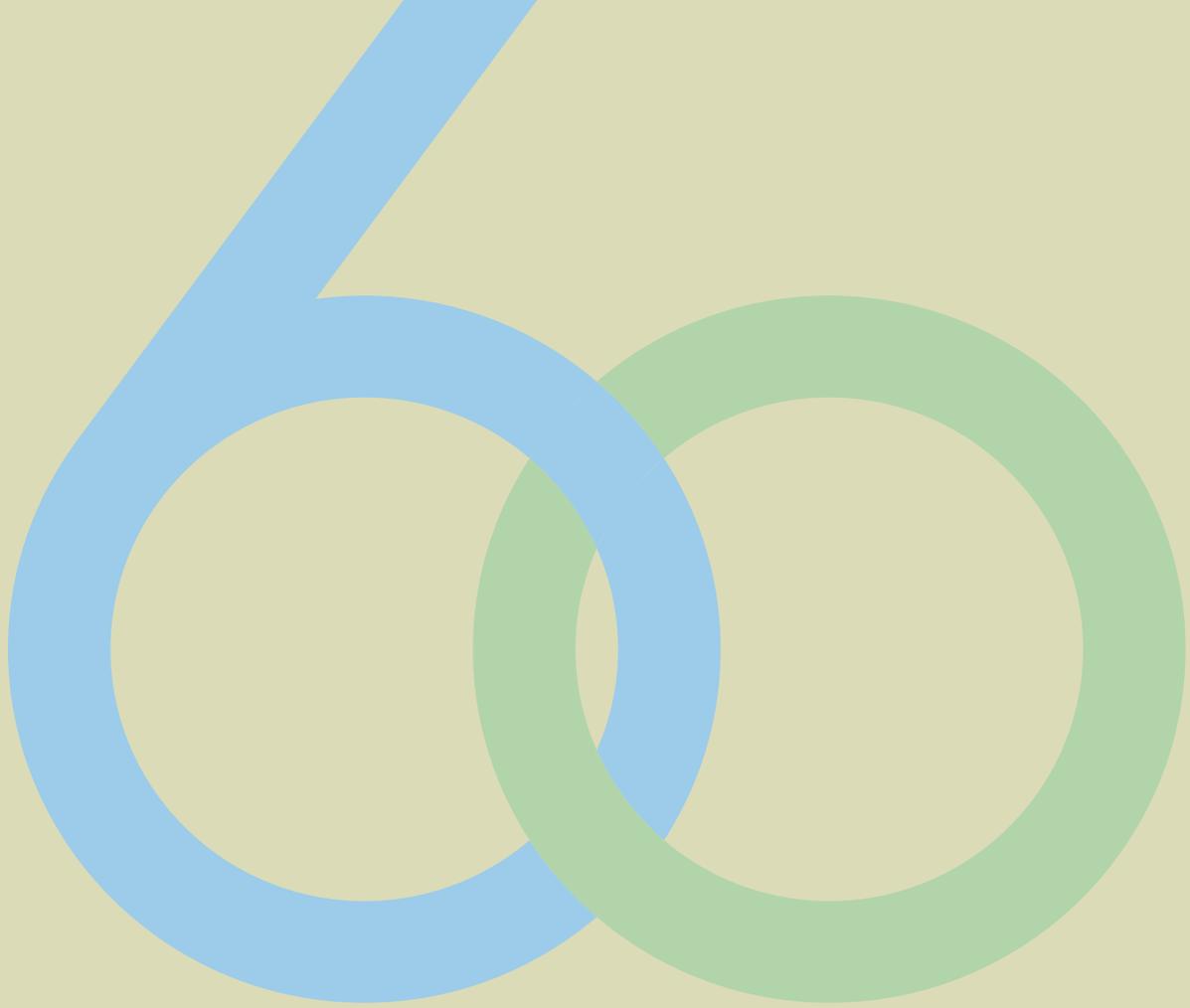


2003年10月、宇宙科学研究所 (ISAS)、航空宇宙技術研究所 (NAL)、宇宙開発事業団 (NASDA) が1つになり、宇宙航空分野の基礎研究から開発・利用に至るまで一貫して行うことのできる機関が誕生しました。それが、独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 JAXA (ジャクサ)です。

宇宙開発利用と航空研究開発は、国の政策目標を達成していくための手段であり、問題解決に貢献することはJAXAにとって重要な使命です。JAXAはこの自らの使命を実現するため、2005年4月に「JAXA長期ビジョン“JAXA2025”」を提案しました。

JAXAは、「空へ挑み、宇宙を拓く」というコーポレートメッセージのもと、人類の平和と幸福のために役立てよう、宇宙・航空が持つ大きな可能性を追求し、さまざまな研究開発に挑みます。

(JAXA・WEBサイトより)



A n n i v e r s a r y
Gunma Council, Scout Association of Japan

スカウト運動60年の回顧





ボーイスカウト群馬県連盟結成記念大会の思い出

県連盟顧問 金井 英文

群馬県社会教育課主催による、第1回BS指導者公認講習会が昭和23年7月13日、富岡・一の宮公民館において開催され、県内各地より48名の参加者が集結した。日本連盟より予定の主任講師欠席の連絡により急遽、戦前の少年団指導経験のある村沢信夫氏、星野 弘氏、三沢祐長氏、栗原 博氏達の活躍で講師不在の講習会は無事終了となった。

終戦まで学校外の皇民教育の一環として少年団指導に携わってきた彼らが、民主教育の中で青少年健全育成をどう行うべきか。この受講者を中心に群馬県にボーイスカウト結成の機運が高まり、リーダークラブが結成された。

昭和24年7月、県連盟結成準備委員会が組織され、7月1日利根第1隊33名が日本連盟に登録。10月までに10ケ隊の登録が完了した。10月に入り、各隊代表者集会、総会規約審議決定に続き、理事会、事務局組織決定し、理事会で結成式についての協議の結果ようやく群馬県連盟が誕生の運びとなった。

昭和24年11月6日前橋市曲輪町前橋公園において、日本連盟三島理事長ご臨席のもとボーイスカウト群馬県連盟結成式が挙行された。群馬県各地よりボーイスカウト隊11ケ隊278名の参加となった。これを記念して以後毎年8月には全群馬ボーイスカウト大会(野営訓練大会)と共に、県連盟結成記念式典を11月に開催することとなった。



記念大会名	開催年月日	開催場所	備考
県連結成1周年記念式	昭和25年11月5日	高崎市高崎公園	
県連結成2周年記念大会	昭和26年11月4日	太田市東山球場	621名参加
県連結成3周年記念式	昭和27年11月9日	高崎市南小学校	
県連結成4周年記念大会	昭和28年11月8日	桐生市新川グラウンド	745名参加
県連結成5周年記念大会	昭和29年10月31日	前橋市南小学校	42隊860名参加
県連結成6周年記念大会	昭和30年11月6日	渋川市渋川中学校	39隊597名参加
県連結成7周年記念大会	昭和31年11月4日	伊勢崎市公民館	700名参加
県連結成8周年記念大会	昭和32年11月17日	藤岡市藤岡小学校	600名参加
県連結成9周年記念大会	昭和33年11月9日	桐生市産業文化会館	700名参加
県連結成10周年記念大会	昭和34年11月8日	沼田市西小学校	10年継続団表彰
県連結成11周年記念大会	昭和35年11月16日	高崎市東小学校	800名参加
県連結成12周年記念大会	昭和36年10月15日	前橋市群馬会館	700名参加
県連結成13周年記念大会	昭和37年11月4日	安中市安中小学校	1,170名参加
県連結成14周年記念大会	昭和38年11月3日	館林市三の丸公園	1,300名参加
県連結成15周年記念大会	昭和39年11月1日	前橋市	900名参加

以後はB P祭に引き継がれ、第6回群馬県B P祭をもって各地区主催のB P祭となった。

群馬県連盟結成より60年の歳月が流れた。この間にはスカウティングに情熱を傾け、県連盟を支え物故された多くの指導者の功労に心から感謝し、初心を忘れず60年という年輪をさらに大きく広げるため、明日への一步を踏み出そうではありませんか。



群馬のスカウティングに火を灯した 北條富司先生の教え

県連盟顧問 金井 英文



平成21年9月に逝去された故北條富司先生には、昭和25年～26年の2年間、太田小学校で担任教師として教えを受けた。今思うと授業時間の合間にスカウトソングやゲームなど、クラスで盛り上がり楽しんで思い出が脳裏をよぎる。群馬県連盟創立60周年記念式典を間近に控えた折の旅立ちに、県連盟設立に多大な貢献をされた恩師の思い出を語る。

関西弁で「がしんたれ」という方言があるが、少年時代の私は内気で気弱な性格だったことから、父親が強く逞しさを身に付けさせようと、担任の北條先生に相談したところボーイスカウト活動を紹介され、以来60年間この活動が私のライフワークとなった。

北條富司先生は戦後、昭和23年太田市立太田小学校において教鞭をとるかたわら、市教育委員会の指示で、昭和23年7月、第1回BS群馬県指導者公認講習会を受講して、趣旨・目的・理念や内容（青少年教育の重要性、意義、歴史、ソング、ゲーム、ハイキング、結索法、救急法等）が青少年教育に不可欠のものであり、特に「青少年の良識を養い、資質の昂揚を図り、国際友愛の精神を増進する」には最適の教育法であることに賛同し、太田にボーイスカウト隊を組織することを決意。市内に理解ある支援者を得て、昭和24年8月25日、太田市にボーイスカウトの火が灯った。ボーイスカウト太田第1隊は隊員50名により編成され、太田つばめ隊として活発な活動を展開した。

日本連盟主催の第1回BS全国大会が同年9月に東京都皇居前広場・日比谷公園にて開催され、群馬県から196名が参加、太田つばめ隊も49名が参加したが、当時は制服は無く白い布のネッカチーフ、県名、隊名も白地に書きシャツに縫い付け、テントは借用しての参加だったが、精神は熱意と希望に燃え元気で所期の目的を果たした。

中央特修実習所は当時の最高の指導者実習所といわれ、公認講習会修了者の中より将来有為な指導者で活躍できるものを選び、高度な理論と実技を自ら学び修得させる、BS指導者養成機関である。北條先生は6泊7日の第3回実習所に入所、講習会の主任講師として県内各地の講習会を開催して、多くの指導者の養成に努められた。

米軍スカウト隊より「自由の鐘」を贈られた思い出

太田市は大泉町、熊谷市と共に駐留していた米軍基地にボーイスカウト隊があり、国際親善を目的に国際交流が盛んだった。熊谷市、太田市での交流会では市内パレードが行われ、米軍基地内のゲストハウスに案内され、コカコーラやホットドッグなどご馳走になった。昭和27年5月、講和条約の発効に伴い、アメリカ本国に帰る駐留軍が増えしたが、熊谷に駐留していたキャンプウエリントンの部隊も本国に帰郷することになり、お別れキャンプファイヤーが昭和27年11月に太田・東山球場で開かれた。

その席上で、アメリカスカウト隊より永遠の友情の証しとして「自由の鐘」が贈られた。

鐘にはアメリカのスカウト章が刻まれ、記念の言葉も刻まれていた。

県連盟設立の一人として活躍された北條富司先生は、時には県連盟事務局長を勤めるなどボーイスカウトの指導・教育面に尽力され、国際交流面でも卓越した教育理念を発揮された。先生の青少年に対する情熱と業績を心に刻みつつ、創立60周年を回顧した。





60年前の思い出 — 第1回全国大会に参加して —

県連盟相談役 桜井 玉寿

月日が経つのは早いもの、戦後の第1回ボーイスカウト全国大会が開催されたのは、今から60年前の昭和24年（1949年）9月24・25日、東京宮城（皇居）前広場であった。

我が隊は参加を決めたものの、事前の準備に大苦戦。服装として何も揃っていないし、肩に着ける県別票や郡市別票もない。そこでリーダーが手分けして、布に手書きして、各自の白いワイシャツに縫い付けたのである。色布を買ってきてネックチーフを作り、曲がりなりにもスカウトらしき形が整った。だが野営用のテントがない。考えたあげく、小学校の大天幕をお借りすることになった。竹で支柱や杭を作り、一時しのぎをしたのであった。

故郷を立って東京駅に着くと、各地から続々とボーイスカウトが集まって来た。するとこんな言葉が伝わって来たのである。「日の丸を展げてもよいそうだ」とのこと。この時まで竿に巻いてあった日の丸を展げて、堂々と会場に入ることが出来たのであった。

9月24日午後2時、日比谷公園に天皇（昭和天皇）・皇后両陛下をお迎えして、開会式が行われた。陛下がお着きになると、誰も合図をしたわけではないが、自然に感激の万歳が公園にこだました。続いて各種のスカウト技能の発表をご覧いただき、陛下がお帰りの時も車が見えなくなるまで、私達は万歳の声でお送り申し上げたのであった。

夜は三笠宮・同妃殿下の御臨席のもとに、大営火が行われた。「ちょっとごめんなさい」と言葉をかけられ、私の横を通られた方が、両陛下であったと解り恐縮した事を今でも憶えている。

9月25日午前10時より日連旗を先頭に、有楽町—新橋—日本橋—宮城（皇居）前までをパレードした。服装はまちまち、中でも麦藁帽子の隊が印象に残っている。

解散の時、戦後初めて森永キャラメルが配られ、家族によいお土産が出来たことが、今でも懐かしい思い出である。

この年昭和24年（1949年）11月6日、ボーイスカウト群馬県連盟は結成されたのである。



日本ジャンボリーの思い出

県連盟相談役 小内 安蔵

私が参加した日本ジャンボリーは、第2・3・4回ですが、特に忘れ得ぬ思い出のジャンボリーは、第2回である。半世紀も前のことで、然も八十路の坂を越えた今日ですが、懐かしさの余り、定かではない記憶を辿って見たいと思います。



第2回日本ジャンボリーは、昭和34年8月3日より十泊十一日、品川駅より修学旅行列車「日之出号」の夜行で、滋賀県大津駅まで、その後ローカル線で今津駅に下車した。

会場は滋賀県高島郡今津町郊外の丘陵地帯、演習場でした。二万五千名のスカウト・三千張以上のテント・開会式の盛大な様子等、すべてが壮観で、初めて参加した私達は、ただただ驚嘆の連続であったことを覚えている。

プログラムも順調に進んだ最後の四日間、大型の親子台風に見舞われ風雨激しく、荒天準備をしたテントは水浸し、やがてテントや幟旗等が倒壊となり惨憺たる有様となった。急遽、自衛隊の大テントに避難して一夜を明かした。

翌日は雨の中、高学年のスカウトがキャンプサイトを整理し、夕方、太田連合隊の約五十名はキャンプ場より徒歩で足下の悪い路を個人装備を背負い全身ずぶ濡れとなり三十分以上の道のりを、ただ黙々と歩いた。

今津町へ到着したが宿泊所を探すのに一苦労した時、偶然、醤油醸造元の奥様に逢い快諾を得て、職人宿泊室（二教室分位の畳の部屋）へ案内された。入浴後は、町内の洋品店三軒で調達された下着上下を支給したのでスカウト達は生き返ったように、はしゃぎ回った。その姿を見て安堵した。夕食後、責任者である私は、副長を連れて雨の中をキャンプサイトに戻り、コンテナ（木枠）に腰掛けて一夜を明かした。翌日、スカウト達は休養、夜はキャンプサイトで過ごしたが、閉会式の記憶がないのは、各県連の代表で開催したものと思われる。

人の心の暖かさを肌で感じた今津町から往路と同じで、大津駅より米原駅まで来た時、台風災害の為十二時間停車で一夜を明かし、国鉄より大きな握り飯の給与を受けた。その後は順調に走り、全員無事に太田に帰着した。

初めてのジャンボリー参加で規模の膨大さ、荒天の経験、何よりも人の情が心にしみる有り難さ等、偉大な体験をした。いずれにしても今津町の前川利吉氏ご一家には格別な待遇を受け、筆舌に尽くし難い程、感謝の気持ちで一杯である。



信仰心とスカウティング

県連盟相談役 竹田 賢一

昭和62年3月、第1回ネパールジャンボリーに、日本連盟派遣団長としてネパールを訪れた。有名なエベレストのある国が何処にあるのか地図で探す始末で、調べたら1951年に開国した国で、日本の歴史で言えば明治維新のような時期にあたり、大いに興味がわいた。

ネパールスカウトは男子と女子が合同で組織されているので、日本派遣団はガールスカウトと行動をともにして、銀座築地のスエヒロでの合同壮行会には来賓として広瀬議長に、三島昌子ガールスカウト会長(三島元総長長女)が出席され、私も団長として身の引き締まる思いだった。

現地では、コレラやチフスなどが流行しているのので、地元のドクターから当時入手困難なキニーネなどの薬を戴き、カトマンズは雪を戴いているヒマラヤ連峰を連想して寒い国の印象が強かったが、キャンプ地は盆地で海拔1300米、緯度は北緯27度だから、日本では奄美大島とほぼ同位置にあり、夜間は冷えるが温暖な処だった。

ボーイスカウトの大会日程では、日曜日は宗教儀礼があるが、現地宗派間の紛争が多かったのので、全員がアリーナに集合し、宗派代表がそれぞれの意見を述べる事となり、私の出番はないものと思っていたら、「ジャパンTAKEDA」とアナウンスされ、中央式台に立たされ「さあ、弱った」咄嗟のひらめきで「般若心経」262文字を弁慶の勸進帳ならぬ、暗誦していた経文を間違えずに言えた時には、ほっとした経験がある。後年、お釈迦様はネパールのルンビニで生まれたのだと聞かされ冷や汗物だったが、終わると拍手が沸いたのは、サンスクリット語が多少理解されての拍手であったと思い自画自賛している。





指導者養成の回顧

県連盟相談役 高橋 和男

先日書類を整理していたところ1988年(昭和63年)の読売新聞の切抜きに目がとまりました。それは「子どもたちのけじめ感覚」について次のようなことでした。

「近頃の子どもたちに対して感じるマイナスイメージを拾い集めてみると、がまんすることが少ない。他人への思いやりに欠ける。物を大切にしない。物事を感覚的にとらえ、あまり深く考えない・・・むろん、みんながみんなそんな子ばかりではない。例として挙げた欠点は、そのまま裏返しの長所といえるものも少なくない。例えば、「明るくて、積極的、ものおじしない」タイプの増加は、義理、人情、恥といった伝統的規範のしがらみから解き放たれた結果出てきたものだろう。その自由な振る舞いには、時にうらやましさを感ずる。音楽やファッションに対する感性の鋭さに感心させられる」とあり、さらに「そんな長所を認めつつも、最近の子どもたちのたたずまいのなかには、「けじめ」というものが失われつつあるのではないか、ということだ。(中略)ふだんの生活の中にも、「けじめ」に対する甘さがあるように思う。だがこうした傾向を子どもたちのせいにしてばかりにしては行かない。ごく普通の市民のあいだにもまた、けじめ感覚のマヒがある。大人自身のたたずまいを見直し、家庭でのしつけを考え、学校の内外でさまざまな活動に参加できる場を作り、自立心を深め社会との連帯感を培う環境にしていく。時間はかかるが、それが少年たちの身近にいる大人の責任だと思う」とあります。

スカウトたちも普通の子どもです。上記に書いてある通りの子どもですが、それを世間の人は特別な子どもと見ているのです。それには隊長以下成人指導者のささえがあるからです。スカウト・保護者・社会等のさまざまなニーズを満たすべくために隊指導者は、指導チームの一員としてその役割を分担し、多くの人の支援のもとにスカウトを指導・援助するという教育目的を達成するために協力するのです。ちかい・おきて、進歩制度、班制度等をプログラムにとり入れて、しらすら身に身につくようにスカウトの成長を願って各方面にわたって知識・技能を研鑽しているからです。

そのような指導者養成を担当しているトレーナーをさせていただけたことに感謝を申し上げ、新聞記事から当時の研修所で話したことを思い出して書いた次第です。



BS桐生第10団の誕生

県連盟参与 上山 明

桐生第10団は昭和38年12月15日(登録14日)発団式での社長のネッカチーフ授与から出発した。職域スカウト(シニア、ローバー)であったので、課題もあったがやがて理解されていった。

発足からの主な活動は次のようであった。

奉仕活動 || 交通整理、清掃等、(出退勤時会社近辺、市の行事、各種祭り、マラソン大会、春秋交通安全運動、共同募金)

訓練等 || 県連役員や他の講師等からの受講、研修、実習所入所、野営大会(地区、県、日本、世界)、他団との交流等

野外活動 || 登山、水泳、サイクリング、ハイキング、キャンプ

特に、交通整理の事故防止技能、熱意と貢献度は地元住民、行事主催者、他団等からも賞賛、期待され続けた。指導者として他団の隊長、副長などを勤めた者も多く居た。

発足時から10団を導いてこられた新藤信夫氏が、やがて地区、県連、日連等でスカウトとして、役員として名誉ある職責を果たされたことを10団の誇りとしている。



▲10団リーダー、スカウト

「以下に、当時のリーダー(団委員長)として持っていた考えを発団10周年記念式(昭和48年11月25日)の挨拶から引用する。」

{私達が会社で、組織を離れて余暇を生かしたい時に、一番大切なことは、そのものの良さを見つけ且自発的になることだと思います。したい事が多く時間が足りません。安易な方に傾きがちな環境の中で、スカウト活動に次の様な素晴らしさを感じています。

第一に個性の発揮。奉仕活動を考えても身近な交通整理からカブの世話まで、又その他の会合やゲームにしてもやりたい事は無限にあり、その方法

も多くある。自分達で考え、相談し、実行し、そして結果の喜びや反省をじっくりと自分自身でかみ締める。自分を出し切ってぶつかれるということ、スカウト精神の上になつて、個性的な活動を伸び伸びとやれるという事です。

第二に多くの人との交流。立場を離れていろいろな人と付き合えること。しかも、スカウトという一つの基盤に皆が立っているという信頼感。大きな輪のつながりと種々な活動を通じ多くの人々の人柄に接し、そしていつか自分も成長させられているという充実感。これらの人との交わり、自然との融合、奉仕活動を通じて幅の広い性格、技術、判断力が備わることは、実に素晴らしいと考えます。

諸君の先輩がこの10年間にその活動を通じ、会社の一従業員、一市民そしてスカウトとしての姿を、自然に無理なく多くの人達に印象づけて、心温まる地域づくりに貢献してこられたことに、深い尊敬の心を持ってお礼を申し上げます。

皆さん、一人一人立派に成長されました。発団10周年を心から共に喜び、これからも努力していきましょう。}



ボーイスカウト群馬県連盟六十周年記念



県連盟参与 新井 三知夫

ボーイスカウト群馬県連盟六十周年、誠におめでとうございます。

人間は六十才を還暦と云い本卦帰りとも云い、初心に帰って誓い新たに出発すべき時とも言われています。

今こそこの大切なスカウト活動の充実発展をめざし心新たに出発すべき時とさせて頂きたいと念願致します。

私がこの活動に参加させて頂いたのは、国の将来と世界の平和実現を願われた恩師の遺言である「青少年を国の宝に育てよう」にお応えさせて頂こうとの信念からでした。地域の有志の方々のご理解とご協力を頂き、昭和四十九年八月箕郷町・群馬町・榛東村の方々に箕郷第一団、その後発展し分団、群馬町第一団・榛東第一団と計3団を実現させて頂き育成会長を務めさせて頂きました。

特に最近では少子化や夫婦共働き、またスポーツへの関心が高くなった結果でしょうか、確かなことは判りませんが、参加者が減少し大切な人間らしい人間づくりがなされず、21世紀のめざす共生の心が不足がちになっては困ります。日本には諺で「負けるが勝ち」や「損して得取れ」など友愛精神を願っての教えもあります。

何よりも自然に親しみ学ぶことが大切です。幸い当時の団本部は榛名山の中腹で関東平野が一望できる自然豊かな地で、元旦の日の出のすばらしさ、その太陽に誓う感動の儀式はスカウト達も恐らく忘れていないでしょう。キャンプや交流運動会なども経験させて頂きました。そしてガールスカウト群馬県第四十四団と四十九団も結成させて頂きましたので、5団での合同キャンプ活動も忘れられません。何よりも当初のスカウトの方々がスカウト精神を社会に示されていることを拝見したり、お聞きした時の喜びは一人でございます。

今こそ最初に申し上げました通り「青少年を国の宝に育てよう」をめざし、スカウト活動の尊い精神の充実徹底を計り安心安全に世をリードする人達の育成こそ最も大切な時であることを感じます。

指導者の皆様、ご父兄の皆様何卒この尊い人間づくりの重要な責務に誇りと自信を持ってより一層のご活躍を心よりお願い申し上げますと共に、スカウトの皆様もすばらしいスカウト活動にご縁を頂けたことを感謝と共に「ちかい」「おきて」を大切に守り、ご成長下さいまして、国の宝となり各界でご活躍下さい。

ここに謹んで県連盟六十周年のお祝いと共に、益々の充実発展を心よりご祈念申し上げます。感謝合掌



ボーイスカウト群馬県連盟60周年に寄せて



県連盟参与 清水 清治

ボーイスカウト群馬県連盟60周年を迎えるにあたり、心からお祝い致します。

この60年間の歴史には実に様々な時代の変化がありました。国内外とも地球規模で変化してきました。地球温暖化・高齢少子化社会・国際化など、その中でもボーイスカウト活動にあつては、特に少子化による団員の減少がどの団にもみられ団員獲得に大変な努力がなされてきました。

思い起こしますと、今から30年前、昭和54年4月1日付で当時「財団法人ボーイスカウト日本連盟長渡邊昭の名で加盟承認書を交付していただいたボーイスカウト太田第7団(登録第5062号)所属隊のカブスカウト隊(第4180号)ボーイスカウト隊(第6778号)として発団いたしました。

当時21年間という長い歴史と伝統のある太田第4団が生みの親でありました。第4団が大きな組織に発展してきたので分封して誕生したのでありますが、ボーイスカウトには余り経験のない私が団委員長をさせていただき、発団に際しては、県連をはじめ、太田地区協議会役員の皆様、ならびに先輩各団の方々に大変お世話になりました。昭和54年11月8日発団記念大会を太田市蕪川小学校(当時校長として勤務していた)の体育館で開催したところ、公私ともにお忙しいところ、大勢の先輩及び県連・地区協議会の役員各位にご来賓としてご出席をいただき、ご指導・ご激励のお言葉を賜りました。その時の感激と責任を感じたことは今でも忘れることはできません。

「人は一人では生きられない」必ず大勢の皆さんに支えられ助けられて生きている。それも見えないところでお世話になっているのです。感謝・感謝の気持ちで常に生きてゆかねばなりません。人に世話をされていることに気が付かないだけです。こんな気持ちで今は過ごしていますが、人に世話される前に人の世話をする立場に立っていく少年を育てることを目標に努力してきたつもりでした。

ところが昨年5月、80歳を迎えた途端に脳梗塞を起こし、体の不調をきたしてしまいました。リハビリの甲斐あつて自分の事はすべてできるので、いろいろなボランティアをはじめ今は保護者会の立場で側面的な援助をさせていただいております。



素直な明るい笑顔に魅せられて

県連盟参与 内田 忠幸

永い歴史と伝統のあるボーイスカウト太田第4団から昭和54年に分封して太田第7団を発団いたしました。

その第7団にお兄ちゃんと一緒に、軽い知的障害のあるS君が入団しました。S君が義務教育最後の3年生になり社会に出る準備をはじめました。進路指導の先生や職業安定所にも相談しましたが就職できませんでした。ご両親がやっとなおもいで探し、勤めた中華食堂も中国から研修生が来るということで何ヶ月もたたずに解雇されてしまいました。

私は常に考えますことは、S君たちの親なきあとの生活です。親として、リーダーとして、この子たちに何を残すか、、、それはやがて成長し一社会人として、生き抜ける力を与えること、そして正しい人として、あらゆる苦難をも突破できる強い人として、心豊かな人間として成長を願うものです。

ここ数年間で蕪川地区も人口が急激に伸び発展して、都市化が進み国際化が早いテンポで進むことは喜ばしいところではありますが反面には助け合いの精神や連帯感を忘れがちな様相を呈します。

今ボーイスカウト太田77団のハンデキャップスカウトたちは「経験こそ宝なり」で一つでも多くの経験を重ね、ぼくにもできたよ！を合言葉に頑張っています。

明るい笑顔で話しかけてくるスカウトたちに接した時、すべての疲れが吹き飛びこの道に関わりの持てたことに感謝し老体にムチを打ちながらこれからも楽しませて頂きます。

県内 唯一の知的障害者団 7団の中のもうひとつの7団が77団



継続登録60年の前橋第1団を祝す



県連盟参与 劔持 平三郎

ボーイスカウト前橋第1団(当時は前橋第1隊と称する。)は、1949年(昭和24年)8月3日前橋カトリック教会において、育成会長に主任司祭ロック・カルパンチェ神父、隊委員長(当時)に小井土哲夫氏のもと、群馬県で第3番目の隊として発団し60年を迎えられました。

1949年(昭和24年)11月6日、ボーイスカウト群馬県連盟の結成式典が前橋公園ラジオ塔前広場において開催され、スカウト代表の言葉を前橋第1隊の桜井康雄スカウトが述べられたことが記録されています。群馬県連盟結成の先駆隊として輝かしい荣誉に浴したのです。

戦後の混乱がまだ残る時、次代を担う子供の育成に願いを込めて発団し、以来社会が大きく変化する中で、60年の長きにわたり活発な運動を实践され、組織を継続・拡充されてまいりましたことは、これまでの活動を支えてこられた多くのスカウト並びに指導者・育成会の皆様の多大なご努力によるものであると拝察し、心から敬意を表すところです。

「Once a Scout, Always a Scout」(永遠のスカウト)、これはベーデン・パウエル卿と親交があり、かつ協働者として有名なキッチナー元帥の名言であります。私が初めてこの言葉を教えていただいたのは前橋第1隊初代隊委員長(当時)の小井戸哲夫先生からでした。

私がボーイスカウトに参画したのは、学窓を経て初任の学校に着任した時、上司としてお任せした小井戸先生の薫陶を得たことにあります。

先生から、1950年(昭和25年)10月27日～30日、富岡市一宮での第5回ボーイスカウト指導者公認講習会、1951年(昭和26年)9月27日～10月3日、富士山麓山中湖畔、日本ボーイスカウト山中野営場での「First Training of Japan, Boy Scout Leader」の研修の機会を与えていただきました。

また前橋第1団の隊長でありました、今は亡き橋本担隊長、霞 恵三隊長からは隊運営のノウハウを仔細に指導していただきました。私のスカウトとしての原点は前橋第1団にあります。

私が指導を仰いだ第1団の先達の意志を継承する、現在の前橋第1団の指導者の方々が群馬県連盟や前橋地区協議会を担うトップリーダーとして活躍されておられますことは誠に心強い限りです。

60周年を節目としてボーイスカウト前橋第1団の益々の発展と関係者の皆様の弥栄を心からお祈り申し上げます。



思い出

県連盟参与 新井 章信



ここ10数年間での活動では「日本連盟創立75周年記念自転車全国一周友情リレー」と「第27回県連盟野営大会」を無事に支援できたこと、今でも誇りに思っています。

・1997年(平成9年)の「自転車全国一周友情リレー」は、県内4地区でそれぞれ各県連から自転車を引継ぎ、地区内をリレーしながら次の県連に引き渡すもので太田地区の責任者として、走行計画からスカウトの人員割り振り、更に、県警察本部への「道路使用許可願い」のお願いと、自転車引き取りの「長野県連盟」や引継ぎの「栃木県連盟」との連絡等、活動の成功を期して各方面を飛び回りましたが、スカウト達の笑顔を見ることで苦労も疲労も忘れるほどでした。

スカウト達は11月の4日間13市町村・136kmを元気に走り「栃木県連盟」に無事引継ぎを完了。この活動で、スカウト達の「助け合い」と「チャレンジ精神」は当に「おきて」の実践であり感無量であった。

・2005年(平成17年)の「第27回県野営大会」は、8月11日～15日の5日間「陸上自衛隊相馬原演習場内」で実施され「生活支援部」を担当、部員のチームワークが抜群で楽しい大会であった。

大会2日目の夜、雷と豪雨が発生、テントサイト付近が土砂崩れにあい、一時大変な騒ぎとなったが、指導者によるスカウトの迅速な避難と緊急連絡等により最小限の被害に食い止める事ができた。しかし、テントの中は水浸しになりその夜は就寝できず、自衛隊の宿舎に泊まるはめとなったが、これらの対応に総務部のスタッフは大車輪で応じ何とか翌日の活動に支障を起こさないですんだ。

我々は、ほぼ夜を徹してパトロールを行い安全を期したが、この夜の出来事は当に「備えよ常に」を実践した感があった。私は、この時の指導者やスタッフの迅速な措置がスカウト活動の原点であることを改めて認識した。

最近のスカウト達は「元気な行動」と「感謝の心」がややもすると薄らいでいる様に見える。人間年をとるとこの様になるのだが、若いスカウト達には是非ともこの点をしっかりと身につけた行動が出来るよう指導者の適切なる訓練を期待します。

スカウト達の心は、純粹であるものとして対応を願うものであります。 弥栄





私のスカウト事始め

県連名誉会議員 田部井 保夫

太田にボーイスカウトが発足したのは昭和24年の春であった。終戦後、ボーイスカウト運動が再開され、富岡市一ノ宮の公民館において、戦後群馬県初の指導者講習会に市の教務課長の命により参加された太田小学校教員の北條富司先生が隊長として発足した。当時、太田小5年生の担任であったこともありクラスの生徒によりボーイスカウト活動の一端を運動会の中でデモンストレーションし父兄と生徒にPRされた。その結果、PTAと市の有志により結成の為の準備会が組織された。当時私は5年生で非常に興味を持ったが、申し込みには親の同意が必要でなかなか言い出せなかったのを記憶しています。うわさでは、裕福な家庭の頭のいい子しか入れない雰囲気でしたが、それでも、何とか親を説得し申し込むことができました。私は4人兄妹の末っ子の男一人が幸いした様です。よく年、六年生の4月、太田小の講堂で晴れて結成式が開催されました。そのときの写真を見ると、服装はまちまちで唯一、白いさらしの四角布を三角に折ったネッカチーフを胸に並んでいます。当時のボーイスカウト隊は小学六年から中学、高校三年まで参加でき、当然、上級班長、班長は高校生でした。小六の私にはあこがれのお兄さん達です。太田隊のニックネームは石井副長の命名で“つばめ隊”となり、大空を飛びかう“つばめ”の力強さは、私たちの意気ごみにふさわしいシンボルに思えた。後に、白井久視上級班長の作詞、作曲による“つばめ隊の歌”が作られ、今も歌い継がれている。県のスカウト技能講習会に参加された北條隊長のもと、スカウトハンドブックを片手に縄結び、追跡法、手旗、簡易測量、スカウトゲームなど等、勉強そっちのけで夢中になって練習した。そして太田の金山を中心にスカウト技能を研鑽し、7月には赤城大沼湖畔での2泊3日の隊キャンプ。今では考えられないが、足尾線の水沼駅から鳥居峠を経て大沼へ。無論、当時はバス路線や鳥居峠のケーブルカーもなく徒歩でした。確か、そのときのテントは運動会などで使われるテントの屋根だけを使用したはず。覚満淵から大沼へ流れ込む小川では魚を見ることが出来たのを覚えています。8月には第1回の県野営大会が現群馬の森付近の旧陸軍岩鼻火薬廠跡地（現日本化薬の敷地内？）で開催された。沼田、前橋、伊勢崎、太田のスカウトで約150名の参加で各隊の野営装備の関係で工場跡での舎営との記憶があります。太田第1隊の登録は8月末に県連に提出されたが日連での承認は手もとの資料では昭和24年10月1日となっています。日本ボーイスカウト第1回全国大会が9月24～25日、皇居前広場で開催されました。白いシャツに白いネッカチーフで意気揚々と参加し、日比谷公園で天皇ご一家をお迎えしての開会式。テントは勿論学校の天幕、黒松林に芝生、炊事はどうしたのかよく覚えていません。この大会で三指の敬礼と日の丸の国旗を掲げての行進がGHQより許され、日章旗、アメリカ連盟より贈呈された日本連盟旗を先頭に有楽町～銀座～皇居前と堂々とパレード。沿道には大勢の人が手を振って見守ってくれていたのをよく覚えています。そして、11月6日晴れて群馬県連盟結成記念大会が前橋公園で11ヶ隊約300名で開催され、以来60年、感慨深いものがあります。当時私は最年少のスカウトでしたので隊長、班長などの後を無我夢中追いかけていたのが現実でした。

注) 県名誉役員で、私の隊長であった北條富司様は去る平成21年9月12日未明逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。





60周年に思う

県連名誉会議員 松井 隆

三 指、「BS群馬県連盟創立60周年」誠におめでとうございます。

一口に60年・・・人間の一生に値する年月を、子供達の健全育成に脈々と「ちかい」と「おきて」の実践を積み重ねて来ました諸先輩の皆様をはじめ関係者の皆様、そして仲間の皆様に敬意と感謝を申し上げます。

私も60年の半分以上を共に活動して参りました。ただ・・・ただ子供達の為に一生懸命に訓育・ゲーム・イベント・仲間との語らいに一喜一憂して参りました。

思い起こせば、仲間と車座になり夜の更けるのも忘れて、子供達・団・地区の事を語らいました。「そうでない・・・と反論」「そうだ、そうだ、と同調」「君の考えは理解出来る・・・と協調」そして「わくわくしながら結論」と意気込んで語らった思いは今も忘れません。こんな行動は「情熱」のたまものと理解しています。個々の「情熱」は、「大きな力」にはなれません、独りよがりになってしまいます。大勢の仲間の中に生まれた「情熱」と「実践」は「大きな力」となるのではないのでしょうか。

「情熱」と「実践」で70周年・・・100周年に向けて「より熱く」「より高く」活動を進めて頂きますようお願いし、活動の充実をお祈り申し上げます。

60周年本当におめでとうございます。 弥 栄!

2009/10



「祝結成60周年記念とあゆみ」

県連名誉会議員 星野 忠夫

【大空高く聳え立つ、赤城の山を仰ぎ見て、人世の為に奉仕する力常に養わん、我等、ボーイスカウト・備えよ常に】
こんな詩を作りスカウト活動に入ったのが、昨日のように、脳裏に浮び、走馬灯のように駆け巡る。早いもので、「昭和」から「平成」に変わってから、もう、二一年が過ぎた。今では、余り【昭和】と言う言葉が口の端に上ることもなくなったが。だが、私の場合、この言葉を聞く度に、甘酸っぱさと、ピリ辛さが入り交じった複雑な感情で一杯になる。

終戦後の渦中で、多くの人々が、生きることに追われ、これから先の、日本を、青少年の未来を考える余裕すらない状況でした。このような時、「ちかい：おきて」「備えよ常に」の合言葉を胸に刻み、スカウト活動に入り、ボーイスカウト群馬県連盟の皆さんと共に歩み続けた足跡を回顧し、灯を点した頃からの記録を保存することを意図し、育成会の皆様を始め指導者：スカウト・群馬県連盟にゆかりの深い方々へ幾分なりともおこたえできれば幸いと存じます。

先ず、最初にボーイスカウト群馬県連盟創立60周年を、心からお祝い申しあげますと言う祝詞を冒頭より申し上げます。

昭和43年に、初めて息子と共に、前橋カトリック教会内でスカウト活動をしている、前橋第1団の門に入ったのが、私の、スカウト人生の第一歩でした。当時は、前橋1団と、前橋5団の、2ヶ団でしたが、1団、5団共に、マンモス化して、CS隊・BS隊が2ヶ隊ずつ編成されていると言う状況から、日本連盟の方針をふまえて、分封するという事になり、2団(復活)、6団、7団(新団発足)、それぞれがその育成に責任を持つという事で新発足しましたが、各団共に、市街地中心の団活動で、前橋東部方面には、活動拠点がなく、何時も私自身の心の中にあつた考えを実現し、東部方面にもスカウト活動の灯を点したいと心に念じつつ、諸先輩のご指導と、桃瀬小学校区

(天川大島町：西片貝町)の地元の方々の物心両面にわたるご協力を戴き、昭和50年3月30日、ボーイスカウト群馬県連盟前橋第3団として、初期登録書を提出し、同日受領され、昭和50年4月1日付初期登録：団登録番号4349：団委員8名・指導者13名・スカウト30名・合計51名で、ボーイスカウト運動の灯が赤々と点つたのが昨日のように思われます。発足の年より、地域の方々、育成会：指導者の皆さんの熱意あるご協力により、年々スカウト数の増加に伴い、マンモス化した第3団を分封し、昭和57年4月21日・駒形町を中心の前橋第12団を発足させ、平成8年5月13日・城南地区を中心の前橋第15団を発足させ、当初の目的通り、前橋東部方面に於けるスカウト活動の発展と、活性化に大成功を取める事が出来ました。そして、前橋第3団は、益々充実し、ビーバー隊：カブ隊：ボーイ隊：ベンチャー隊：ローバー隊：団委員：指導者を含む、総数では、前橋地区～群馬県連盟内においても、第1位の団に大発展致しました。しかし此処に至るまでは、決して平坦なものでは有りませんでした。其れにもかかわらず、今日の前橋第3団があるのは、未来の繁栄と、発展を願ってやまない、会員の皆様や、指導者、スカウトの熱意と、地域及び関係各位のご支援の賜物と確信する次第であります。灯を点し、現在の隆盛を築かれ、支えて下さった、群馬県連盟の諸先輩、歴代の指導者、スカウトの保護者の方々に心から感謝の意を表します。

一口に、60年とは申せ、こうした青少年活動が一貫して継続し、その灯の消えることなく伝承されている団体は、他に其の例を見ることが少ない事を、私達の最も誇りとするところでもあります。この60周年記念の感激を、忘れることなく、明日からまた歩み続け、スカウト活動を継続伝承すると共に、伝統ある、群馬県連盟の灯を永遠に点し続けることを祈念し、お祝いの言葉と致します。

* 弥栄 *



思い出すままに

県連名誉会議員 金井 佐傳

県連結成60周年を迎えおめでとうございます。過ぎ去れば遠い昔のこと、思い起こせば懐かしい思い出が走馬灯のように頭の中をよぎる。

県連発足の翌昭和25年11月5日、一周年記念式典が高崎公園で開催されました。第1回隊長研修会も同時に行われました。式典後、日の丸を先頭に市中行進となり、真っ赤なトルコ帽の星野宏先生のお姿が今も脳裏に残っております。当時、市民の中には、この行進を見て軍国主義的な復古調だ、右翼の団体だと非難され大変な誤解をされたものです。

当初、県連事務局は局長の小井戸哲夫先生のご自宅で家族の皆様が、ご奉仕されておりました。日本連盟事務局も同様に、NHKの近くの狭いところに、総主事関忠志先生が、鎌倉から通っておりました。昭和26年の蔵王全国野営大会の野営長として活躍されました懐かしいお姿が偲べれます。

高崎第一隊結成当時は制服が無く、登山帽に白シャツ、白の軍足、チーフは風呂敷でした。食糧も充分でなく、物はないないづくしの世の中、野営の灯りはローソクが頼りで、火を点けるにもマッチがなかなか点かず苦労しました。水泳はパンツなしのふるちんでした。それでも「夢と希望」を大きく持って、元気に山野を駆けめぐり未来に向かって戦後の復興に一翼を担ってきたのです。

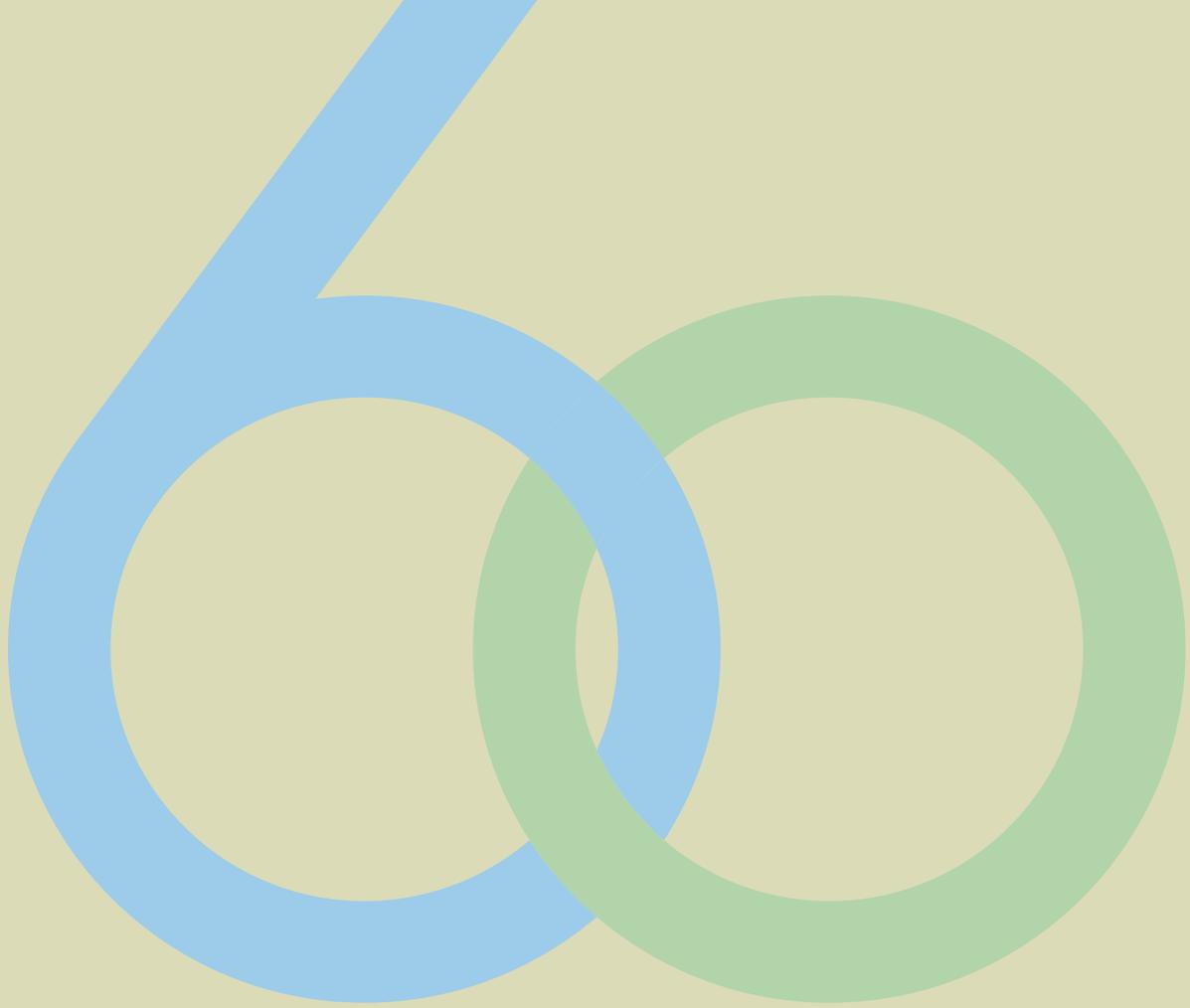
スカウトソングについて、今のような立派なソング集もなく、ガリ版刷の歌集で音譜もなく口から耳で覚えしました。福田実先生の伊香保福一旅館で一泊二日のソング講習会が催され、桜井玉寿先生の歌唱指導を受けたのが楽しい思い出となっております。

又、日本ギルウエル第一期生として那須野営場に参加の際、ちーやんこと中村知先生にも、静岡の尾崎忠次先生にも直接歌唱指導を頂きました。

私の念願である二つのカブラリーについて、第一回群馬カブラリー、昭和37年5月4日～5日、高崎の護国神社境内で県下のカブスカウト達と一緒に集い、「ぼくらは群馬CSだ、行こう元気、そうだ、そうだ」と声高らかに、楽しい友情の輪を拓げました。この群馬カブエールの発案と第一回の記録が前回記念誌に誤記されておりますので、念の為訂正をお願いいたします。

二つ目は、第五回関東カブラリーです。昭和42年4月2日、全関東地区から約六千名のカブスカウト、指導者が、汽車やバス数十台で高崎乗附の原に大終結しました。まさに壮観の景でした。そして高崎観音山周辺に一大プログラムが展開され、無事成功裡に終わりました。

まだまだ走馬灯が止まりませんので、ここで止めました。また機会があれば、走馬灯を回したいと思います。思い出すままに。弥栄。



A n n i v e r s a r y
Gunma Council, Scout Association of Japan

10年のあゆみ





2000

平成12年度は、スローガンに県連盟GOGO(55) 作戦第2弾「元気なスカウティングを展開しよう」を合言葉に、21世紀に向けた新たな第一歩を踏み出した。

第5回日本ベンチャー

第11回日本ジャンボリーが開催された九州の久住高原で、第5回日本ベンチャーが開催され、高校生年代のベンチャースカウトと指導者53名が、全国のベンチャーと交流してエキスカーションなゲームを展開し友好の輪を広げた。



第10回群馬カブラリー

第10回群馬カブラリーが平成12年6月11日あいにくの天気にもかかわらず、1,237名のカブスカウトと指導者が赤城山麓の国立赤城青年の家に集い、全施設を活用してのカブラリーが開催された。

知事顕彰

平成12年度より群馬県連盟が独自に創設した「群馬隼章」第1号が誕生し、併せて富士顕彰を受けた2名を加えた知事顕彰で、小寺知事自ら署名した認定証を授与された。

その他行事

- ◎県民スポーツ祭オープニング大会奉仕 5/28 16名
- ◎スカウトの日 9/15 1,215名参加
- ◎第38回身体障害者スポーツ大会奉仕 10/1 47名
- ◎県民マラソン奉仕 11/3 30名
- ◎県スカウトフォーラム 11/23 16名
- ◎第13回全国スカウトフォーラム 12/24～25 1名

指導者養成

指導者講習会を4地区で開催し144名が修了した。WB研修所は、下記コースを開設した。

- BVS課程群馬第11期 5/3～ 5/6 12名修了
- C S 課程群馬第29期 5/3～ 5/6 12名修了
- B S 課程群馬第25期 9/14～ 9/17 11名修了
- V S 課程群馬第 1期 10/7～ 10/10 14名修了





2001

第26回県野営大会「奥利根キャンポリー」

平成13年8月11日～15日まで、自然豊かな県立森林公園「21世紀の森」において第26回県野営大会「奥利根キャンポリー」を開催した。

本大会は「霧と雨の大会」であったが、スカウトは悪天候にめげることなく野営生活を充実させ、スカウト技能を発揮し多くのプログラムに挑戦した。

参加人数600名、カブ・ビーバー参加500名であった。



その他行事

- ◎県民スポーツ祭オープニング大会奉仕 5/27 21名
- ◎BS・GS交流会 5/12～13 高崎ジョイナス 28名
- ◎スカウトの日 9/15 3,589名参加
- ◎BS・GS交流会 3/23～24 桐生野活 26名

指導者養成

指導者講習会を5回で開催され123名が修了した。
WB研修所は、下記コースを開設した。

- BVS課程群馬第12期 5/3～ 5/6 14名修了
- B S 課程群馬第26期 5/3～ 5/6 14名修了
- 団運営研修所関東第5期 11/23～25 40名修了



2002

第13回日本ジャンボリー

平成14年8月3日(土)～8月7日(木)まで、大阪府舞洲で開催された第13回日本ジャンボリー(13NJ)に、群馬派遣隊7ヶ隊、324名が参加した。

本大会は、日本連盟創立80周年記念の年に、第23回アジア太平洋地域ジャンボリーとして「新しい時代の風をうけて」をテーマに開催された。

【会場全景】



第20回世界スカウトジャンボリー

第20回大会は、12月28日～1月8日までの12日間、タイ王国の首都万国の南東約180kmに位置するチョンブリ県サッタヒーブで開催された。

日本派遣団は、新藤信夫中央審議会議長を派遣団長に1,261名が参加した。群馬県連盟からは、派遣隊1ヶ隊、46名が参加した。



国際交流

2つのジャンボリーに伴い、国際交流も盛んな年となり7月29日には13NJに参加すべく来日したオーストラリア・タイ・バングラディッシュなど8ヶ国16名のスカウト・指導者が群馬を訪れ高崎・前橋地区がホストとなり国際親善に貢献した。1月には20WSJに参加した英国派遣団の40名が来県、桐生地区、太田地区のファミリーがホストとなり、それぞれの地区で交流を深めた。

機構改革

平成14年度年次総会において承認いただき機構改革を行い、地区より選出される県連盟理事数を均等にし、稼働する理事会としてスタートした。従来6委員会を4委員会に統合し、「団」「地区」「県連盟」の緊密な連携が図れるよう委員会を改めた。

指導者養成

指導者講習会を4回開催し88名が修了した。

WB研修所は、下記コースを開設した。

BVS課程群馬第13期	5/2～ 5/5	12名修了
C S 課程群馬第30期	5/2～ 5/5	20名修了
B S 課程群馬第27期	9/20～ 9/23	8名修了



2003

第8回群馬県ベンチャースカウト大会

第8回県ベンチャースカウト大会は、「めざせ富士」を合い言葉に、台風一過の8月10日富士登山に挑み無事目的を果たした。



第11回群馬カブラリー

7月の梅雨空の元、桐生市水道山公園において「第11回群馬カブラリー」が行われ、800余名のスカウト達が緑豊かな山野を舞台にワイドゲームを楽しんだ。



技能大会

BS部門では、高崎市のキャンプ場を会場にスカウト技能大会が行われ、地図とコンパス、手旗信号、結策・救急法等、日頃の訓練成果を競い合った。

平成15年度年次全国会議

日本連盟平成15年度年次全国会議が、5月17日、前橋市群馬県民会館で開催され、群馬で初の全国規模の行事を誘致した。県内指導者一丸となった見事なホストぶりは、各県を代表する方々より高い評価を頂き群馬のスカウト運動を内外に強くアピールすることができた。

群馬県ボーイスカウト振興県議会議員連盟設立

群馬県ボーイスカウト振興県議会議員連盟が、小林義康会長以下12名の議員各位により結成された。

プロジェクトG・井戸端会議

奈良県に続いて、組織拡充・アダルトリソース推進モデル県に指定された群馬県連盟は、特別チームを編成し「プロジェクトG・井戸端会議」が団委員長主体で各地区ごとにすすげられ、団運営の充実を図る施策が協議された。

指導者養成

指導者講習会を4地区で開催され129名が修了した。WB研修所は、下記コースを開設した。

BVS課程群馬第14期	5/2～ 5/5	10名修了
C S 課程群馬第31期	5/2～ 5/5	12名修了
B S 課程群馬第28期	9/12～ 9/15	7名修了
V S 課程群馬第 2期	9/12～ 9/15	9名修了



2004

第6回日本ベンチャー

4年に一度開催される日本ベンチャーが、2004年度は第6回ベンチャースカウト大会(6NV)が、関東ブロック一都7県で8月2日～7日まで、日本連盟主催で開催された。県連盟では、相馬ヶ原の陸上自衛隊第12旅団演習地をベースキャンプにして開催した。全国より男女150名強のベンチャースカウトが集い、県立農業大学校コース、少林山達磨寺コース、尾瀬沼・尾瀬ヶ原コース、自衛隊体験コースのプログラムを設定し、参加スカウトに有意義な体験をしてもらった。



【開会式】



【第12音楽隊】



【少林山達磨寺座禅】



【尾瀬ハイク】



「子どもの居場所づくり」

文部科学省が16年度より3ヶ年の継続事業として実施する「子どもの居場所づくり」事業について日本連盟より依頼あり、県連盟では19ヶ団がボーイスカウト運動を通しての事業の推進、実施した。事業第1年度ということもあり、各国とも試行錯誤を繰り返しながら実施した

指導者養成

指導者講習会を4地区で開催され104名が修了した。WB研修所は、CS課程、BS課程をそれぞれ開設した。

- CS 課程群馬第32期 5/1～ 5/4 17名修了
- BS 課程群馬第29期 5/1～ 5/4 9名修了



2005

第27回県野営大会「榛名キャンポリー」

平成17年8月11日～8月15日までの4泊5日、陸上自衛隊第12旅団相馬ヶ原演習場をお借りして開催した。参加したスカウトは、BS・VSそれにガールスカウト共々、元気はつらつと大会を楽しんだ。

8月12日午後5時40分位よりの予期し得ない大豪雨、そしてそれによる鉄砲水の出水が、野営地を襲い、膝上までの浸水となり、テントその他は全く使用不能となった。大会本部は、担当頂いた第12旅団通信中隊と連携し、旅団廠舎に緊急避難した。この避難の中で病人、怪我人も出さず、8月15日に無事みな家路に就いた。

また、本大会で初めて実施した公募によるBS年代の子どもとその家族を対象にしたオープンプログラムを実施し、大きな成果を上げた。

【開会式】



【技能大会】



【集中豪雨による土砂崩れ】



【オープンプログラム】



「子どもの居場所づくり」第2年度

昨年前より実施している「子どもの居場所づくり」事業に平成17年度は、9ヶ団がボーイスカウト運動を通しての事業の推進、実施した。書類面の煩雑さはあったが、実施2年目ということもあり、各団とも順調に事業を推進することができた。

指導者養成

指導者講習会を4回、WB研修所は、BVS課程、CS課程、BS課程をそれぞれ開設した。

BVS課程群馬第15期	5/1～ 5/4	6名修了
CS 課程群馬第33期	5/1～ 5/4	11名修了
BS 課程群馬第30期	9/16～ 9/19	12名修了
団運営研修所関東9期	11/11～11/13	28名修了



2006

第14回日本ジャンボリー

平成18年8月3日(木)～8月7日(月)まで、石川県珠洲市で開催された第14回日本ジャンボリー(14NJ)にJHQ、SHQ、県連派遣団スタッフ43名、隊指導者50名、スカウト216名、が参加した。

スカウトは、日頃の訓練の成果をそれぞれのプログラムで発揮し、外国派遣団、全国より集まったスカウトと実のある交流を果たし、14NJを楽しんで、病人一人出さずに元気に帰郷した。



第12回県カブラリー

第12回県カブラリーは、太田地区に主管して頂き平成18年10月22日、館林市で開催した。県下全域より853名の指導者、スカウトが参集し、太田地区スタッフの腕によりをかけた楽しい諸プログラムに挑戦し、又、他団のスカウトとの交流も随所に見られ、3年に1度の県カブラリーを楽しんでいた。

「子どもの居場所づくり」第3年度

2年前より実施している「子どもの居場所づくり」事業に当年度は、3ヶ団がボーイスカウト運動を通しての事業の推進、実施した。この事業は、当年度で終了した。

指導者養成

指導者講習会を3回、WB研修所BVS課程、CS課程、BS課程、VS課程をそれぞれ開設した。

BVS課程群馬第16期	5/3～5/6	7名修了
C S 課程群馬第34期	5/3～5/6	20名修了
B S 課程群馬第31期	9/15～9/18	12名修了
V S 課程群馬第 3期	9/15～9/18	6名修了

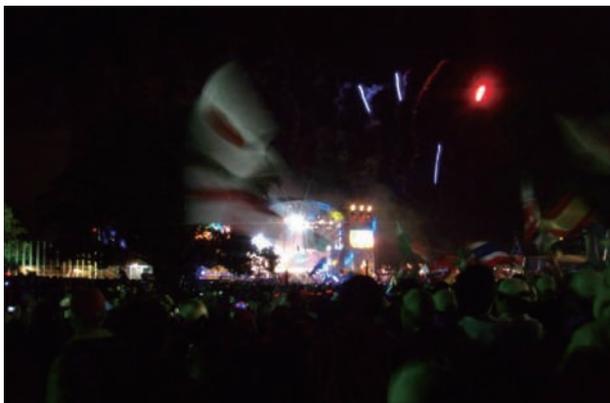


2007

第21回世界スカウトジャンボリー

平成19年7月27日(金)～8月8日(水)までの13日間、英国エセックス州ハイランズパークで開催された第21回世界スカウトジャンボリー(21WSJ)に日本より派遣団(合計1,510人、35ヶ隊)の1ヶ隊として(スカウト30人、指導者6人)を江原一郎県コミッショナーを隊長に、県連単独隊として派遣に参加した。

21WSJは、「ひとつの世界、ひとつのちかい」をテーマに全世界より155ヶ国、合計4万人が広大な会場で友情を交歓し、素晴らしいプログラムへの参加によって感動を深め合った中に、県連盟の派遣スカウト、指導者45名も加わり得がたい体験を果たした。21WSJの前後には、スコットランド北部地域でのイギリススカウトとの交歓、又ブラウンシー島の見学など有意義な多くの体験を積んで8月12日、全員無事帰着した。



大澤正明群馬県知事の県連盟連盟長推戴

平成19年7月の群馬県知事選挙の結果、大澤正明知事が誕生された。それを受け県連盟は、小寺弘之前知事が連盟長に就任されていた後任をお願いしたところ、ご快諾を頂き、平成19年11月29日に県庁にて大澤知事の連盟長推戴式を挙行し、就任頂いた。

指導者養成

指導者講習会の参加者の割りにWB研修所への参加者が少ない現状に鑑み、これを向上を図るため指導者講習会修了者を対象に、WB研修所への誘いとして、県連主催による定形外指導者研修会を開催した。

WB研修所は、下記1コースが開設された。
CS課程群馬第35期 5/3～5/6 12名修了

日韓スカウトフォーラム 1/12～1/14
参加者 5名



2008

第9回県ベンチャー大会

平成20年7月25日(金)～28日(月)の3泊4日岩手県閉伊郡山田町船越の岩手県立陸中汗顔青少年の家を主会場に現地集合・解散方式で実施した。ベンチャースカウト39名、スタッフ26名の計65名が参加した。全体プログラムとして遠野探索と海浜スポーツ大会、選択プログラムとしての海釣り体験や養殖漁業体験、交流プログラムとしてベンチャーナイト、ベンチャーフォーラム、料理コンテスト等が実施された。

大会前日の岩手県沿岸中部の地震に見舞われたが、全員無事プロジェクトを完遂し、各々がフォーラムを通じ意見交換や友情を育むことが出来た。

本来は、4年に1度の大会として、平成19年度に開催するところであったが、同年英国で行われた第21回世界スカウトジャンボリーに多くのベンチャースカウトが参加することから平成20年8月(当初計画)の開催となった。

【開会式】



【海浜プログラム】



【海釣り体験】



団委員長懇話会

平成20年12月7日(日)群馬県青少年会館大会議室において、各地区の団委員長、団組拡担当者(太田地区8名、桐生地区12名、前橋地区23名、高崎地区6名=計49名)の出席のもとに団委員長懇話会を開催した。基調講演(前橋第3団)の後、「各団における組織拡充の将来」に基づいて、6分科会に分かれて討議した。

指導者養成

日本連盟の指導者訓練体系の改定により、指導者講習会がボーイスカウト講習会と呼称を改めると同時に講習内容もハイキング中心とした野外活動体験をメインに大幅に変更された。県連主催で、年3回の開設とされた。平成20年度修了者数55名。

定形外訓練として、WB研修所への参加の誘いを目的に、昨年引き続きボーイスカウト研修会を開催した。

WB研修所は、下記3コースが開設された。

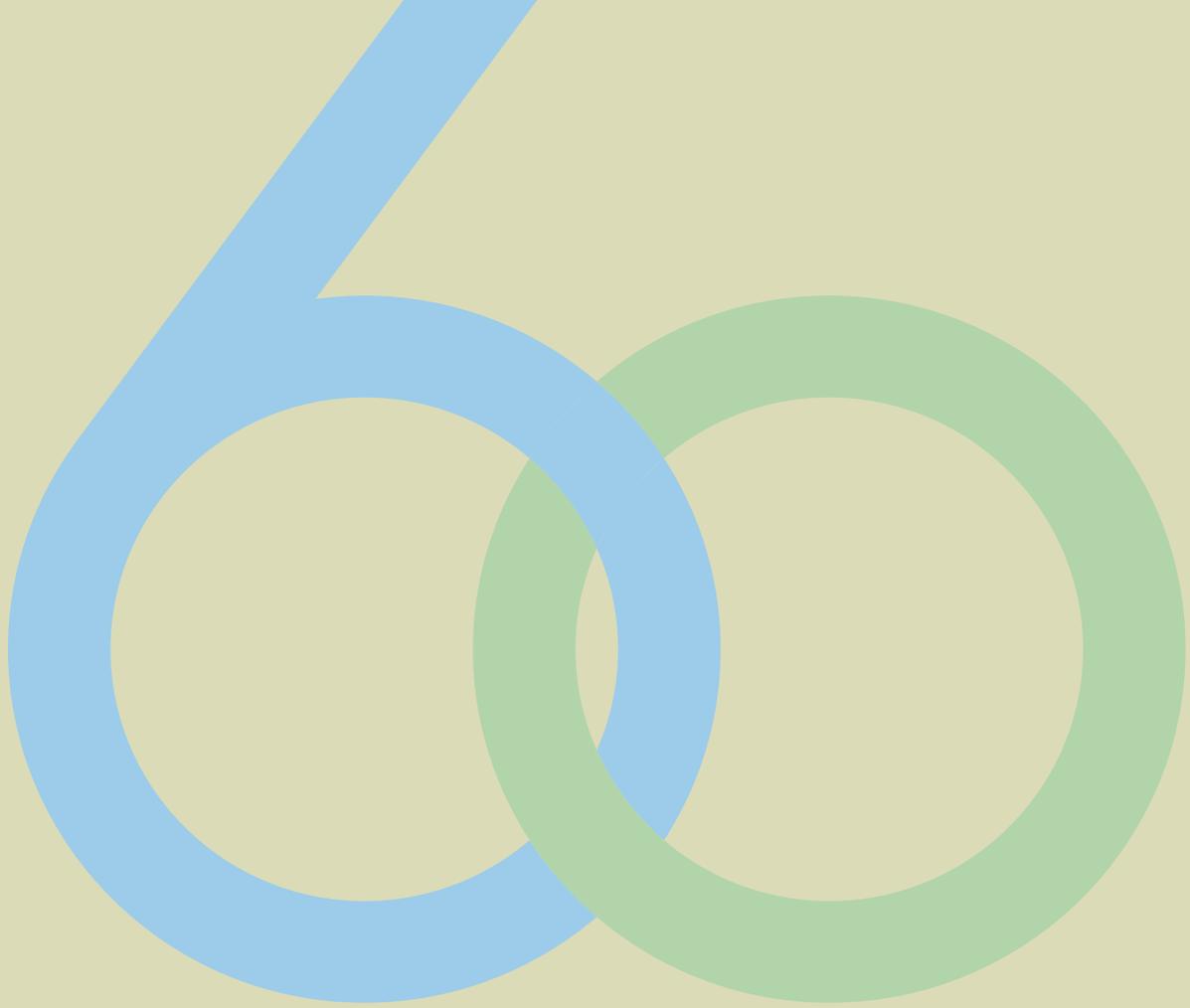
BVS課程群馬第17期	5/3～5/6	6名修了
BS課程群馬第32期	5/3～5/6	12名修了
CS課程群馬第36期	10/10～10/13	12名修了

日韓スカウトフォーラム 1/10～1/12

参加者 5名

日米スカウトフォーラム 2/7～2/8

参加者 1名



A n n i v e r s a r y
Gunma Council, Scout Association of Japan

60周年記念事業





60周年記念事業

第13回群馬県カブラリー

テーマ▶フレンドシップインタカサキ (WJ観音山2009)

期日 || 平成21年5月10日 (日曜日)

場所 || 観音山ファミリーパーク

群馬県内のカブスカウト全員が一堂に集まり、スカウト活動をアピールし、地域社会への理解を深め、県内青少年の健全育成の推進を図ると共に、新たなスカウト募集を募っています。その為、3年に1度の、県内各地区協議会持ち回りで行われる大会です。各地区からカブスカウトが終結して、さまざまなプログラムに挑戦をします。大会を通じて日頃顔を合わすことのない、スカウト達のコミュニケーションを図り、仲間同志の大切さを感じながら成長して行く大会としています。今回は、世界の国を理解することを目的に、参加スカウトは、組ごとに世界の国々を巡り、県内の他団の仲間と友情を育み、挑戦パスポートを「仲良しの輪」で埋め、達成しました。



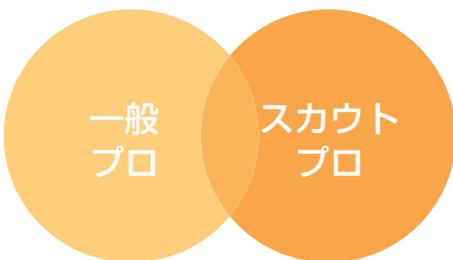
主 催 || 日本ボーイスカウト群馬県連盟

主 管 || 日本ボーイスカウト群馬県連盟高崎地区協議会

協力団体 || NPO法人KFP友の会(申請中)、高崎市、高崎市教育委員会

後 援 || 群馬県、群馬県教育委員会、(財)群馬県ボーイスカウト振興財団、群馬県ボーイスカウト振興県議会議員連盟、上毛新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、群馬テレビ、NHK前橋放送局、エフエム群馬、エフエム尾瀬、エフエム太郎、ラジオ高崎

協 賛 || (財)ボーイスカウト日本連盟、(財)ガールスカウト日本連盟群馬県支部、群馬ヤクルト販売株式会社



- スカウト活動を一般の方に周知する機会と位置付け、広く一般参加者を募集する。
- ビジターが一部のスカウトポイントに参加できるようにし、カブスカウト活動を楽しく体験してもらう。
- カブスカウトにも一部のビジタープロに参加してもらい、一般者から見える活動を行う。

プログラムの種類

〈オリジナルプロ〉

- 竹工作
- 野営サイト
- たちかまど
- 信号塔
- 食器棚等設営

〈ユニット協力プロ〉

- アンダーゴルフ体験
- ブーメラン作成・投げ方教室
- ペットボトルロケット打ち上げ体験
- ケナフの紙すき・はがき作り
- 熱気球搭乗体験(有料)
- エアロビクス・ダンス体験

〈CSプロ〉

- 暗夜行路
- モンキーブリッジ体験
- 芝滑り体験
- +α



プログラムを行った後のスカウトの笑顔が一番でした。
ボーイ隊の子たちが本当に一生懸命やってくれました。感謝です。

一般参加の子供達は、とても楽しく体験できた様子であり、プログラムは成功であった。しかし、スカウト活動の一般への認知という点では、疑問である。プログラムに参加した人数は150人を超え、保護者も含めると、受付を通過した人数は200名以上になりましたが、スカウト活動についての質問は、カブラリー終了後も無い。アピール不足とも考えられるが、あくまでカブラリーが中心であるため、このあたりが限界であろう。むしろ大規模募集集会のノウハウを蓄積できたことを自己評価したい。



60周年記念事業

第28回野営大会「赤城キャンポリー」

テーマ▶すそ野は広し赤城山! 広げようスカウトのすそ野!

期日 || 平成21年8月13日(木)~16日(日)

場所 || サンデンフォレスト

ボーイスカウト群馬県連盟は1949年(昭和24年)11月6日前橋公園にて結成されました。第1回合同野営大会は同年8月岩鼻にて開催され、2009年(平成21年)8月開催予定の今回は28回目となります。4年に一度、群馬県内のボーイスカウト隊が一同に集う野営大会です。

スカウト運動は、1907年(明治40年)8月1日に創始者バーデン・パウエル卿が英国のブラウンシー島で実施した小さな実験キャンプから始まり、今日では世界154の国と地域に2,800万人以上の青少年が活動する世界規模の社会教育運動に発展しました。

本大会を、群馬県連盟の還暦記念大会と位置づけるとともに、来るべき2010年に開催される「第15回日本ジャンボリー」2013年開催の「第16回日本ジャンボリー」2015年日本での開催が決まった「第23回世界ジャンボリー」に向けて意識の高揚を図る足掛かりとし、スカウト運動の将来に向けて新たな発展を目指した大会とする。



後援 || 群馬県・群馬県教育委員会、財団法人群馬県ボーイスカウト振興財団、群馬県ボーイスカウト振興県議会議員連盟、上毛新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、産経新聞社、群馬テレビ、NHK前橋放送局、エフエム群馬、エフエム尾瀬、エフエム太郎、ラジオ高崎

協賛 || 財団法人ボーイスカウト日本連盟、社団法人ガールスカウト日本連盟群馬県支部

協力団体 || 前橋市、前橋市教育委員会、サンデン(株)、サンデンファシリティ(株)



この大会のコンセプトの第1が、「地球環境との共生を考える」キャンプ生活を通じて食料、水、火気(燃料)の使用に配慮したエコキャンプの実践であった。

野営生活、プログラムが展開されるなか、ゴミの持ち帰り、生活排水から残飯、油分の完全分離による処理、化学洗剤の使用禁止等、従来にも増して厳しい配慮が要求された。これはまた、「サンデンフォレスト」という素晴らしいフィールドを提供して頂いた、サンデン(株)様の「自然環境と企業活動の共存」という経営理念と共通するものであった。60周年を記念する今大会の参加者数は、運営スタッフ91人、参加隊指導者73人、BS254人、VS22人、合計440人であった。

今大会に参加したスカウトが、群馬県連盟を、そして日本のスカウト運動の将来を支え70周年、100周年へと引き継いでくれることを期待したい。





60周年記念事業

県連盟創立60周年記念 祝賀会 式典



ボーイスカウト群馬県連盟は、昭和24年11月6日、前橋公園において11隊286名で結成されて以来、今年で60周年を迎えました。この間、多くの指導者やスカウトをはじめ地域の皆さま行政の皆さま、そして、全国の仲間のご支援を頂き、ボーイスカウト運動を展開してまいりました。

県連盟創立60周年記念祝賀会

期日 || 平成21年11月7日(土)午後7時～

場所 || 群馬ロイヤルホテル 鳳凰の間

県連盟創立60周年記念式典

期日 || 平成21年11月15日(日)午前9時30分～

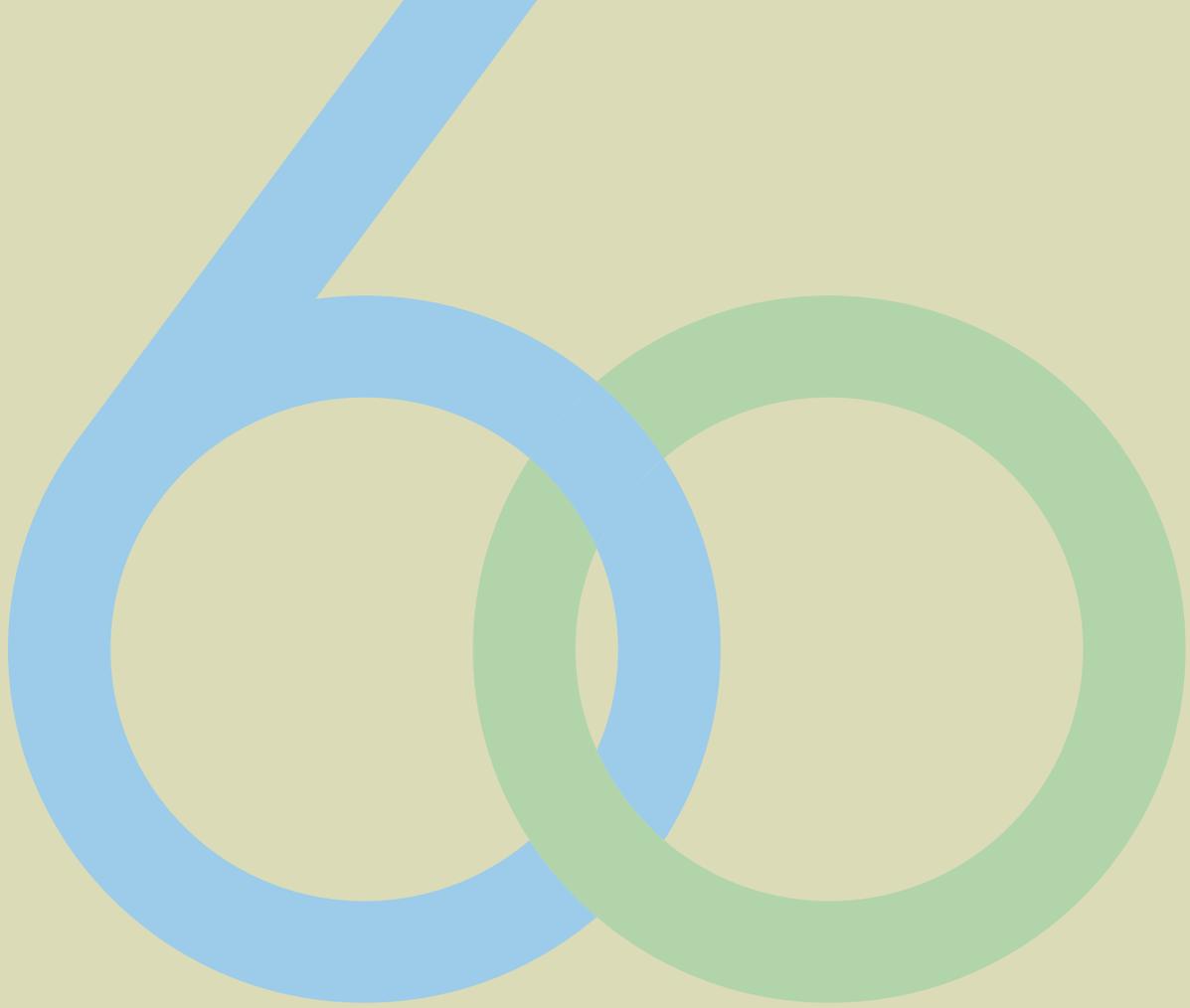
場所 || グリーンドーム前橋 サブイベントエリア

創立60周年は人の一生では還暦にあたります。60歳の誕生日を祝うと同時に新たなスタートを祝う場でもあります。

記念ワッペンにも表されているように、群馬県には上毛三山に代表される緑豊かな大地、利根川に代表される豊かな水資源があります。

この群馬の自然環境の中で、スカウトと指導者はまっさらな気持ちでスカウト活動を展開しましょう。

群馬県においてボーイスカウト運動を創立した先輩方に感謝すると同時に、更なる発展を誓う記念祝賀会と記念式典とします。



A n n i v e r s a r y
Gunma Council, Scout Association of Japan

群馬県連盟各団紹介
〈太田地区〉



太田地区 **太田第2団** 初期登録 昭和58年4月1日

団登録番号 5625



太田市の南、沢の地区を活動エリアとし「Learning by Doing」(行うことによって学ぶ)がモットー。体験を重視したプログラムを中心に、積極的な活動を展開している。

昭和58年に太田第5団から分封してカブスカウト隊が発団し、昭和60年にボーイスカウト隊が、続いて61年にビーバースカウト隊が出来、平成19年待望のベンチャースカウト隊が結成となった。

昨年5月発団25周年記念式典を開き、結成時の指導者、父母、友団指導者の参加を得て25年を祝い、これからの活躍を誓い合った。

ビーバー隊 隊長：曾山 茂
副 長：金井 せつ子
補助者：岡田 栄子
補助者：田島 千愛

カブ隊 隊長：福田 彰
副 長：岡田 美昭
DL : 小林 直樹
DL : 高山 儀一
DL : 小林 真寿美

ボーイ隊 隊長：小林 俊夫

ベンチャー隊 隊長：曾山 嘉一
副 長：鈴木 貴雄

団委員長 : 金井 英文
副団委員長 : 今枝 彰
団委員 : 土屋 博子

団委員 : 松本 博
団委員 : 金井 隆秀
育成会長 : 小林 良夫

団事務局 : 太田市本町 15-11 TEL 0276-22-6311 FAX 0276-25-5767

ホームページ

<http://bsoota2.hp.infoseek.co.jp>

群馬太田第3団



群馬太田第3団

- ・発団：昭和48年
- ・団委員長：奈良橋 俊宏
- ・副団委員長：竹沢 小谷野 ， 団委員：武田 田部井 堤 三留
- ・活動拠点：太田市宝泉地区（木崎、新田、宝泉、城西地区）
- ・事務局（入隊等窓口）：0276-31-7787 竹沢 哲（副団委員長）
- ・隊の構成

ビーバー隊 隊長：星野

カブ隊 隊長：高山， 副長：西 野口， デンリーダー：吉田 永田

ボーイ隊 隊長：原田， 副長：久保 岡田， 副長補：松本

（スカウト数：約40名）

・活動概要

活動は基本的に太田市宝泉公民館で日曜日（9：30～11：30，第1日曜を除く）に行っています。アポなしでの見学，体験入隊大歓迎です。

普通集会の他に春，秋のハイキング，芋ほり，キャンプなどアイデアを出し合いながら実施しています。特に保護者も参加大歓迎の夏の団キャンプ（2泊3日）は，毎年“伝説”が生まれる恒例で楽しみな行事です。

少子化の影響でスカウト数が少なかった時期もありましたが，指導者とスカウトが協力し“冒険の扉”を開くべく活動し，現在スカウト数は増えつつあります。



BP脚

5団タイムス

第24号 平成21年6月15日
ボーイスカウト太田第5団
発行責任者 津久井 義雄



ベンチャー隊発隊を祝して

団委員長 津久井 義雄

昨年発団50周年の祝事に続いて、今年はベンチャー隊の諸先輩、スカウト諸兄を迎えることができ何と目出たく、なんと喜ばしいことでしょう。さわやかな風が5団の中に吹き込んで新しい心地で、ベンチャー隊と共に足並み揃えてスカウティングに励むことが出来ることに素晴らしい喜びを感じております。このチャンスに保護者、指導者、スカウトが心を一つに結んで、共に輝かしい光に向かって歩いて行こう。

我等は更なる発展を期する為に、「初心」に戻って、保護者はスカウト運動を信じて、ご理解とご協力を、スカウトは「ちかい・やくそく」をもう一度振り返って実行に努める。指導者は「魅力ある質の高い」プログラムで誇りと自信を持って頑張る。大きな輪を広げるために、私も皆様の暖かいご協力にあまえて老骨に鞭打って頑張ります。



団と家族を結ぶ機関紙 (創刊号 平成15年2月～第24号 平成21年6月現在) 上記は24号抜粋

【太田第5団の紹介】

- 昭和29年7月1日 太田第5隊 エアースカウト隊として日本連盟に登録
- 昭和33年4月1日 登録番号173 太田第5団発団
- 平成20年11月23日 発団50周年祝典を挙行 記念樹「くすのき」を植樹
- 平成21年度 スローガン 『ベンチャー隊の新風を感じ、更なる躍進を目指して』

■主なプログラム

- ・元旦集会
- ・1泊スキー教室
- ・田植え→稲刈り→もちつき
- ・1泊キャンプ
- ・金山松の木オーナー(下草刈り)
- ・上進卒業旅行
- ・クリスマス会
- ・越年キャンプ
- ・太田市スポレク祭(うどん屋出店)
- ・その他

■人員構成

総人数	60名
【内訳】 団委員会	10名
指導者	17名
スカウト数	33名
(ベンチャー隊)	6名
(ボーイ隊)	11名
(カブ隊)	11名
(ビーバー隊)	5名

■役員名簿

団委員長	津久井 義雄
副団委員長	稲垣 稔
々	根岸 博
々	長谷川 光雄
々	古川 隆司
ベンチャー隊長	小沼 國幹
ボーイ隊長	尾島 正道
カブ隊長	横室 正道
ビーバー隊長	山家 春美

BS太田

第 6

団キャンプ



太田6団ベースキャンプ「北金井キャンプ場」



クリスマス会



スキー教室

三指 太田第6団は貴重な経緯があります。昭和27年1月25日に、新田第3隊・4隊で発足。同年新田6隊・7隊が引き続き発足したがその後指導者等の不足等により自然休隊となりましたが昭和34年に3・4・6隊が合併し深沢団委員長の元で再び活動が開始されました。しかし昭和43年に再度休隊となってしまうました。昭和58年に前団委員長の深沢氏が当時のスカウトだった成人有志6名と共に再々の6団の復活準備に入り、翌年7月8日発団式を行い、その年59年11月23日にボーイ隊を発隊して太田地区第6団として復活登録となり、活動を開始しました。ビーバー・カブ隊が昭和63年発隊、そして平成2年シニア隊が順調に発足したことにより団の構成が確立してまいりました。6団は太田市の北部「強戸地区」にあり、山・川・沼・田畑という自然の宝庫に恵まれています。平成20年この強戸地区内を北関東自動車道が開通したことにより情景が一変しましたが、米軍放出の「かまぼこ兵舎」が昭和35年北金井に移築された「北金井青少年野外訓練所」通称「北金井キャンプ場」をホームベースとし、変わりなく賑やかな声が聞こえています。団登録数も発足当時20名弱であったものが、強戸地区内に「成塚住宅団地」の造成分譲もありピークの平成11年度には105名を迎えることになりました。おりしも再発団から15周年の年でありました。そして平成11年8月7日から8日の一泊二日で15周年記念団キャンプが、天候にも恵まれ「金山の森キャンプ場」で挙行されました。そして初日の7日は関係者のご出席をいただき記念式典を多目的ホールで実施しましたが、発団以来共に歩んできた指導者も大変感慨深いものがあったのではないかと思います。それから10年経過した本年度、県連創立60周年に併せたかのように当団も25周年を迎えました。 弥栄

ボーイスカウト 太田第7団

発団 昭和54年4月1日

「経験こそ宝なり」

初代育成会長 故 山崎太一氏の「経験こそ宝なり」を信条に
スカウティングの枠にとらわれない、いろいろな体験を積み重ねる
ことにより、「知・徳・体」を兼ね備えたスカウトに成長し、正しく
生きる力を育み、立派な人格と教養を身につけた社会人になるよう
訓育しています。

太田第8団



太田第8団は、今は亡きボーイスカウト太田市連合会の先達であった北条富司氏と県連役員（桐生地区）の周東・青山両氏のご指導により1981年（昭和56年）の2月に発足し、3月に太田地区内の友団のご臨席のもと、当事太田市教育委員会委員長であった北条富司様をはじめ多くの諸団体のご参列のもとで、太田市毛里田地区内唯一のボーイスカウトとして発足記念式典・記念行事を毛里田小学校体育館で執り行い、同年6月4日付けをもって日本連盟から認証された。

当時は、カブスカウト1ヶ隊で発足したが2年次にボーイ隊が6年後にはビーバー隊も発足し、スカウトを持つ保護者だけで団委員会・団会議・指導者を構成し、スカウト育成に情熱を燃やして、スカウト活動の啓発等に保育園・幼稚園・小・中学校の協力によりスカウト活動の啓蒙・啓発をする中で団の振興・発展を促進した。

この発足5年目から夏のスカウトサバイバルキャンプとして伊豆七島めぐりを開始し、ボーイスカウトが計画した伊豆七島を一夏一島めぐりとして、式根島から始まったこのキャンプは5泊6日を基準訓練期間として、三宅島、高津島・八丈島等に展開し利島を除き6年間で全島めぐりを終了し、新潟県の佐渡ヶ島までの7年間のサバイバルキャンプは、船に乗るとホームシックにかかるスカウトや不登校児が島ではリーダーシップを発揮する等逞しい人間力を培う・生きる力を養う絶好の機会でもあった。

今年、県連60周年記念にあたり当団発足以来28年目であるが、今ではカブ・ボーイ隊共にスカウト経験の指導者がスカウトの健全育成指導にあたっており、今後は団としてスカウトの健やかな成長と逞しい人間力を培う活動を側面から支援していきたい。そのための団を支援する地区であり県連盟・日本連盟であることを願ってやまない。

ボーイスカウト太田第77団



私たち太田第77団は、平成4年5月24日、県内唯一の障害児スカウトを対象として、太田市矢場の古代村（当時）で、太田7団の前団委員長であった内田忠幸氏が中心になって発団しました。発団当初は、ビーバー、カブ、ボーイの7名でスタートしましたが、その後、多くのスカウトを迎い入れて、現在は太田市近辺の14名で活動しています。

すでに、4回の日本アグーナリー（全国障害児ボーイスカウトのジャンボリーに相当し、世界各国からも多くの仲間が参加します）を経験して、その他様々な行事に関わってまいりました。

普段の集会は、太田市立菰川小学校をメインに、基本訓練、ゲーム、ソング等ボーイスカウト本来の精神をプログラムの中心にしつつも、障害者にも無理のない内容を取り入れるよう工夫して実践しています。

リーダー以外に、保護者が非常に団の日常活動に協力的であり、プログラムや行事を計画する際にも、頻繁に会合を設け、相談しながら活動の幅を広げてくれています。

団のモットーは、「僕たちは自分のことは自分でします、僕たちは互いに助け合います、僕たちは進んでよいことをします」と三つの約束に集約して、規律を守り、団体行動を取れる心を育成して、自立して社会生活をおくれるようなたくましさを身に付けることです。

学校や家庭での教育とは別に、集団生活の訓練、宗教的行事への参加等、社会参加を目指しています。



さあ、みんな！！
僕たちと一緒に自然を楽しもうよ～♪



ボーイスカウト大泉第4団BS隊

ボーイスカウトは野外活動や奉仕活動を行いながら自分の力を高めていきます。
ボーイスカウトは班長さん(中学3年生)を中心にいろいろなことにチャレンジしていきます
笑いあり(^0_0^)、涙あり(ToT)/~~~ の活動が君たちを待っているよー☆
カッコイイ制服を着て冒険の旅に出かけよう(^_^)

僕たちと一緒に楽しもうよ～♪
☆バッファロー班☆のみんなです。

班員



大泉町立南小学校6年
すえまつ ちひろ
末松 千寛 くん

班員



大泉町立西小学校6年
わたなべ まさとも
渡辺 将寅 くん



ボーイスカウト大泉第4団BS隊の活動は??



技術を磨き、知識を学ぶボーイスカウト。

テントの張り方、地図の読み方、炊事や工作、自然観察など楽しく学びます。

夏には学んだ技術を生かして長期キャンプに臨みます。

みんなも一緒に活動してみませんか??

毎月第2・第4週の土曜日15時～日曜日12時まで

大泉町公民館や青少年広場でこのような活動を行っています。



みんなの5団 わたしの5団

私達の大泉5団は今年度（平成21年4月）で発団30周年を迎えました。その記念式典を9月に実施し、団指導者スカウトその御父兄全員でお祝いいたしました。

群馬県連盟に較べれば半分の道程ですが、ここまで来るには困難の連続でした。発団当初は指導者の不足から他団に支援を仰ぐ等の問題もありましたが、先輩達のご努力により今日を迎えることが出来ました。

私達の大泉5団はビーバー・カブ・ボーイ・ベンチャーの5隊で構成されています。団員総勢80名の仲間で春のハイキング、夏の長期キャンプその後に来る、交通安全週間への協力・炎天下の町道を中心とした清掃活動。冬のスキー・スケートそして、北風の中での募金活動、環境美化の一環での野外活動等。

奉仕活動を最頂点とする活動をビーバー隊からベンチャー隊まで全員で行なう事に重点を置いていつも元気に活動をしています。

又、団の発展、活性化ばかりでなく所属する太田地区への各種役員派遣、イベント開催の協力等積極的に取り組んでいます。

団委員長 高桑 幸望 団連絡先：邑楽郡大泉町朝日5-9-7

TEL 0276-62-5580

邑楽町第1団

昭和56年5月9日 発団：登録番号 5402



H21年 多々良沼 元旦

H21年7月 夏季キャンプ 浦山ダム探検



H21年入隊式 松本公園



邑楽町第一団は、「緑と水の町」といわれる邑楽町にあり、平地林と田園に囲まれスカウト活動には、恵まれた環境にあります。毎年、新年元旦は、白鳥が飛来することで有名な多々良沼にて、美しい日の出を拝むことができます。また、活動の中心地でもある松本公園では多くの植物、昆虫などが観察でき、キャンプなどの野外活動を行っております。発団以来29年、登録スカウト数も1000人を超え、ますます充実発展し続けます。

*団委員長 原 義裕

*育成会長

竹部 徹

*ベンチャー隊

*隊長：大塚 進哉

*副長：河田 友和

*ボーイスカウト隊

*隊長：内田 雅行

*副長：早川 千恵子

*カブスカウト隊

*隊長：夏目 正

*副長：大川 由明

*ビーバスカウト隊

*隊長：早川 千恵子

*副長；千川 瑞穂

群馬県連盟 館林第1団

初期登録 昭和34年、今年で結成50周年を迎えました。



三指

ボーイスカウト群馬県連盟60周年と同年に、館林第1団は結成50周年を迎える事ができました。そして、その活動を「時とき代」と題して記念誌とDVDにまとめる事も出来ました。改めて50年間の「時とき代」の厚みを実感しました。

この記念すべき年に登録員76名、ビバースカウトからベンチャースカウトまで、スカウト経験のある指導者の素で原点に立ち返り“館林のスカウト”らしさを見直して、それに新しい感性を取り入れたスカウト活動の展開に励んでいきます。

これからも、半世紀(50年)の歴史に負けないスカウト活動をしていきます。

館林第1団よろしく！！

弥栄

太田地区協議会

明和第一団

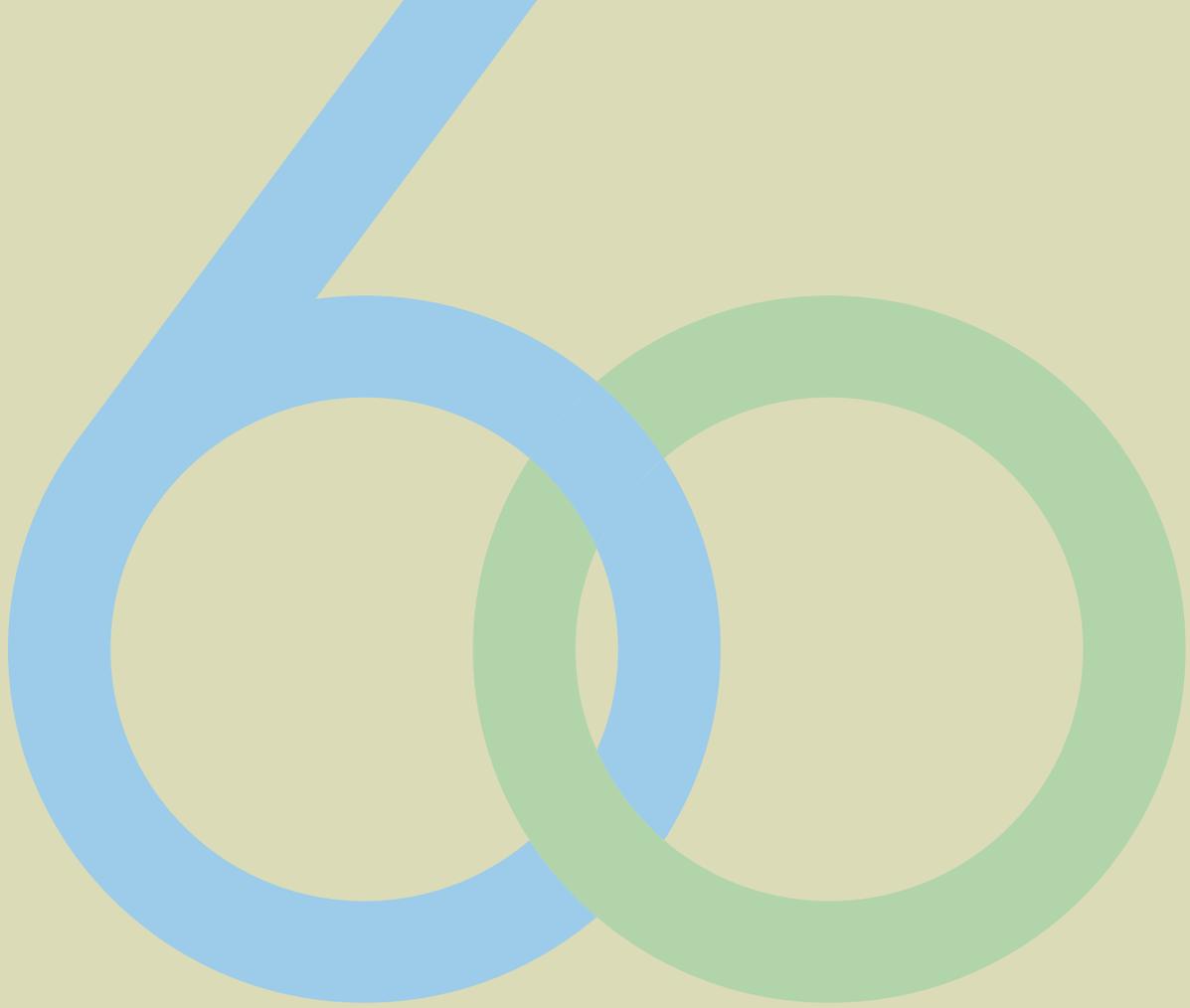
- 団委員長 落合明祐
- 活動拠点 明和町中央公民館 ふるさとの広場
- 登場人物 指導者20名 スカウト26名
- 隊の構成 ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊
- 年間行事 新年集会(うどん作り)、スキー・スケート教室
じゃが芋植え、収穫、体育館での奉仕活動、団キャンプ
産業祭での芋フライの販売、ナイトハイク

団紹介

明和第一団は平成元年に発団、地域の皆様のご協力を頂き結成する事ができました。特徴としては、団委員長の私も含め指導者全員がスカウト経験が無く、発団当時は「手さぐり」状態で右も左もわからない状態でした。しかし、ボーイスカウトの「ちかい」と「おきて」をモットーに、団委員、指導者が一つになって、誠実と礼儀、親切、協調性を発揮して現在まで活動してきました。

現在は指導者、スカウトともに勇気を持って楽しくスカウト活動にまい進しております。

継続は力なり、そなえよつねに



A n n i v e r s a r y
Gunma Council, Scout Association of Japan

群馬県連盟各団紹介
〈桐生地区〉



ボーイスカウト桐生地区

桐生第1団



ボーイスカウト群馬県連盟60周年

おめでとうございます。

『ボーイスカウト桐生第1団』も、昭和44年に発団し40周年を迎えることができました。
 桐生第1団はベンチャー、ローバースカウトを中心とする「ゆかいななかま」とともに、“明るく・楽しく・元気よく”をモットーに、キャンプや奉仕活動を通じた活動を展開しています。
 最近ではスカウトの就職等により活動回数は減少していますが、今後も実のあるスカウティングができるよう、リーダーとスカウトで協力してがんばっていきます。

弥栄

初期登録

団 : 昭和44年4月1日
 ボーイ隊 : 昭和45年4月7日
 ベンチャー隊 : 平成6年4月1日
 ローバー隊 : 平成8年4月1日

育成会長 : 小堀 順
 団委員長 : 角田 亘
 副団委員長 : 中村 昌美 深沢 秀子 団委員 : 3名
 ボーイ隊 隊長 : 中村 博 副長 : 金子 研介
 ベンチャー隊 隊長 : 小堀 哲男
 ローバー隊 隊長 : 世取山 重剛



群馬県連盟発足60周年おめでとうございます。

私たち、桐生第3団も発団以来、今年で早や40周年を迎える事が出来ました。

現在桐生第3団のスカウト数は、ビーバー 5名、カブ 11名、ボーイ 12名、ベンチャー 11名、隊指導者 11名、団委員等 11名、計59名です。

活動は、各隊とも、野外を中心として、何事にも積極的に参加をして、ありとあらゆる事からも知識を吸収し、一回り大きく育っております。これまでには、東京ディズニーランドや日光へサイクリングに行ったり、ペットボトルでボートを作って、川遊びをしながらエコについて学んだり、門松を作り、老人ホームへの慰問やユニセフ募金等の奉仕活動などなど・・・

今後も楽しくスカウト活動を展開したいとおもう。

ボーイスカウト桐生第5団



5団シンボルカラー
マークキャップ



団 合同キャンプ



初日の出登山

弥 栄

ボーイスカウト群馬県連盟60周年、おめでとうございます。
我が『ボーイスカウト桐生第5団』も、昭和45年4月に発団し、本年、40周年をむかえました。
5団の活動は、先人たちから受け継いだ**奉仕の精神**に基づき、桐生市ボランティア協議会の身障者ハイキング等の奉仕を、開始以来30年以上にわたり実施しております。今後も長く続けられる奉仕活動を通じて、スカウトや指導者、団委員、保護者との連携をより強固にしていく事を5団の柱として頑張っていきたいと思っております。
年間の活動としては、1月・初日の出吾妻山登山、3月・スキー訓育、8月・海浜訓育、9月・V協身障者ハイキング、その他団合同キャンプ等、様々な隊活動のほか、団の楽しい集いの場として活動を展開しております。
このすばらしい“ボーイスカウト活動”を通じて、スカウト、指導者、団委員、保護者のみなさんと歩んでいきたいと思っております。

ボーイスカウト桐生第5団 団委員長 田村 敏明

活動拠点：桐生山鳳仙寺・桐生市民広場・西公民館・相生公民館

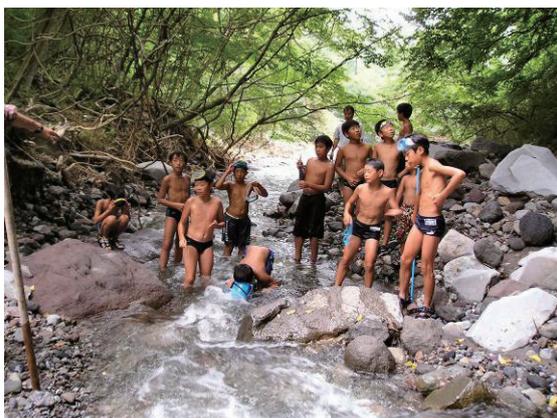
団委員長：田村 敏明 副団委員長：明石 智治
 育成会長：吉田 光文 団委員 ：10名
 ビーバー隊 隊長：田村 祥太郎
 カブ隊 隊長：田島 稔也 副長：植竹 隆志
 ボーイ隊 隊長：大須 岳志 副長：長南 勝彦
 ベンチャー隊 隊長：岡田 光市 副長：田村 淳 ・ 和田 光人

桐生第六団

大自然の中で

元気な

スカウティング



発 団 1958年4月30日

桐生第8団

所在地：桐生市東1丁目13-27 桐生カトリック教会

登録番号：3676 初期登録 昭和46年5月12日

ボーイスカウトの精神をもとに、キリスト教的社会観、道徳観を養い、円満な社会人となるべきスカウトを訓育することを目的とする。



育成会長 彦部 雪夫



ビーバー隊長 椿 律子

団委員長 荒井 秀夫

団委員 関口 安三

ボーイ隊長 富井 秀則

〃 小野 幸代

〃 副長 藤川 勝将

〃 朽津 美知江

カブ 隊長 藤川 幸男

〃 樋口 正恵

〃 副長 粉川 裕介

ボーイスカウト群馬県連盟60周年おめでとうございます

桐生第10団 団委員長 梅沢 信三

60周年記念に当たり、当団の歩みと思い出等について書かせて頂きます。

私達、桐生第10団は1963(昭和38)年12月15日(株)三ツ葉電機製作所(CI導入後(株)ミツバと社名変更)企業スカウトとして組織化された全国でも珍しいスカウト集団でボーイスカウト(シニア隊・ローバー隊)として発足しスカウト一人一人が新藤隊長の前で三つの誓いを約束した事が鮮明に残っておりこれがスカウティング活動の第一歩であった。

しかし、発足当初、スカウティング活動をどう進めて行くのか? 試行錯誤で・・・?
ボーイスカウト活動を理解する上でポケットブックを通じて隊集会、班集会等で進級1級スカウトをまず取得しようとチャレンジした。この勉強がボーイスカウトの考え方・知識・技能向上へ伝わったと今、痛感しています。

私達企業スカウトは、まず初め良き企業人、社会人になろうと云う事よりも人に迷惑をかけない人間になろうと云う事を最優先に活動した様に思いました。

その中でも時間は守る→時間を大切に作る精神を身につけていった。そして楽しい活動を出来る組織体制(企業)もしっかり造ってくれました。スカウト活動を支えてくれた育成会・団委員の方々も各職場の部課長でバックアップして頂き、会社トップの方々も全面的に支援頂き今も感謝・感謝の気持ちでいっぱいです。

昭和39年頃からスピードを上げ県連・そして桐生地区リーダーによる各種研修会及び、交流会等が活発に展開されスカウト一人一人のスキル向上とスカウト仲間が増え充実した日々楽しいスカウト活動が継続されて行きました。

当時、私達も青少年であり自然の中でのキャンプ生活を通じ、スカウト同士の絆が出来少しづつ班集会等を通じ企業(会社)の為、社会(地域)の為・・・に何か貢献出来ないか?

奉仕精神(ボランティア活動)を理屈抜きに現場・現実主義で自発的に実践しました。

①社内への奉仕(社員の方々から感謝される活動)

- ・当時、会社への通勤手段は自転車(90%以上)でした。その為、交通安全と災害0を目指し毎日4～5名が交通整理実践し・・・地域・社員から大変感謝されました。
- ・桐生祭大パレードにも参加しプラカード持ち・交通整理、駐車場のごみ拾い等・・・多くの方々からありがとう、ご苦労様と言われ大変励みになりました。

②桐生地区活動への積極的参画

地区活動を通じ、ボーイスカウトの祭典日本ジャンボリー、県キャンポリー、地区キャンポリー、団でのキャンプ等、自然の中での野外生活を学び貴重な体験をした。

テントの張り方、炊事、そしてキャンプファイヤー等、やはりスカウト知識・技能を身に付け頭だけの活動で無く、人としての5感を活用した快適な野外生活を思い出す。

沢山の仲間、そして沢山の先輩達にスカウト精神を導いて頂き書きたい事は多々ありますが60周年記念に当りこの場をお借りし厚くお礼申し上げます。

最後に変動の激しい国際社会、そしてグローバル化等、ますます厳しい時代に突入しております。桐生第10団(株)ミツバのスカウト達も現在スカウト精神で海外・そして国内の関連会社等で重要なポジションを任せられて賢明に活躍しております。

今後、桐生第10団としてもボーイスカウト活動にどういった形で貢献出来るか? どう貢献したら良いか?・・・真剣に考えて行きたいと思えます。

改めてボーイスカウト群馬県連盟60周年に弥栄を送ります。



～桐生地区協議会～



ボーイスカウト
桐生第13団



【発団年月】

カブ隊：平成 9年3月
ボーイ隊：平成10年9月

【ボーイスカウト桐生第13団】

団委員長：横須賀 邦一
育成会長：太古前 敦司
団委員：田村 良太郎
団委員：牧 守
団委員：佐々木 千恵子
団委員：太古前 恵

【カブスカウト隊】

隊長：阿部 好野
副長：原 香里
デンジャー：岩崎 玲子
スカウト：原 穂香
スカウト：増山 隼太
スカウト：末永 直大
スカウト：太古前 虎太郎

【ボーイスカウト隊】

隊長：伊藤 繁義
スカウト：石原 司
スカウト：増山 峻也
スカウト：岩崎 もも
スカウト：原 葵
スカウト：太古前 茜



桐生第14団



桐生第14団は1973年4月にカブ隊、1976年にボーイ隊、1987年にビーバー隊、1999年にベンチャー隊がそれぞれ発隊しました。

現在、団委員長田村忠之、育成会長出口孝二郎のもと、2名の富士章指導者をはじめ多彩なメンバーによりスカウトの訓育を行なっています。

現在の登録数はスカウト32名、指導者18名の計50名と近年スカウトの減少が傾向となっていますが、「いつも元気に、のびのびと」をモットーに野外を中心に活動しています。

団では、新たな野营地2haを思う存分活用しての団キャンプや恒例のクリスマス会、もちつき大会を行なっています。

ビーバー隊（新井隊長）は、野外でスカウトと保護者が楽しめる集会をモットーに、スカウトがたくさんのことを経験できるような集会を実施しています。

カブ隊（西場隊長）は、山の中にある野营地での秘密基地づくりや他団との交流キャンプなど、また今年からはさつまいも作りにも挑戦しています。

ボーイ隊（野崎隊長）は、野营地を中心にキャンプやハイキングなどスカウト技能の向上と精神的なたくましさを養っています。

ベンチャー隊（松井隊長）は、常に挑戦をモットーにキャンプやハイキングなど実施するとともに、県連・地区行事への奉仕も行なっています。



桐生第17団 ～BVS-CS-BS-VS-RS～



平成21年度「スカウトの日」環境美化活動

〔団の沿革史〕 昭和53年桐生15団より分封、スカウト30名リーダー13名団委員7名で発団する。昭和57年5周年記念式典ボーイ隊30名カブ隊34名となる。60年5月ボーイ隊5周年式典スカウト39名リーダー4名となる。61年11月桐生地区技能大会全18賞の内15個受賞、各班最高の出来でした。62年ビーバー隊発隊スカウト5名リーダー2名。62年11月カブ隊10周年式典(勢多郡東村農村センター)12月クリスマス会、この時からカブ隊ビーバー隊の恒例行事となる。63年6月群馬県連盟年次総会にて善行綬を授与される。58年より毎年12月に桐生駅・新桐生駅・公共施設等にスカウト達が心を込めた門松を贈呈奉仕活動がマスコミに報道される。又この奉仕活動は27年続けている。平成2年ボーイ隊10周年式典(産文)シニア隊発隊スカウト12名リーダー2名、OB会発会式挙行。4年9月シニア隊準章授与式。5年4月ローバー隊発隊スカウト15名リーダー2名。桐生地区において5ヶ隊を持つ模範団となる。5年5月日本連盟総会において渡邊日連総長より栄誉の公共奉仕綬を授与(広島国際会議場にて)8年12月17団初の富士章取得(松本光広)9年9月17団20周年式典(桐生野外活動センター)スカウト・リーダー165名参加。16年4月桐生2団が17団に移籍(スカウト・リーダー24名)17年4月桐生12団が17団に移籍(リーダー・スカウト16名)5月ボーイ隊(社)日本善行会から表彰される。17年9月ボーイ隊25周年 ベンチャー隊15周年記念式典(赤堀せせらぎ公園)18年11月富士章取得(浅井菜穂)19年9月17団30周年記念式典(桐生野外活動センター)21年4月桐生9団が17団に移籍。12団より受継いだ鼓隊は県連盟唯一の鼓隊として活躍し、良き指導者に恵まれ練習に励んでいます。ボーイ隊が頂いた日本連盟公共奉仕綬・日本善行会表彰は17団の宝であり、団を継続する大きな力になっていると思います。

ROVER SCOUT 隊 桐生第20団

初期登録

団 : 昭和55年4月26日
ローバー隊 : 昭和55年4月26日



育成会長 : 飛田 清雄
 団委員長 : 後藤 和俊
 副団委員長 : 竹田 賢一
 団 委 員 : 島田 保彦 新井 庫太郎
 長野 雄二 斎藤 久雄
 井上 藤男 鶴貝 忠七
 吉田 節子 高城 明
 金子 章 松井 隆
 高松 富雄 新藤 洋一

ローバー隊

隊 長 : 江原 雅人
 隊 長 : 吉田 光宏 川合 誠司
 後藤 弘行 長 成一郎
 隊 員 : 杉山 愼也 岸 克幸
 森田 将行 周藤 猛史
 鳥島 一浩

群馬県連盟発足60周年おめでとうございます。

桐生第20団は、地区団としてローバースカウト隊だけの団として昭和55年に発団し、本年県連総会にて30年綬を頂きました。その間、地区ローバーとして、県連や地区の行事に、スカウトとして、またスタッフとして奉仕しました。

個人活動を中心に「ローバーリング」を実施しています。

ボーイスカウト 大間々第一団



水とみどりの町、みどり市の中央に位置する大間々町を拠点に活動しています。

モットーは質実剛健。

昭和40年に発足して以来、44年の歴史を持ち、カブ・ボーイの二隊での構成ですが、スカウトたちは互いに連携をとり、協力しながら活動を展開。質素を第一義として実践していくなかで、和気あいあいと楽しい時間を過ごしています。



今年で43回目となるわたらせ養護園へのもちつき訪問では、日本連盟より公共奉仕役の表彰を受けるなど地域に密着した活動を続けています





伊勢崎第12団 カブ隊発足 昭和58年4月1日

伊勢崎市の中心街に、本光寺と言うお寺があります。その境内でこども等がにぎやかに遊んでいる。そのお寺の住職がボーイスカウトカブ隊を立ち上げて活動していた。お寺の入り口で手引きリヤカーで売っていた。お客の中でこどもをカブ隊に入れていた人もいた。こども等を外へ出したらと話がはづみ出した。

昭和61年に男性指導者5名デンマザー5名スカウト20名集まり当初は桐生地区の佐山弥一郎氏を団委員長に隊長に住職の荻原修音氏にお願いしました。

雨天の時は、寺院の一部を借り、クラフト、プログラム作りを始め、ハイキングや、市中を流れる広瀬川の河川敷を他のボランティア活動の団体と一緒にゴミや空缶拾いの奉仕活動をやってきました

指導者の研修会に参加 昭和62年

スカウト達も順調に増え、指導者も各種の研修会に参加し、スカウト活動に積極的に生かして来るようになり、スカウトも30名にもなり、3、4、班編成にと、増えてきた。

ボーイ隊初足 昭和62年

カブスカウト17名 ボーイ隊22名 指導者15名で活動が始まりました。カブ、ボーイ隊のWB研修所へ参加し指導能力を身につけるようになり、奉仕活動やキャンプにも熱が入ってきました。

ビーバー隊発足 平成10年4月

ボーイ、カブ隊を兄姉を持つ子供等にビーバー隊を作り9名のスカウトが集まり、伊勢崎第12団大きく成長しています。桐生地区のビーバー大集会に参加し楽しい一日を過ごしました。

桐生地区協議会 藪塚第一団

団本部 : 〒379-2304 太田市大原町 638-20 高橋新一方 0277-78-2823

育成会長 : 大隅勝巳 団委員長 : 高橋新一

藪塚第一団は、昭和 57 年(1982)桐生地区組織拡張の施策として、桐生広域の、藪塚・笠懸・新里に新団発団を狙いとし 1 年間の準備期間を費やし、赤城国体の年、**昭和 58 年(1983)4 月に団委員・リーダー 16 名、カブスカウト 29 名でカブ隊発隊、発団**をいたしました、当時は、隊長のみ桐生 11 団での隊長経験者で他のリーダーはボーイスカウトを知らない熱意に燃え向上心あふれた父兄の集りといった状況でのスタートでありました。



昭和 59 年(1984)4 月 ボーイ隊発隊

前年発隊したカブ隊から、11 名が上進するに当たり、桐生 11 団に所属していたスカウト 4 名と共に初代隊長が移籍、加えて伊勢崎から 6 名のスカウトを含む 21 名のスカウト、3 名のリーダーでボーイ隊が発隊しました、当時はキャンプ用品も乏しく準備整わない状況の中で、キャンプ地も無く寺の境内、スカウト父兄の所有する空き地、公共施設の松林等借用し質素ながら楽しかったキャンプを思い出します。

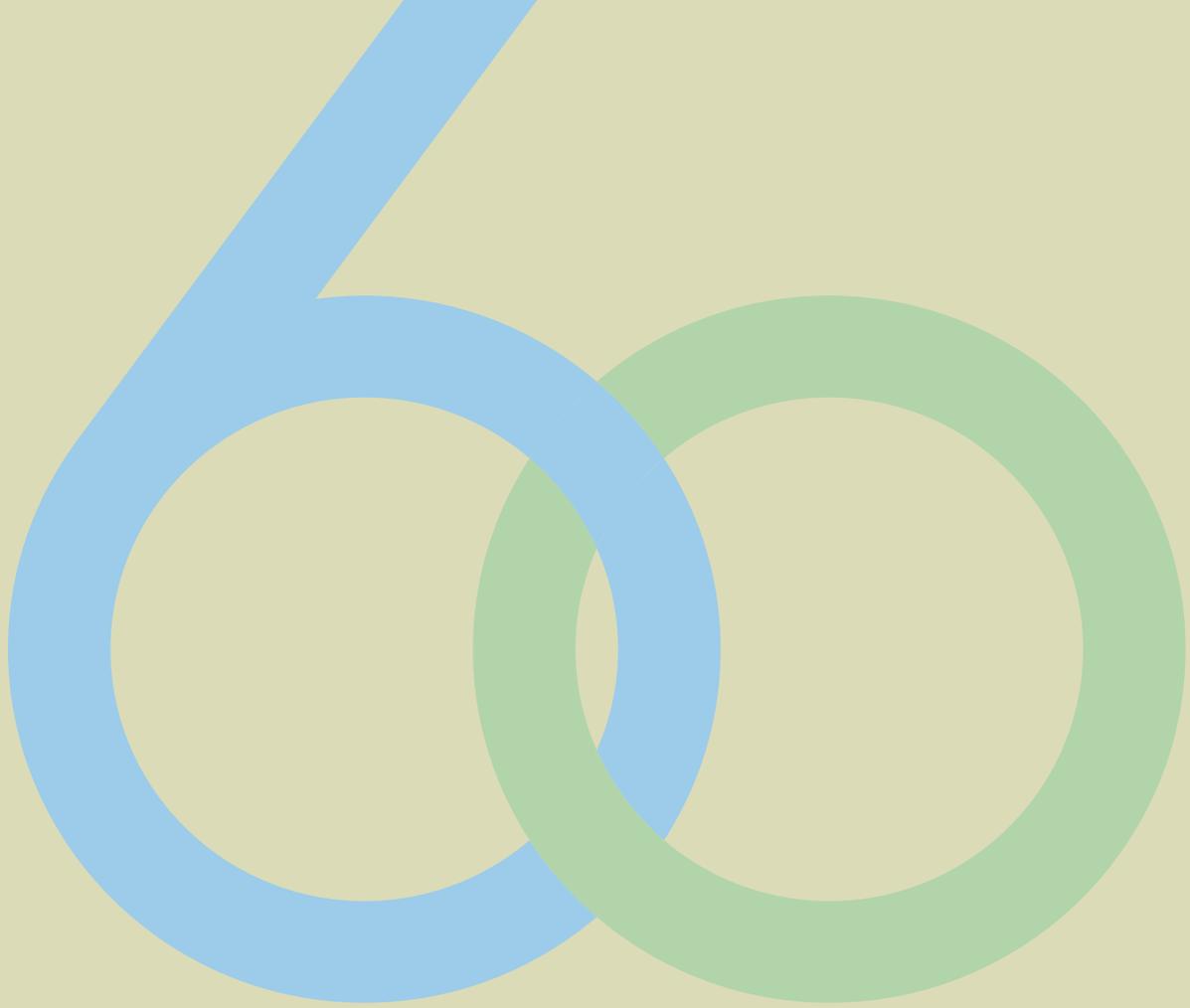
平成 4 年ビーバー隊発隊

カブスカウトの弟達がカブの集会の折に、一緒に遊びたいというニーズから気運も急上昇し父兄の参加と理解から、スカウト 7 名、リーダー 4 名でビーバー隊が発隊しました。

藪塚一団も平成 4 年ビーバー隊の発隊により、名実共に桐生地区協議会の所属団として活躍できる団になりました。県連行事・地区行事等スカウトと共によりよきスカウティングを実践しスカウト家族の拡大に努力してきました。

当団は地区と共に歩んで 27 年、順風満帆に至ったわけではなく、活動・運営について指導者・団委員・育成会がともに悩み、いかに伝統を受け継ぎ継承するか、団を今日まで築き支えてきた諸先輩に感謝すると共に、現在の団の状況は、ボーイ隊のみで団委員・リーダー 4 名スカウト 9 名と発団当時を省みると寂しい限りである、今後の時代に即応したスカウト活動、組織の拡充、ボーイスカウトの意義・広報をどう PR するかを真剣に考えどう対処していくか、昨今のスカウトの減少は、我が団のみでなく地区協議会、県連、日本連盟とも憂慮すべき課題と思う、将来にむけて

更なるスカウト活動の隆盛を目指し今後ともよりよきスカウティングを展開していきたいと思ひます。



A n n i v e r s a r y
Gunma Council, Scout Association of Japan

群馬県連盟各団紹介
〈高崎地区〉





高崎市の北部郊外、田園地帯が広がる自然豊かな環境を擁し、スカウト達が自由に駆けめぐり、自然と一体となって活動できる。また、高崎観音の丘、奥深く自然林に囲まれた一角には、8団専用のキャンプ場を持ち、少年たちの冒険心と、チャレンジ精神を満足させてくれる。世界ジャンボリー、日本ジャンボリーへのスカウト派遣、恒例の夏の団キャンプ、元旦の御来光登山、オーバーナイトハイク等、団行事のほか、各隊の楽しいプログラムを展開している。我が、8団も、40周年を迎え、益々、発展を期すよう活発な活動をこころがけていきたい。

隊登録

C S 隊	昭和44年	5月20日	育成会長	上原智子	
B S 隊	昭和45年	4月1日	団委員長	清水賢次	
V S 隊	昭和47年	4月1日	副団委員長	茂原幸夫	
R S 隊	昭和50年	4月1日	団委員	須藤忍	内藤恵美子
B V S 隊	昭和62年	7月29日		最賀順子	佐藤弘美
原 隊				青山知美	須藤朝子
B V S 隊	隊長	梅澤剛	副長	堀口朋徳	
C S 隊	隊長	須藤正	副長	井野真	鳥羽康彦
B S 隊	隊長	丸岡克幸	副長	須藤貞男	上ノ山吉二
V S 隊	隊長	上原哲也	副長	内藤清	
R S 隊	隊長	内藤清	副長	須藤欣司	



高崎第 17 団は高崎市の東端、しだれ桜で有名な慈眼寺に本部を置き、境内地内広場を拠点として活動しています。木々に囲まれた広い境内ではキャンプも可能で、環境に恵まれており、野外活動に事欠くことはありません。また毎年、入団上進式は夜の本堂で執り行われ、年末には除夜の鐘の下、新年の誓いを立てたり、お正月とお盆には寺での接客奉仕をしたりと、お寺ならではの活動を行っています。

団の主な行事としてはその他、初心者でも必ず帰りの日には滑れるようになる 1 月の尾瀬戸倉でのスキー訓練、自分の限界に挑み、榛名湖から慈眼寺まで走破する 5 月のオーバーナイトハイク、一年間の総決算である夏の団キャンプ、みんなで食べるカレーを楽しみに行う 9 月の地域清掃奉仕活動、自分達でつくと、より一層美味しい 12 月の餅つき大会など、年間を通して行事が目白押しです。

昭和 40 年の発団以来、高崎地区の中でも多くのスカウトを擁する団として、今日まで各所で活躍してきました。2007 年にイギリスで行われた第 21 回世界ジャンボリーには県内でも屈指の 7 名ものスカウト、指導者を送り出しており、その他、地区野営大会、県野営大会、日本ジャンボリーへの参加など、活発な派遣活動も行っています。

高崎第 17 団
TAKASAKI 17 団

団	1965.4.01.	No.2579
BVS	1986.7.16.	No.0435
CS	1965.4.01.	No.0936
BS	1965.4.01.	No.4142
VS	1984.4.01.	No.3010

団委員長	吉井良弘	副団委員長	白石勤、井田さつき
育成会長	高田博一		
BVL	山田真	ABVL	北川信行、深澤裕美、小山清恵
CM	深澤幹雄	ACM	白石勤、高柳昌弘
SM	日山隆夫	ASM	反町浩三、中曽根幸子、清水くみ子
VL	吉井良肇		三木智子、五十嵐邦子、木村千恵子



高崎 18 団は昭和 40 年（1965 年）の秋に発団、今年で 44 年になります。
活動地域は、高崎城東小・中居小・佐野小・矢中小学校等市東部を中心として
います。合計 121 名のスタッフとスカウトが加盟しています。

団委員長 國時 武、副団委員長 川山豪彦、吉井宏文
育成会長 有賀長規 他団委員 5 名

ビーバー隊（指導者 7 名 スカウト 6 名）

隊長 新井文明

副長 高橋幸代、柳田明男、合田奈美枝、小笠原久美子、丸山正之、野口規子

カブ隊（指導者 12 名 スカウト 35 名）

隊長 高村敏之

副長 木部康弘、五十木孝昭、女部田宏行、佐藤 明、神保雅行、東 健二
増谷幸乃、柳川常子、吉井玲子、瀧澤和子、正田将史

ボーイ隊（指導者 6 名 スカウト 20 名）

隊長 早川和志 副長 清水圭子、吉田晶徳、正田則子、清水直道
インストラクター 小内章好

ベンチャー隊（指導者 3 名 スカウト 13 名）

隊長 金井一浩 副長 原 浩志 インストラクター 吉井宏貴

ローバー隊（指導者 2 名 スカウト 8 名）

隊長 大川幸一 副長 花岡史子

高崎地区

高崎経済大学

ローバースカウト部

発足日 昭和41年6月1日

高崎19団



我々高崎経済大学ローバースカウト部は、「自己成長」という言葉を目指し、日々の活動で社会貢献・地域貢献を行っています。また、大学の部活である為、スポーツを通して心身ともに健全で社会性豊かな人間になれるように頑張っています。



団構成 団委員長 長谷川 秀男
隊長 川山 豪彦
幹事長 橋本 憲 武山 愛
部員 57名

高崎第21団

■所在地 高崎市新高尾・浜尻地区

■団登録 昭和53年（1978）5月15日 カブ隊・ボーイ隊

昭和61年（1986）4月1日 ビーバー隊



◇21団の仲間たち（21年9月）◇

- ◆ボーイ隊 隊長 横須賀健一 副長 渡辺泰敏
スカウト 渡辺敦思 渡辺達哉 金井翔太郎 阿久澤秀磨 柏木将汰
- ◆カブ隊 隊長 柏木雅一
スカウト 大橋駿斗 高橋厚 外丸征太郎 関口槇斗 阿久沢瑞紀
松田実那子 高見沢仙美 橋爪美紀 平野真衣 阿久澤真彩
隊奉仕者 外丸幸子 阿久澤ゆかり 高橋裕美 松田マサ枝 高見沢正子
橋爪隆子
- ◆ビーバー隊 隊長 石田哲博
スカウト 松田莉彩子 関口梨奈子 平野颯人 吉岡駿太 福島かな恵
福岡琉太
- ◆団委員会 団委員長 奥野秀行 副団委員長 森田賢一
- ◆育成会 会長 金井淑幸 会計 阿久沢みどり
理事 大橋美葉 関口由紀子 平野正樹 福岡哲彦 福島守

高崎21団、スカウトの仲間はちょっと少ないけれども、元気に仲良く活動しています。得意の分野は料理、そば・うどん・ラーメン・親子丼・ピラフ・ぎょうざ、何にでも挑戦、キャンプの料理はサイコーです。こままわし、ベーゴマも得意技 手作り、ものづくりにこだわったスカウト活動を楽しんでいます。



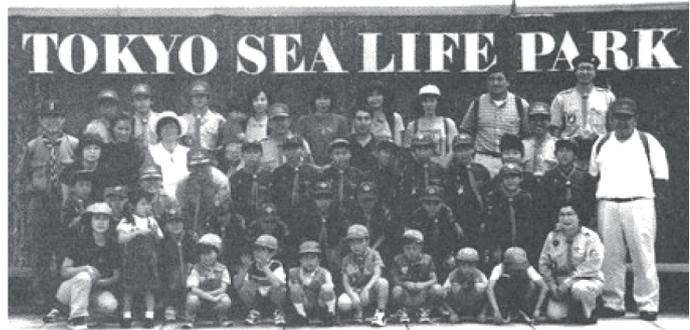
昭和55年発団時の12人



昭和58年 4代目のカブスカウト



平成2年 高崎祭り



平成12年 葛西の水族館見学



平成21年 クリスマス会



平成21年 清掃奉仕

60周年記念誌発刊を祝して

ボーイスカウト群馬県連盟高崎第22団

ボーイスカウト群馬県連盟 60周年を迎えられました事を、お慶び申し上げます。私達の団は、昭和55(1980)年4月1日に発団しました。

初年度 CS 12名

10周年(1990) BVS 3名、CS 9名、BS 19名、SS 9名、RS 6名

20周年(2000) BVS 3名、CS 9名、BS 19名、SS 9名、RS 6名

29周年(2009) BVS 12名、CS 20名、BS 25名、VS 15名、RS 14名

発団時12名のスカウト集団が86名のスカウト集団に成長しました。

団の継続行事は、ユニセフ募金、クリスマス会(12月)、スキー訓練(1月)、県外見学(6月)、団キャンプ(8月)で、特にクリスマス会と団キャンプはスカウト・指導者とも楽しみの行事になっています。

毎年春と秋に募集活動を行い、登録110名確保の努力をしております。来年は設立30周年に成りますので、節目として式典を執り行いたいと考えています。指導者もベテランが多く若い人が少ないのが気になりますが、たえず切磋琢磨して新鮮なプログラムを提供し、スカウティングに励んでいます。ローバーになると殆どのスカウトは県外に転出し、現在団内に指導者として残っているスカウトが4名であることが懸念です。団の歴史を物語るのは昭和55年当時の12名の育成会員の方々です。バイタリティあふれる支援でスカウト活動を裏方として支えていただきました。その伝統が今でも何らかの形で次世代へ受け継がれ、時代にマッチした会員の努力が現在に至ったのです。団委員、指導者の世代交代が余り進んでおりませんが、団の発展を考えると、新しい世代が団の発展に携わって頂きたいと思っております。

30年の長きに涉って存続出来たのは、地区、県連盟内の多くの方々からのご指導、ご支援が有ったからではないでしょうか。団員全員が結束を固め地域社会に根を下ろした活動を行い更なる発展を遂げて行きます。

弥 栄

高崎地区 ボーイスカウト群馬町第1団



群馬町第1団は、1977年に発団し、今年で32周年を迎えました。当団は高崎市の旧群馬町、箕郷町を中心として活動しており、発団当時はカブ隊だけでしたが、その後、ボーイ隊、シニア(ベンチャー)隊、ローバー隊、ピーパー隊と増えてゆき、現在は全5隊、総勢70余名の団です。

当団の特色は、5隊間同士のコミュニケーションを密に取り合い、団会議はもちろん、それぞれの隊でのイベント的集会(「カブ旅行」や「くま招待キャンプ」等)では、隊を越えて指導者やスカウトが手伝いを行ったり、他の隊の指導者やベンチャースカウト、ローバースカウトも一緒になって集会を企画し実行するチームワークのある団であることです。そしてそれは、ピーパー隊からカブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊、ローバー隊にとスカウトの上進する楽しみや、指導者にとっても大切に育ててきたスカウトを安心して上進させることができることに繋がります

楽しくなければ続かない、でも、楽しいだけでは何も学ぶことができない。厳しい中にも楽しさを見つけられるような、基本に忠実にかつ柔軟性を持った“スカウティング”を目指して日々活動しています。

玉村町第1団の紹介



昭和57年（1982年）5月19日設立より、玉村町第1団は佐波郡玉村町内利根川河川敷公園内の角淵キャンプ場を中心に四季を通じて楽しく活動しています。現在合計40名のスタッフとスカウトが、団キャンプ、クリスマス会、スキー合宿、魚釣り、野外炊飯などのスカウト活動を元気に楽しんでいます。



★団委員長:林高行

育成会長:原千恵子

団委員:石川雅美 田中克宗 山瀬博義 関沼明人 栗田夏美 山下由紀子

★ビーバー隊(指導者2名 スカウト3名)

隊長:横山裕子 副長 茂木健一

スカウト:茂木萌愛 中村亜海 滝真由子

★カブ隊(指導者4名 スカウト7名)

隊長:斉藤慶憲 副長 山口泉 デンリーダ 中村由佳

スカウト:田中翔也 栗田祐希 山下哲平 中村陸希 近藤花菜 清水翔太 斉藤樹

★ボーイ隊(指導者2名 スカウト9名)

隊長:安倍隆二 副長 関口順子 杉山効永 クリス・サミノ

スカウト:関口貢 山口風花 原太郎 横山采音 山瀬みゆ 阿久沢美月 横山百香
斉藤剛 杉山智樹

★ベンチャー隊(指導者1名 スカウト4名)

隊長:入部順次

スカウト:入部佑太 関口つばさ 星遼太 横山貴大

★ローバー隊(指導者0名 スカウト0名)

★玉村町第1団メールアドレス : bs_tamamura1@yahoo.co.jp

平成21年10月7日 編集:山瀬博義

吉井第1団

◆連絡先◆ 高崎市吉井町吉井175 Tel・Fax 027-387-2559
吉井第1団・団委員長 高山峰治



私たち「吉井第1団」は発足から凡そ30年たちますが、最近の子供の遊びの多様化や少子化の影響で、ご多分にもれずスカウト人数(特にカブ、ビーバー)が中々伸びません。

(VS1.BS5.CS4.BVS1.L5 団委員5)現在、班制度を保てるぎりぎりのラインですが、人数が少ないだけに「ちかい」「おきて」についても個々のスカウトの性格に応じた実践の指導を心がけるなどリーダーや団委員の目配りが行届き、指導者とスカウト個人との絆づくりが強いというメリットでもあるかと考えています。

*

私たちの活動拠点は、廃校となった入野小学校の多比良分校です。5年前廃校後の利用を募ったところ、当時手を挙げたのはボーイスカウトだけ。(冷暖房完備でないといや手を挙げるグループは無いのです)

お蔭さまで一教室を専用に借用でき月例集会のベースとなりました。校庭の使用もフリーなのでテントサイトの設営訓練などもいつでも可能。

周辺地域も、里山が広がる中山間地域でハイキング、読図訓練のフィールドには最適に近い条件をそなえています。

*

こうした中で、テント設営・野外料理のどの野営スキルの修得と読図のスキルアップを、現在訓練の目玉として力を入れています。本物の自然に触れる機会の少なくなった今の子供たちにとって、スカウティングに基づいた活動をするには理想に近い施設といえます。

今後はプログラム内容の更なる充実と地元地区の活動にも協力し、BS活動への理解を深める好意度UPを図ることを目標として活動して行く所存です。(高山記)

弥 榮 群馬県連盟創設60周年

(1949年～2009年)

安中榛名第1団

加盟登録番号:10-04-09-001

団登録年月日:平成5年12月6日

団本部所在地:高崎市下室田町208-A-1

富田方 027-374-5917

安中連絡先 :安中市原市3-3-33

多胡方 027-385-0207



『一番大切なときに、一生に残る体験を』



【 松井田第一団 】



松井田第一団は1999年の秋に発団。おかげさまで 無事10周年を迎えることができました。今まで、高崎地区はもちろんのこと、県内外のボーイスカウト関係者の皆さまに、たくさんのご支援をいただいてここまでやってこられました。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

私たちは、旧松井田地区、安中地区を活動地域の中心とし、毎月2回程度ですが、スカウトも指導者も、そして保護者も仲良く楽しく活動しています。知る人ぞ知る「親父隊」は緑の下の力持ちで、力強い協力をしてくれます。そして、何といたっても松井田第一団の自慢は、素直で元気でノリのよいスカウトです。このスカウトとともにスカウト活動のよさをたくさんの人に伝えていきたいと思っています。 三指

団委員長 岩井 茂
育成会長 小黒さゆり
団委員 橘 勢太、樋口倫子

○ ビーバー隊(指導者 2名 スカウト 2名)

隊長 安藤由紀子
副長 布施比呂美

○ カブ隊(指導者 2名 スカウト 9名)

隊長 山崎 裕子
副長 井口貴富美

○ ボーイ隊(指導者 4名 スカウト 10名)

隊長 金井 寛美
副長 中川実佳子、佐野 博之、石井修司

○ ベンチャー隊(指導者 2名 スカウト 12名)

隊長 佐野 博之
副長 金井 寛美

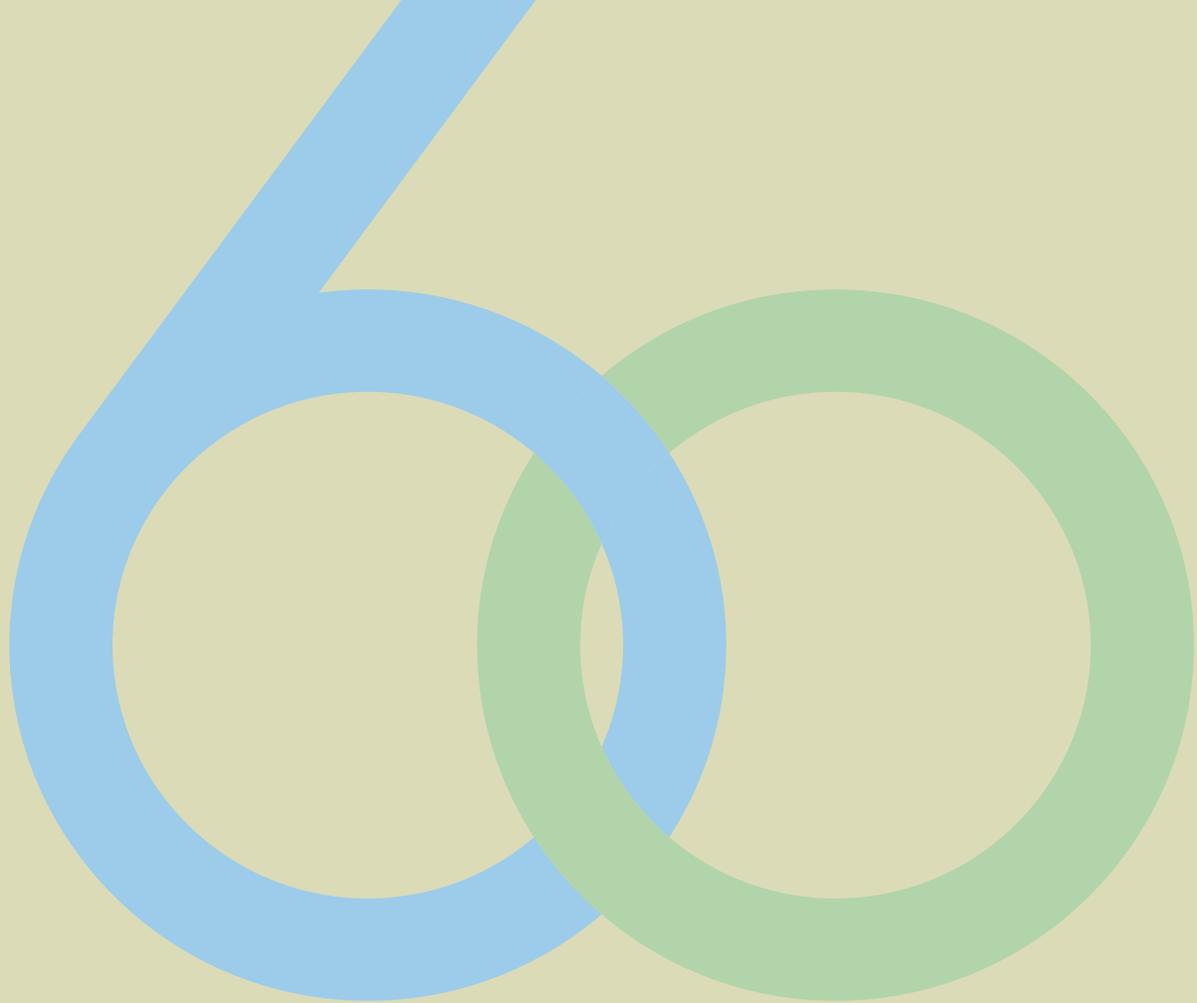


ボーイスカウト高崎地区新町第1団

団委員長	内山政治
活動拠点	新町於菊稻荷神社広場
登録人数	指導者（6人）スカウト（19人）
隊の構成	ビーバー隊（3人）カブ隊（7人）
	ボーイ隊（6人）ベンチャー隊（3人）

団の紹介

大正11年新町義勇団として結成され 群馬県ボーイスカウト活動発祥の地で再出発して楽しく活動しています。
集会広場には、ボーイスカウト発祥の碑があります。



A n n i v e r s a r y
Gunma Council, Scout Association of Japan

群馬県連盟各団紹介
〈前橋地区〉



前橋第1団



ボーイスカウト前橋第1団 発団60年記念式典

2009年3月8日 前橋カトリック教会

昭和20年8月5日、前橋市は空襲を受けました。空から落ちてくる焼夷弾により市の中心部や周辺は焼け、700人を越える方が亡くなりました。

直後に撮影された写真が、前橋市大手町の臨江閣で開かれている「前橋空襲と都市の復興」展で見ることが出来ます（平成22年3月31日まで）。

その中の1枚に、焼け野原の中にポツンと前橋カトリック教会の2つの尖塔が立っているのが写っています。

この焼け野原から4年後、昭和24年8月に、この前橋カトリック教会において我が団は設立されました。

発団から60年を迎えた今年の3月8日に、発団の地、前橋カトリック教会で、大勢の先輩やボーイスカウト関係者、我が団と同時に発団したガールスカウト群馬第5団など多くの方をお招きし、発団60年記念式典を行うことができました。

60年記念式典の準備中に、発団20周年の時に作成された発団の経緯を記した文書を見つけ、式典当日に参加された先輩たちにお配りしました。

これを見ると、戦後まもなくの時期に、青少年の健全育成に多くの大人たちが情熱を持って取り組まれたことが分かります。

今まで多くのスカウトや指導者が団の活動をつないできて呉れました。

私たちは、これからもこの灯を消すことなく75年、100年と引き継いで行こうと思います。

ホームページ：<http://www.nextftp.com/boyscout-maebashi1/>



ボーイスカウト前橋第3団

前橋第3団は1975年前橋第1団から分封して以来、多くの先輩諸氏、歴代の指導者の手により築き上げられ、素晴らしいスカウトを数多く輩出しています。

「スカウト運動の火を灯すために“大空高くそびえ立つ、赤城の山を仰ぎ見て、人と世のために奉仕する、力を常に養わん、我らボーイスカウト前橋3団”」

(星野忠夫初代団委員長)を発団当初のモットーとして、全員が一步前進の気概を持って日々努力・体験を重ねた結果、多くのスカウト諸君、指導者諸氏により素晴らしい感動、楽しい思い出等々宝物がたくさん蓄積されました。

現代のボーイスカウトを取り巻く環境は大きく変化しており、前橋3団の活動も原点を見つめ直し、静かに問いかける時期にきています。

前橋3団のプログラムの基本方針は以下の通りです。

「プログラムを企画する場合、ストーリーの中にイントロ(序奏)があり、クライマックス(山場)を求め、エンディングをどうするか、そしてそれぞれのフレーズ(項目)ではスカウトにしっかりと記憶されるようにします。

プログラムをうまく持って行かないと時間とともにそれは消えて行ってしまいます。

感動はスカウト一人ひとりに与える必要があり、そのコンポーネント(構成要素)は、スカウト個々の行動の中から感情の高揚を引き出すように演出します。

シナリオは指導者全員が共通理解のもとでそれぞれの役務で全員が最善を尽くすことによりスカウティングのドラマは展開されます。」

保護者を交えた皆で心地良い汗を流せば、その喜びは大になりスカウティングに対する熱意は持続します。

スカウトも指導者も成し遂げた喜びを味わいながら成長を図りましょう。

ボーイスカウト前橋第五団

発 団 昭和38年5月

伝 統 子供たちにスカウティングを楽しんでもらうためには、
指導者自身が楽しむことが第一

活動場所 ベイシア文化ホール（県民会館）東 日吉町1号公園

活 動 指導者たちのユニークなアイデアと子供たちのニーズ
を織り交ぜて、常に新しいプログラムを生み出し楽しく
活動しています。

スカウティングの楽しさを、自然体験を通じて心身のたく
ましさや自立心・忍耐力を養っていくこと。

団員全体の結束が非常に強いのが特徴

ビーバー 隊長 川上 基喜

カ ブ 隊長 佐藤 圭介

ボーイ 隊長 箱田 敦

ベンチャー隊長 中野 敏彦

団 委 員 長 丸山 聖人

育 成 会 長 五明 芳男



ボーイスカウト前橋第7団

育成会長 高橋和男 団委員長 近藤賢二



ボーイスカウト前橋第7団の歴史は、昭和44年8月11日から始まりました。当時、前橋第5団から前橋第6団、前橋第7団が分封する形でスタートしました。また育成母体として「ボーイスカウト前橋みやま育成会」も発足し草創期から現在に至るまで物心両面にわたり大変ご尽力をいただいています。

その後、前橋第6団と前橋第9団を統合することとなりましたが、現在約100名のスカウト、リーダー、団委員が登録されており、前橋公園、渋川市の橘山を拠点に活動を続けていますが、合同プログラムも数多くあります。新年拝賀式にはじまり、もちつき大会、スキー教室、赤城山冬季舎営、団キャンプ、クリスマス会等々。

こうしたプログラムの継続は、リーダーの献身的な協力はもとより、団委員の裏方の下支え、保護者の理解があつての賜物です。

また各隊では、それぞれが趣向を凝らした独自のプログラムを展開しており、カブ隊では、春4月に30キロのオーバーナイトハイクを実施し、強い精神力とスカウト同士の友情を深めています。リーダーや保護者の参加も多く、それぞれが仲間としての絆を深めています。何かを成し遂げる「達成感」を育み、毎年多くの感動を残してくれています。

特にボーイ隊では4年毎に遠征キャンプを実施しています。これまで、新潟県佐渡島、北海道稚内、宮城県気仙沼、福島県磐梯山など、スカウト、リーダーに数々の思い出と経験を残してくれています。スカウトは、キャンプで一廻りも二廻りも成長を遂げてくれます。またこれらの遠征キャンプは、後に続く後輩スカウトやリーダーにとっても良き道標となっており、目標でもあります。

素晴らしき、我が前橋第7団に栄光！！

【団委員長 近藤賢二】

前橋第15団(前橋城南)

15周年記念式典



ビーバー・カブ隊 大猿山の家 21.8



ボーイ隊 県野営 21.8



ベンチャー隊 赤城キャンプ 21.9

団の設立経緯

平成8年4月前橋第3団より分封し前橋東部地域を活動拠点として設立しました。
設立時は、ビーバー隊とカブ隊でスタート

主な活動拠点

前橋総合運動公園(前橋市荒口町) 団スカウトハウス(前橋市勝沢町)

使用公民館

城南公民館・桂萱公民館

隊の構成

ビーバー隊・カブ隊・ボーイ隊・ベンチャー隊

団名の通称

地域名を通称として使用「ボーイスカウト前橋城南」

団の連絡先(団委員長・中曾根 秀)

前橋市二之宮町1134 電話027-268-2794

楽しいホームページ <http://bsmaebasi15.web.fc2.com/>

渋川2団



渋川2団は、昭和45年（1970年）に、カブ隊・ボーイ隊で発団。その後、ビーバー隊・ベンチャー隊も発足。以来、40周年を迎えます。

団委員長は、初代 川島 尚（～平成元年）、2代 狩野 文二（～平成16年）を経て平成17年より3代 川島 理が担当して活動しております。

活動場所 カブ・ビーバー隊：真光寺・古巻公民館 ボーイ隊：野外訓練（キャンプなど）中心。ベンチャー隊：自主的活動と多彩な活動を行っています。

発団当初は、子供の数も多く活動しておりました。その後、子供の減少や生活の多様化もあり、徐々にスカウトが減少し一時活動が停滞した時期もありましたが、指導者の熱意で徐々にスカウトも増え、活動も再び活発化してまいりました。40周年を機に更なる団の発展を期したいと、指導者一同張り切っております。

団委員長：川島 理 副団委員長：中沢 範一・津久井 実・富岡 実

団委員：杉木 浩親・神保 幸男・丸山 省二・井上 崇

リーダー：入沢 功・小林 ミチル・馬場 直光・市川 晴美

兵藤 修也・高橋 義人・高坂 圭子

前橋地区 大胡第一団 2009

団委員長：劔持平三郎



わが大胡第一団は、平成9年10月26日(日曜)前橋市河原浜町(旧大胡町)に発団し、大胡地区農業環境改善センターを拠点とし、活動をはじめました。発団にあたっては、前橋地区協議会、前橋第三団、関係者の皆様方に大変なご尽力を頂きました。足掛け12年の年月が過ぎ、改めて深い感謝の念を抱かすにはられません。さて団を立ちあげた時に一番の目標に掲げていた事は、日本ジャンボリーへの参加でした。発団翌年に秋田県森吉山麓において第12回日本ジャンボリーが開催されましたが生まれたての団のため、スカウト・隊・団が育っていませんでした。当初は、ビーバースカウト4名・カブスカウト8名・ボーイスカウト2名でカブ隊ビーバー隊の2隊ではじまったのですから、無理もないことです。しかし、発団5年目ついにこの日がやって来ました。2002年8月大阪・舞洲スポーツアイランドにて第13回日本ジャンボリーが開催され、わが大胡第一団から、はじめて日本ジャンボリーへ参加スカウトを送り出すことになりました。制服の胸には日の丸の記章が、赤のキャップと黒のネッチには風神さま雷神さまが。群馬の男子らしく凛々しさと逞しさを漂わせて。ビーバー隊・カブ隊での充実した集会・野外活動の積み重ねが4年に一度の大会に結集したのです。スカウト全員に『ジャンボリーファイアの点火の瞬間を』と願わずにはられない。

その後14NJ in 石川県珠洲市(能登半島)、2007年ボーイスカウト発祥の地、英国において第21回世界ジャンボリーが開催され、男女一名ずつの高校生スカウトが参加しました。

小さい団ながらわが団のスカウトは大きな目標に一步步近づき駆け上っているようです。

スカウトが成長し、いつの日か指導者として団に戻ってきてこそ、はじめて一人前の団と呼べるのだろうか……こころ秘かに願っています。 大胡一団よ～永遠なれ！！！！

ガッツだぜ! Numata



尾瀬ツッキング in2009 BVS&CS 隊



沼田&渋川 合同団キャンプ 谷川岳



沼田1団自修林で 木登り体験

2003年に発足した群馬県最北端の沼田第1団。四方を山々に囲まれた、自然豊かな地で伸び伸びと活動を続けています。全隊のプログラムは、郷里の魅力を再認識し、自然の力を借りて心と体を鍛えることを意識して企画されます。

発団当初は、カブ隊60名の大所帯。手探りだがむしゃらに過ぎ去った数年間。ボーイ隊へ上進しても、部活との兼ね合いが困難で、退団するスカウトたちに歯止めをかけられぬまま、入隊者の確保に苦しみ、団の存続問題まで5年とかかりませんでした。

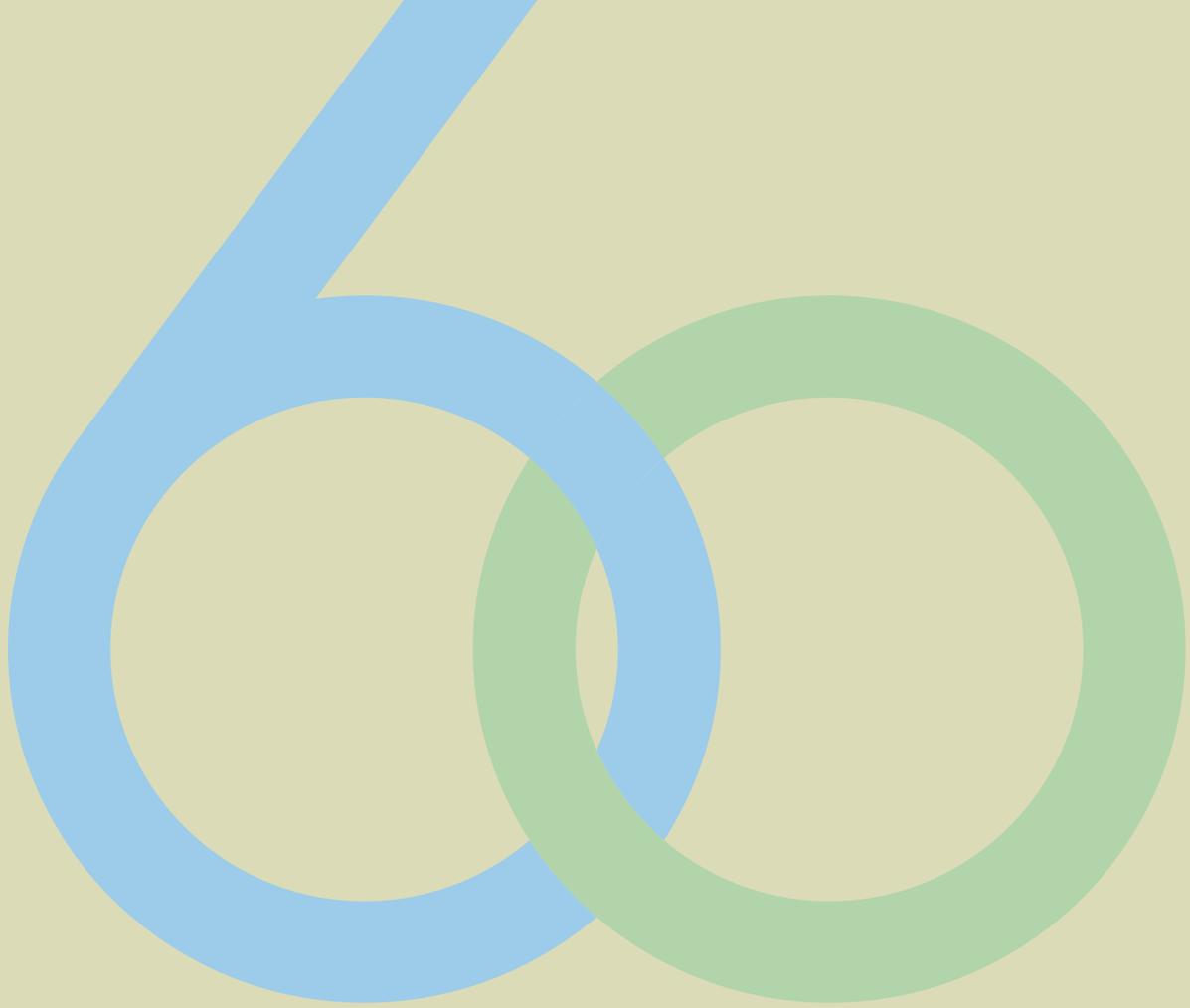
しかし、時代の激流を遡る勢いで、再生を目標にしているのが「今この時」だと思います。活動を心待ちにしているスカウトたちの輝く瞳に励まされる指導者。

無垢な心で、スカウトと共に楽しむ活動。地道な努力と、指導者の姿勢に共感する大人たちが輪を作り始め、ボーイスカウトを取り巻く環境が整い始めている感があります。

今年7月に行った尾瀬ハイキング。可憐な花々との出会い、マスコット隊を先頭に辛い階段を上りきった達成感は、喜びとなり、「自信」に繋がってほしいと願っています。

沼田第1団は、これからもスカウトの精神を貫きながら、邁進したいと思います。山あり、谷あり。スカウトの道も険しいですが、決して焦らず、着実な足並みで「沼田らしさ」をモットーに一步ずつ前進することを目指します。

それが、私達大人にできる日本社会への最大の貢献と信じているからです。



A n n i v e r s a r y
Gunma Council, Scout Association of Japan

資 料





年表 群馬のボーイスカウト 10年の歩み

2000(平成12)年～2009(平成21)年

西 暦	元 号	群馬県連盟の動き
2000 年	平成 12 年	<ul style="list-style-type: none"> 第10回群馬カブラリー 6月 国立赤城青年の家 1,237名 第11回日本ベンチャー 大分県久住高原 53名 指導者養成 指導者講習会 4地区 144名 BVS課程第11期 12名 CS課程第29期 12名 BS課程 第25期 11名 VS課程第 1期 14名
2001 年	平成 13 年	<ul style="list-style-type: none"> 第26回群馬県野営大会「奥利根キャンポリー」 8月 県立森林公園「21世紀の森」(沼田市・川場村) 600名 カブ・ビーバー 500名 指導者養成 指導者講習会5回 123名 BVS課程第12期 14名 BS課程第26期 14名 団運営関東第5期 40名
2002 年	平成 14 年	<ul style="list-style-type: none"> 第13回日本ジャンボリー 8月 大阪府舞洲 324名 第20回世界スカウトジャンボリー 12月 タイ王国チョンブリ県 46名(日本派遣団1,261名) 機構改革 県連理事各地区均等、6委員会を4委員会に統合 指導者養成 指導者講習会4回 88名 BVS課程第13期 12名 CS課程第30期 20名 BS課程 第27期 8名
2003 年	平成 15 年	<ul style="list-style-type: none"> 日本連盟平成15年度年次総会 5月 群馬県民会館 第11回群馬カブラリー 7月 桐生市水道山公園 800名 第8回群馬県ベンチャースカウト大会 8月 富士山 群馬県ボーイスカウト振興県議会議員連盟設立 指導者養成 指導者講習会4地区 129名 BVS課程第14期 10名 CS課程第31期 12名 BS課程第28期 7名 VS課程第 2期 9名
2004 年	平成 16 年	<ul style="list-style-type: none"> 第6回日本ベンチャー 8月 陸上自衛隊第12旅団相馬ヶ原演習地 子供の居場所づくり事業(文部科学省) 19団参加 指導者養成 指導者講習会4地区 104名 CS課程第32期 17名 BS課程第29期 9名
2005 年	平成 17 年	<ul style="list-style-type: none"> 第27回群馬県野営大会「榛名キャンポリー」 8月 陸上自衛隊第12旅団相馬ヶ原演習場 子供の居場所づくり事業(文部科学省)第2年度 9団参加 指導者養成 指導者講習会4地区 115名 BVS課程第15期 6名 CS課程第33期 11名 BS課程 第30期 12名 団運営関東9期 28名



A n n i v e r s a r y ; G U N M A

2006年	平成18年	<ul style="list-style-type: none"> 第14回日本ジャンボリー 8月 石川県珠洲市 266名 第12回群馬カブラリー 10月 館林市 853名 子供の居場所づくり事業(文部科学省)第3年度 3団参加 指導者養成 指導者講習会3回 BVS課程第16期 7名 CS課程第34期 20名 BS課程 第31期 12名 VS課程第 3期 6名
2007年	平成19年	<ul style="list-style-type: none"> 第21回世界スカウトジャンボリー 7・8月 英国エセックス州ハイランズパーク 36名(日本派遣団1, 510名) 指導者養成 指導者講習会4回 47名 CS課程第35期 12名
2008年	平成20年	<ul style="list-style-type: none"> 第9回群馬県ベンチャー大会 7月 岩手県山田町 65名 団委員長懇話会 12月 群馬県青少年会館 指導者養成 ボーイスカウト講習会3回 55名 BVS課程第17期 6名 BS課程第32期 12名 CS課程 第36期 12名
2009年	平成21年	60周年記念事業 <ul style="list-style-type: none"> 第13回群馬カブラリー 5月 高崎観音山ファミリーパーク 第28回群馬県野営大会 8月 前橋市粕川町サンデンフォレスト 記念祝賀会 11月 群馬ロイヤルホテル 記念式典・講演会 11月 グリーンドーム



群馬のベンチャー富士スカウト

(平成 12 年度以降)

年度	氏 名	所 属 団
1 2	濱 野 健 一	太田第 10 団
1 3	大 部 隼 人	太田第 10 団
1 5	浅野目 智 基	太田第 10 団
	高 橋 祐 介	前橋第 3 団
1 6	中 沢 俊 介	桐生第 3 団
	藤 川 勝 将	桐生第 8 団
	高 橋 大 樹	安中榛名第 1 団
	磯 貝 翼	高崎第 7 団
1 7	正 田 将 史	高崎第 18 団
	清 水 啓 介	安中榛名第 1 団
1 8	浅 井 菜 穂	桐生第 17 団
1 9	落 合 琢 磨	高崎第 7 団



表彰関係（50周年記念誌以降）

日本連盟表彰

たか章

平成 13 年	山川 巖	高崎地区	平成 14 年	島田 保彦	桐生地区
平成 16 年	(故)重原 進	前橋地区	平成 17 年	田部井保夫	太田地区
平成 17 年	松崎 栄一	桐生地区	平成 20 年	稲垣 稔	太田地区
平成 21 年	奈良橋俊宏	太田地区			

かっこう章

平成 12 年	稲垣 稔	太田地区	平成 13 年	吉田 節子	桐生地区
平成 13 年	富田 政男	高崎地区	平成 13 年	南波 正夫	前橋地区
平成 14 年	今井 健介	前橋地区	平成 14 年	彦部 雪夫	桐生地区
平成 15 年	松井 隆	桐生地区	平成 15 年	江原 毅	桐生地区
平成 16 年	工藤 弘子	高崎地区	平成 16 年	磯部 直正	前橋地区
平成 16 年	横須賀邦一	桐生地区	平成 17 年	内藤 清	高崎地区
平成 17 年	平野 隆志	前橋地区	平成 17 年	江原 一郎	前橋地区
平成 18 年	野口 實	太田地区	平成 18 年	川山 豪彦	高崎地区
平成 19 年	小松 俊一	前橋地区	平成 19 年	田村 忠之	桐生地区
平成 19 年	河内 正美	桐生地区	平成 20 年	田子 忠雄	高崎地区
平成 20 年	小笠原和彦	太田地区	平成 21 年	丸山 聖人	前橋地区
平成 21 年	國時 武	高崎地区			

日本連盟感謝章

特別感謝章	平成 19 年	新藤 信夫	桐生地区
感謝盾	平成 21 年	新藤 信夫	桐生地区

団 50 年章授与団

平成 19 年	太田第 5 団	平成 20 年	高崎 7 団
平成 21 年	館林第 1 団		



群馬県連盟表彰

県連盟特別有功章

平成 12 年	清水 清治	太田地区	平成 12 年	森田 健子	前橋地区
平成 12 年	高山 孝	太田地区	平成 16 年	山田 宏	太田地区
平成 16 年	上山 明	桐生地区	平成 16 年	新井 三知夫	高崎地区
平成 17 年	大西 勇一	太田地区	平成 18 年	高桑 幸望	太田地区
平成 18 年	原 義裕	太田地区	平成 20 年	上西 正久	太田地区

県連盟感謝章

平成 12 年	飯塚伸六	おにし野外活動センター所長	平成 14 年	青木 龍峰	金龍寺住職
平成 16 年	高井 健二	前 群馬県教育長	平成 17 年	福田 實	前振興財団理事長

県連盟有功章

<p>平成 1 2 年</p> <p>武田 克男 太田地区 木村 早苗 太田地区 落合 明祐 太田地区 清水 宗作 桐生地区 鈴木 博 桐生地区 出口 孝二郎 桐生地区 岸和田 豊 桐生地区 阿久津 博之 桐生地区 牧田 忠久 高崎地区</p> <p>平成 1 3 年</p> <p>三留 毬子 太田地区 堤 順一 太田地区 金井 隆秀 太田地区 佐藤 信夫 太田地区 嶋村 浩一郎 桐生地区 荒井 秀夫 桐生地区 八木 健 桐生地区 内田 八千代 前橋地区 吉田 稔 前橋地区 丸山 省二 前橋地区 中澤 範一 前橋地区</p>	<p>平成 1 4 年</p> <p>大川 由明 太田地区 小林 一雅 太田地区 青木 講一 桐生地区</p> <p>平成 1 5 年</p> <p>天笠 邦夫 太田地区 渡辺 一雄 太田地区 岡田 晃 太田地区 堀本 千恵子 太田地区 西内 憲司 桐生地区 清水 修 桐生地区 高松 富雄 桐生地区 知久 雅弘 前橋地区 中曾根 秀 前橋地区</p> <p>平成 1 6 年</p> <p>小山 敏夫 桐生地区 碓井 建文 前橋地区 竹 伸夫 前橋地区 関 幸子 前橋地区 吉井 宏文 高崎地区 石田 哲博 高崎地区 神宮 武久 高崎地区 橋爪 武士 高崎地区</p>	<p>平成 1 7 年</p> <p>小谷野 仁志 太田地区 毒島 征子 桐生地区 小倉 豊人 前橋地区 渡辺 保 前橋地区 伊藤 一明 前橋地区 箱田 敦 前橋地区 北澤 由起夫 前橋地区</p> <p>平成 1 8 年</p> <p>内田 雅行 太田地区 西牧 秀乗 桐生地区 関口 茂 前橋地区</p> <p>平成 1 9 年</p> <p>早川 千恵子 太田地区 関口 達夫 桐生地区</p> <p>平成 2 0 年</p> <p>石井 悦男 太田地区 荻原 幸雄 前橋地区</p> <p>平成 2 1 年</p> <p>舩津 保雄 前橋地区</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



群馬県連盟加盟員の推移

(平成 11 年度～20 年度 の各年度末)

年度		1 1	1 2	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0
団 数		59	59	59	57	55	53	52	52	49	49
団委員		496	486	477	459	461	447	442	413	418	400
ビー バー 隊	隊	49	50	45	44	45	45	42	40	37	34
	リーダー	175	143	141	144	153	144	139	148	135	127
	スカウト	410	379	357	363	445	340	329	275	262	238
カブ 隊	隊	54	51	53	53	51	49	49	47	42	42
	リーダー	381	304	287	271	267	279	272	248	197	206
	スカウト	768	730	680	668	700	753	720	598	527	478
ボー イ 隊	隊	52	49	52	52	51	49	49	47	44	44
	リーダー	158	177	171	167	167	155	162	163	159	159
	スカウト	706	677	614	593	529	554	529	498	494	480
ベン チャ ー隊	隊	32	37	34	36	36	37	31	32	32	31
	リーダー	48	54	57	56	64	62	55	66	66	65
	スカウト	269	304	270	237	237	254	245	225	211	211
ロー バー 隊	隊	19	19	18	18	19	18	17	17	18	18
	リーダー	56	60	65	68	67	48	39	34	35	35
	スカウト	209	208	186	186	183	177	130	135	156	155
リーダー計		1,244	1,224	1,198	1,173	1,180	1,136	1,109	1,072	1,010	992
スカウト計		2,362	2,298	2,107	2,047	2,094	2,078	1,954	1,731	1,650	1,562
合 計		3,606	3,523	3,306	3,221	3,274	3,214	3,063	2,804	2,661	2,555
対前年増減		△117	△83	△217	△85	+53	△60	△151	△258	△143	△106
対前年比		96.8	97.6	93.8	97.4	101.6	98.1	95.3	91.5	94.9	96.0

(参考) 創立時からの60年間の加盟員数の推移(各年度末)

年度	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	3 1	3 2	3 3
加盟員数	426	613	1,186	1,318	1,711	1,207	1,151	1,069	871	950
年度	3 4	3 5	3 6	3 7	3 8	3 9	4 0	4 1	4 2	4 3
加盟員数	1,110	1,259	1,299	1,457	1,738	1,791	1,781	1,775	1,525	1,774
年度	4 4	4 5	4 6	4 7	4 8	4 9	5 0	5 1	5 2	5 3
加盟員数	2,022	2,177	2,426	2,485	2,881	3,152	3,305	3,711	3,892	4,213
年度	5 4	5 5	5 6	5 7	5 8	5 9	6 0	6 1	6 2	6 3
加盟員数	4,191	4,301	4,450	4,553	4,947	4,939	4,851	4,904	4,988	4,736
年度	H 1	2	3	4	5	6	7	8	9	1 0
加盟員数	4,378	4,124	4,077	4,018	3,996	3,812	3,839	3,801	3,720	3,724
年度	1 1	1 2	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0
加盟員数	3,606	3,523	3,306	3,221	3,274	3,214	3,063	2,804	2,661	2,555



群馬県連盟歴代役員

職	1 2 年度	1 3 年度	1 4 年度	1 5 年度	1 6 年度
連盟長	小寺 弘之	小寺 弘之	小寺 弘之	小寺 弘之	小寺 弘之
副連盟長	渋木 羨夫 根岸 努 新藤 信夫	渋木 羨夫 根岸 努 新藤 信夫	渋木 羨夫 根岸 努 新藤 信夫	渋木 羨夫 根岸 努 新藤 信夫	新藤 信夫 金井 英文
理事長	金井 英文	金井 英文	金井 英文	金井 英文	稲垣 稔
副理事長	稲垣 稔 今井 健介 松井 隆	稲垣 稔 今井 健介 松井 隆	稲垣 稔 今井 健介 松井 隆	稲垣 稔 今井 健介 松井 隆	今井 健介 松井 隆 田子 忠雄
事務局長	津久井 滋	竹田 賢一	野口 實	野口 實	野口 實
理事	小暮 雅丈 河内 正美 平野 隆志 茂原 幸夫 新井 章信 野口 實 彦部 雪夫 吉田 節子 井上 藤男 金子 章 小野里清治 中嶋 正義 小根澤敏雄 川山 豪彦 田子 忠雄 津久井 滋	奈良橋俊宏 河内 正美 平野 隆志 内藤 清 新井 章信 野口 實 彦部 雪夫 吉田 節子 井上 藤男 金子 章 南波 正夫 中嶋 正義 小根澤敏雄 谷口喜久雄 内山 政治	奈良橋俊宏 河内 正美 南波 正夫 内藤 清 新井 章信 手塚 和義 後藤 和俊 横須賀邦一 平野 隆志 丸山 聖人 中嶋 正義 須藤 忍 江原 一郎 野口 實	奈良橋俊宏 河内 正美 南波 正夫 内藤 清 新井 章信 手塚 和義 後藤 和俊 横須賀邦一 平野 隆志 丸山 聖人 中嶋 正義 須藤 忍 江原 一郎 野口 實	奈良橋俊宏 河内 正美 渡辺 保 内藤 清 新井 章信 小沼 國幹 後藤 和俊 横須賀邦一 平野 隆志 丸山 聖人 須藤 忍 工藤 郁二 野口 實
名誉会議員	田部井保夫 島田 保彦 星野 忠夫 金井 佐傳	田部井保夫 島田 保彦 星野 忠夫 金井 佐傳	田部井保夫 島田 保彦 星野 忠夫 金井 佐傳	田部井保夫 島田 保彦 星野 忠夫 金井 佐傳	田部井保夫 島田 保彦 星野 忠夫 金井 佐傳
監事	高橋 和男 松崎 栄一	高橋 和男 松崎 栄一	高橋 和男 松崎 栄一	高橋 和男 松崎 栄一	松崎 栄一 中嶋 正義
県コミ	小沼 國幹	小沼 國幹	小沼 國幹	小沼 國幹	江原 一郎
県副コミ	工藤 郁二 江原 一郎	江原 一郎 川山 豪彦	江原 一郎 川山 豪彦 小松 俊一	川山 豪彦 小松 俊一	川山 豪彦 小松 俊一 田村 忠之



職	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
連盟長	小寺 弘之	小寺 弘之	小寺 弘之	大澤 正明	大澤 正明
副連盟長	新藤 信夫 金井 英文	新藤 信夫 金井 英文	新藤 信夫 金井 英文	新藤 信夫 稲垣 稔	新藤 信夫 稲垣 稔
理事長	稲垣 稔	稲垣 稔	稲垣 稔	江原 一郎	江原 一郎
副理事長	今井 健介 松井 隆 田子 忠雄	今井 健介 松井 隆 田子 忠雄	今井 健介 松井 隆 田子 忠雄	今井 健介 河内 正美 内藤 清	今井 健介 河内 正美 内藤 清
事務局長	野口 實	中澤 範一	中澤 範一	中澤 範一	中澤 範一
理事	小沼 國幹 高松 富雄 渡辺 保 工藤 郁二 新井 章信 沖田 俊道 河内 正美 横須賀邦一 平野 隆志 丸山 聖人 内藤 清 須藤 忍 野口 實	小沼 國幹 高松 富雄 渡辺 保 工藤 郁二 沖田 俊道 小笠原和彦 河内 正美 横須賀邦一 平野 隆志 丸山 聖人 内藤 清 國時 武 野口 實	小沼 國幹 高松 富雄 渡辺 保 神宮 武久 小笠原和彦 原 義裕 横須賀邦一 河内 正美 新藤 洋一 平野 隆志 丸山 聖人 内藤 清 國時 武	大川 由明 高松 富雄 渡辺 保 神宮 武久 小笠原和彦 原 義裕 横須賀邦一 新藤 洋一 丸山 聖人 中曾根 秀 平野 隆志 國時 武 林 高行 中澤 範一	大川 由明 金澤 孝吉 中野 敏彦 神宮 武久 小笠原和彦 原 義裕 横須賀邦一 新藤 洋一 舩津 保雄 中曾根 秀 平野 隆志 國時 武 林 高行 中澤 範一
名誉会議員	田部井保夫 島田 保彦 星野 忠夫 金井 佐傳	田部井保夫 松井 隆 星野 忠夫 金井 佐傳			
監事	松崎 栄一 中嶋 正義	松崎 栄一 須藤 忍	松崎 栄一 須藤 忍	松井 隆 田子 忠雄	松井 隆 田子 忠雄
県コミ	江原 一郎	江原 一郎	江原 一郎	奈良橋俊宏	奈良橋俊宏
県副コミ	川山 豪彦 小松 俊一 田村 忠之	川山 豪彦 小松 俊一 田村 忠之 奈良橋俊宏	川山 豪彦 小松 俊一 田村 忠之 奈良橋俊宏	田村 忠之 川山 豪彦 小松 俊一	田村 忠之 川山 豪彦 小松 俊一



平成21年度 (財)群馬県ボーイスカウト振興財団役員名簿

役 務	氏 名	役 務	氏 名	役 務	氏 名
理事長	稲垣 稔	理 事	金井 英文	理 事	小松 俊一
副理事長	江原 一郎	〃	今井 健介	〃	國時 武
〃	芝 基紘	〃	河内 正美		奈良橋俊宏
常務理事	中澤 範一	〃	内藤 清	監 事	中嶋 正義
理 事	新藤 信夫	〃	手塚 和義	〃	須藤 忍

評議員

星野 忠夫	神宮 武久	新藤 洋一	林 高行	市川 幸宏
大川 由明	小笠原和彦	丸山 聖人	小沼 國幹	青木 講一
高松 富雄	原 義裕	平野 隆志	川山 豪彦	吉田 稔
渡辺 保	横須賀邦一	中曾根 秀	田村 忠之	藤井 春俊

群馬県連盟名誉役員

役 務	氏 名	役 務	氏 名	役 務	氏 名
顧 問	中曾根康弘	相談役	高橋 和男	参 与	森田 賢一
〃	中曾根弘文	参 与	上山 明	〃	江原 毅
〃	福田 實	〃	高橋 亜夫	〃	磯部 直正
〃	金井 英文	〃	新井三知夫	〃	茂原 幸夫
相談役	桜井 玉寿	〃	山川 巖	〃	劔持平三郎
〃	北条 富司	〃	斉藤 久雄	〃	小野里清治
〃	小内 安蔵	〃	清水 清治	〃	新井 章信
〃	村沢 信夫	〃	内田 忠幸	〃	中嶋 正義
〃	竹田 賢一	〃	吉井 良弘	〃	工藤 郁二

群馬県連盟トレーニングチーム ◎ディレクター ○サブディレクター

◎平野 隆志	小笠原和彦	南波 正夫	渡辺 保	須藤 欣司
○中野 敏彦	田村 忠之	江原 一郎	吉田 稔	清水 圭子
○碓井 健文	高松 富雄	今井 健介	石関美千代	日山 隆夫
花岡 史子	久保田順一	丸山 聖人	竹 伸夫	中村 光一
河田 友和	新藤 洋一	小松 俊一	川山 豪彦	金井 一浩
大川 由明	小堀 剛	知久 雅弘	藤井 春俊	箱田 敦

地 区 協 議 会 役 員

地 区 名	協議会長	地区委員長	コミッショナー	事務長
太田 地区	手塚 和義	大川 由明	市川 幸宏	高桑 幸望
桐生 地区	横須賀邦一	金澤 孝吉	新藤 洋一	川合 宏一
前橋 地区	小松 俊一	中野 敏彦	吉田 稔	山賀 貴志
高崎 地区	吉井 良弘	神宮 武久	藤井 春俊	吉井 宏文



歴代事務局長（創立～現在まで）

年度	氏名	年度	氏名	年度	氏名	年度	氏名
昭和24年	小井戸 哲夫	昭和40年	吉川 亀吉	昭和56年	青山 寿延	平成9年	津久井 滋
25	〃	41	〃	57	竹田 賢一	10	〃
26	〃	42	小野里和四郎	58	〃	11	〃
27	星野 宏	43	〃	59	〃	12	〃
28	〃	44	〃	60	〃	13	竹田 賢一
29	〃	45	〃	61	〃	14	野口 實
30	後藤 竜堂	46	〃	62	〃	15	〃
31	〃	47	〃	63	〃	16	〃
32	〃	48	〃	平成元年	〃	17	〃
33	櫻井 玉寿	49	柳田 栄一	2	〃	18	中澤 範一
34	〃	50	〃	3	〃	19	〃
35	北條 富司	51	〃	4	郡司 博	20	〃
36	吉川 亀吉	52	〃	5	〃	21	〃
37	〃	53	〃	6	〃		
38	〃	54	〃	7	津久井 滋		
39	〃	55	青山 寿延	8	〃		

県連事務局の変遷

創立当時の事務局は、小井戸局長の自宅に置き、その後も事務局長宅が事務局を兼ねた時期もあったが、昭和26年県庁前の群馬会館へ移転、一時県婦人会館へ移ったが、その後現在の場所へ移転し、今日に至っている。

昭和57年県連加盟員の浄財を募り、現在の群馬県青少年会館へ移転となったが、以来28年諸先輩の努力により今日まで、無事県連業務の事務執行を担ってきた。

私事で恐縮ですが、昭和26年当時ボーイスカウトだったが、県連に名前は残っているのか、興味を持っていたが書庫の中にきちんとファイルされ、日本連盟加盟隊登録名簿に「北群馬第八隊」に私の名前が記載されていた。

当時、群馬会館左前の建物(現前橋合同庁舎)には星条旗が翻っていたのを記憶している。

星野先達(事務局長)は流暢な英語でよく、進駐軍や県との折衝に奔走していたと聞いていた。

半世紀以上に亘り多くの貴重な財産である資料を整理保管された、先輩のご努力に敬意を表し、事務局預かる者として大切に後世に残せるよう務めてゆく所存です。

今後も理事長の指示のもと、県連事務局として円滑な、業務の運営に努力してまいります。

事務局長 中澤範一

事務局職員 高橋鮎子



平成 21 年度 加盟登録団連絡先

地 区	団号	団委員長名	〒	連絡先	電話
太 田	2	金井 英文	373-0057	太田市本町 15-11	0276-22-6311
	3	奈良橋俊宏	373-0819	太田市新島町 820	0276-45-0447
	5	津久井義雄	373-0027	太田市金山町 19-3	0276-22-3495
	6	木村 悦之	373-0004	太田市強戸町 290 岡部堅二方	0276-37-2753
	7	手塚 和義	373-0808	太田市石原町 396-9 清水英男方	0276-46-2409
	8	野口 実	373-0021	太田市東今泉町 358-3	0276-25-2068
	7 7	岡田 晃	370-0416	太田市尾島町前島 56-1	0276-52-1722
大 泉	4	高山 孝	370-0534	邑楽郡大泉町丘山 6-7	0276-62-6521
	5	高桑 幸望	370-0514	邑楽郡大泉町朝日 5-9-7	0276-62-5580
邑楽町	1	原 義裕	370-0604	邑楽郡邑楽町石打 1086-1	0276-88-5092
館 林	1	小暮 雅丈	370-0044	館林市下三林町 853	0276-74-1359
明 和	1	落合 明祐	370-0703	邑楽郡明和町下黒江 164 柴崎方	0276-72-0387
桐 生	1	角田 亘	376-0013	桐生市広沢町 7-5134	0277-54-7253
	3	兵藤 英人	376-0011	桐生市相生町 3-408-3	0277-52-7577
	5	田村 敏明	376-0013	桐生市広沢町 4-2027-4	0277-54-1838
	6	相川 明	379-2203	伊勢崎市曲沢町 948	0270-63-0216
	8	荒井 秀夫	376-0023	桐生市錦町 2-5-13	0277-43-5568
	1 0	梅沢 信三	376-0013	桐生市広沢町 1-2681(株)ミツハ	0277-52-0111
	1 3	横須賀邦一	376-0004	桐生市小梅町 3-29	0277-45-0798
	1 4	田村 忠之	376-0056	桐生市宮本町 1-9-15	0277-46-0557
	1 7	関口 達夫	376-0011	桐生市相生町 2-789-8	0277-53-1570
	2 0	後藤 和俊	376-0034	桐生市東 1-11-53	0277-45-2407
大間々	1	藍原 弘之	376-0101	みどり市大間々町大間々1400	0277-73-5534
伊勢崎	1 2	後閑茂一郎	372-0012	伊勢崎市豊城町 2347	0270-24-5993



地名	団号	団委員長名	〒	連絡先	電話
藪塚	1	高橋 新一	379-2304	太田市大原町 638-20	0277-78-2823
前橋	1	小倉 豊人	371-0837	前橋市箱田町 605-2	027-252-6959
	3	森田 健子	379-2154	前橋市天川大島町 2-9-7	027-223-1493
	5	丸山 聖人	371-0103	前橋市富士見町木暮 416-4	027-288-4508
	7	近藤 賢二	371-0056	前橋市青柳町 216	027-234-5259
	1 2	森田 健子	370-0013	高崎市萩原町 950-129 渡辺方	027-353-1397
	1 5	中曾根 秀	379-2117	前橋市二之宮町 1134	027-268-2794
渋川	2	川島 理	370-0014	渋川市上原町 1772	0279-22-2421
大胡	1	剣持平三郎	371-0222	前橋市上大屋町 367-57 本多方	027-283-6903
沼田	1	林 秀彦	378-0051	沼田市上原町 1572-9	0278-23-8456
高崎	8	清水 賢次	370-0071	高崎市小八木町 1809 内藤方	027-361-7856
	1 7	吉井 良弘	370-0026	高崎市下滝町 19 慈眼寺内	027-352-8365
	1 8	國時 武	370-0851	高崎市上中居町 534-8	027-323-3242
	1 9	長谷川秀男	370-3335	高崎市下室田町 280-A-1 富田方	027-350-0839
	2 1	奥野 秀行	370-3524	高崎市中和泉町 176-8	027-350-3168
	2 2	工藤 郁二	370-0837	高崎市下横町 13-1	027-325-8806
群馬町	1	谷口喜久雄	370-3521	高崎市棟高町 1183-3	027-373-3631
玉村町	1	林 高行	370-1132	佐波郡玉村町下新田 1038-3	0270-65-8137
吉井	1	高山 峰治	370-2132	高崎市吉井町吉井 175	027-387-2559
安中榛名	1	富田 政男	370-3342	高崎市下室田町 280-A-1	027-374-5917
松井田	1	岩井 茂	379-0221	安中市松井田町新堀 2-2 安藤方	027-393-0128
新町	1	内山 政治	370-1207	高崎市綿貫町 765-2	027-346-2619



60 周年記念事業実行委員会名簿

部会	氏名	所属	部会	氏名	所属
委員長	今井 健介	前橋 7			
副委員長 (総務)	小笠原和彦	大泉 4	副委員長 (式典)	船津 保雄	前橋 3
副委員長 (祝賀会)	横須賀邦一	桐生 1 3	副委員長 (記念誌)	石田 哲博	高崎 2 1
総務	中澤 範一	渋川 2	総務	手塚 和義	太田 7
式典	新井 章信	大泉 5	式典	市川 高志	太田 7 7
式典	小林 規男	桐生 1 7	式典	金澤 孝吉	桐生 17
式典	中曾根 秀	前橋 15	式典	近藤 賢二	前橋 7
式典	國時 武	高崎 18	式典	神宮 武久	高崎 22
式典	藤井 春俊	高崎 22	祝賀会	落合 明祐	明和 1
祝賀会	木村 早苗	太田 6	祝賀会	後閑茂一郎	伊勢崎 12
祝賀会	高城 明	桐生 2 0	祝賀会	丸山 聖人	前橋 5
祝賀会	本多 浩子	大胡 1	祝賀会	内藤 清	高崎 8
祝賀会	吉井 良弘	高崎 1 7	記念誌	成塚 和瀬	太田 5
記念誌	原 義裕	邑楽町 1	記念誌	新藤 洋一	桐生 20
記念誌	嶋村浩一郎	桐生 6	記念誌	小倉 豊人	前橋 1
記念誌	桑原 和子	前橋 3	記念誌	吉井 宏文	高崎 1 8
記念誌	林 高行	玉村 1			

編集後記

還暦を迎えた群馬県連盟、第 1 回の記念事業実行委員会が開催されたのは 8 月 19 日でした。第 28 回の県野営(60 周年記念事業)が終了直後でスタッフの皆さんにはまだ疲れも残る中での委員会、11 月 7 日祝賀会、14 日記念式典の実施が決まり、したがって、2 ヶ月余で記念誌作成・配布が必須となりました。さらに、電子媒体での作成という新たな方法になったことでいきなり全開トップギヤー状態になったようなものでした。基本構成は従来の記念誌を踏襲することとし、とにかく祝辞を始め各団紹介の原稿など一刻も早く依頼すること、電子情報にする作業にすぐ取りかかること等を最優先とするなど、あっという間に時間が過ぎていきました。ということで、原稿をお願いした皆様には大変短い期限の中でお願いにご協力をいただきありがとうございますございました。あわただしくはありましたが、作業の中でいままでの貴重な資料や記念誌を見させていただき、ここに至るまでの多くの人たちの大変な努力とスカウト達の様々な体験や成長する姿を知ることができました。不備の点多々あるかと思いますが、この 60 周年記念誌がこうした皆様の努力や感動を伝え、さらに新たなあゆみを踏み出していく上で少しでもお役に立てればと祈るばかりです。ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。



記念誌担当実行委員一同